

Title	知見孔子家語諸本提要(三)
Sub Title	
Author	山城, 喜憲(Yamashiro, Yoshiharu)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1989
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.24 (1989.) ,p.1- 141
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000024-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

知見孔子家語諸本提要(三)

山城喜憲

○清人撰述注釈書類

本稿(一)(二)を承けて、中国清朝の経学者によって撰述された注釈書類四種を紹介する。所謂清朝考証学の隆昌に伴い、宋明の理学を退け、漢唐より更に先秦へと經典の真実が求められた一方で、古典の多くが後儒有意の偽撰であることが暴かれていった。閻若璩(明崇禎九八一六三六〇年生、清康熙四三八一七〇四〇年歿)の『尚書古文疏証』がかかる実証的批判的研究の端を開いた論著として周知されている。ほぼ同じ頃、姚際恒(順治四八一六四七〇年生、康熙五四八一七二五〇年歿)は『古今偽書考』経類の内に『孔子家語』を列ねている。『孔子家語』の

研究も大筋ではこの經典の実証的批判という学問の潮流に沿って為されたと言える。今回採り上げる四著のうち、姜兆錫の著書は、猶旧来の学風を存して講章的注釈に止まっているが、他は現行今本家語本文に対する懷疑より発した著述である。殊に范家相、孫志祖の両著は精確且つ該備な分析検討を加えて、家語本文偽撰の事実を考証闡明したもので、文献学上、或は思想史の面からも看過し得ない業績であろう。今日ほぼ定説となっている王肅偽撰説は此の両著の研究成果に負うところが大きい。現在に及ぶまでなおこれを凌駕する研究はなされておらず、今後の家語研究の基盤となる遺業として、十分に評価されるべきであり、また慎重な検討を必要とする。本稿に於て、

解題提要の体例をやや乱して細述する所以である。

尚、家語注釈の専著は数種が遺存するに過ぎないが、実はその外に文集雜書等に収録された解題序跋、考証論文の類の小篇があつて、それらを蒐めれば相当の分量に昇り、清朝家語学の水準を窺う為には必須の文献群とならう。ただ、本稿は著書を対象として著録するものであつて、それら小篇の論文解題等に就いては叙述の過程で必要に応じて言及するに止めた。

清代に於て注釈考論の対象となり、考証論述の根拠ともなつた家語本文のテキストは、前代に刊刻された明嘉靖三三年黃魯曾翻南宋刊本、明隆慶中陸治校刊本、明萬曆一七年序刊吳嘉謨集校本、錢受益校明末刊本、金蟠・葛籟校明末永懷堂刊本、或は何孟春編注本、そして毛晉汲古閣刊本等であらう。しかし、汲古閣刊本を除いては、一部に重印或は修印されたものの、清朝に入つて更に重刻されて流布するに至つた形迹は無い。明末清初に於て、毛晉が顕彰した宋版二種及び、その一方に拠れる翻刻である汲古閣刊本の出現は、清朝学人の家語研究に多大の刺激と便宜を供したものと推察される。四庫全書に收入写定され、重印翻刻が相継いだ事實に照して明らかであらう。これら旧刊諸本の伝流に就いては本稿(一)に於て既述した如くである。

もとより遺漏もあらうが、(一)諸言等合せて参照されたい。

家語〔正義〕 一〇卷 清姜兆錫撰 姜允重・姜允遠

校 清雍正一(一七三三)年刊(寅清樓) 先聖遺

書之一

封面有り、「丹陽姜上均正義／先聖遺書／一家語 一孔叢

本衙藏板」と題され、上辺上右から左へ「雍正十一年鐫」と刻さる。首に「家語正義序」(「雍正二年甲辰孟夏 丹陽姜兆錫恭

序)、「至聖年表正譌」及び「家語目錄」を冠す。本文卷頭

「家語卷之一」、次行低二格「姜兆錫正義 男允重校」、第三

行低二格「相魯第一(小字双行注あり)」と題し本文に入る。

四周単辺(一八・一×一二・五糧)、有界、九行行廿五字、注小

字双行行廿五字。版心白口双黒魚尾、「家語(篇名) 卷幾(丁

付)」、各卷首葉下象鼻に「寅清樓」と刻さる。句点・圈点付

刻。封面題の如く、「先聖遺書」と題して「孔叢〔正義〕五卷」

と合刊。

四庫存目著録。「兆錫乃從葛籟之本、竄亂舊次、殊爲勇於變

古。其訓釋亦似俗下。講章之體、不足以資考證。」と。

△内閣文庫蔵▽ 四冊(子2)

淡茶色表紙(二三・一×一六・二糎)、書題簽「合刻孔子家語正義元(一頁)」と墨書。各冊表紙ほぼ中央に、「趙子昂云。吁聚書藏書良匪易事。善觀書者。滌／手焚香。拂塵淨几。毋捲腦。毋折角。毋以瓜侵字。毋以唾揭幅。毋以夾刺。毋以作枕。隨損隨修。隨／開隨掩。後之得吾書者。并奉贈此法。予亦云爾。」(格^{低九})大阪府 臨照堂收藏」なる朱大長方印が捺さる。「佐伯侯毛利／高標字培松／藏書畫之印」(朱方)の印記。松井羅州(耕讀園、文政五八一八二二)年没)、毛利高標通藏。

△同藏▽ 四冊(298 22)

淡茶色表紙(二三×一六・一糎)、「孔子家語正義^{年表正論}一^{一之三}」等と墨書。第四冊は「孔叢子正義^{一之五} 全」。封面を欠く。「兼葭堂／藏書印」(朱長方)、「昌平坂／學問所」(墨長方)、「文化甲子」(朱無郭)、「淺草文庫」(朱長方)の印記あり。

△同藏▽ 三冊(298 25)

茶色表紙(二四・四×一六・二糎)、「孔子家語正義^幾」と墨書。第三冊は「孔叢子正義^{一之五} 全」。封面無し。「家語目錄」を欠き、「至聖年表正論」の次に孔叢首にあるべき「至聖像記」を配す。孔叢の一部に朱句点圈点の書入があり、末に「二月旬五一讀了」と墨識語あり。「昌平坂／學問所」(墨長

方)、「天保壬辰」(朱無郭)、「淺草文庫」(朱長方)、「大 학교／圖書之印」(朱方)、「日本／政府／圖書」(朱方)、「大日本／帝國／圖書印」(朱方)の印記。

△無窮會圖書館藏▽ 孔叢欠 二冊(真軒477) 三宅真軒旧藏書

淡茶色表紙(二四・一×一六糎)。序目順次は、「家語正義序」の次に目錄、次に「至聖年表正論」を配す。本帙は「九經補注」の附冊として架藏され、孔叢「正義」を欠く。「真軒／藏書」(朱方)の印記あり。

△東京大学文学部藏▽ 孔叢欠 二冊

後補紺色表紙(二三・三×一五・九糎)、外題無し。封面を欠く。改装の為欠落せるか。「家語正義序」の次に「至聖像記」を配す。「東京帝／国大学／圖書印」(朱方)の印記。

本書の卷立は、従前通行の王肅注本に従って、四十四篇を十卷と成す。但、首の「家語目錄」卷九の卷数下に「此下二卷、汲古閣本、以七十二弟子本姓終記正論四篇為卷九、以三曲礼篇為卷十、今按葛籛本正之」との施注がある如く、卷九・十両卷の篇次は、汲古閣本、本邦古活字版、翻南宋刊本等とは異なり、明葛籛等校「明末」永懷堂刊本の順次に倣っている(本稿(一)232

頁参照)。しかし、その永懷堂刊本の篇次を正しいと看做すべき論拠の提言は無く、「正之」との言辞には直ちに承服は出来かねる。四庫提要の「從葛肅之本竄亂舊次」との批判はこの篇次に対しての言及であろう。

また目録の卷一「王言第三」下の注に、「王言舊目作王言解此下大婚儒行五儀本命五刑冠頌廟制辨樂屈節正論本姓終記七十二弟子諸篇皆有解字今按諸解字頗無義且如冠頌正論終記之屬加一解字如何可通疑俗本率標之也今並節之」と述べ、例えば永懷堂刊本では王言解第三・大昏解第四・儒行解第五・五儀解第七・本命解第二十六・五刑解第三十・冠頌解第三十三・廟制解第三十四・屈節解第三十七・正論解第三十八・本姓解第四十二・終記解第四十三・七十二弟子解第四十四とある篇名の「解」字を悉く削除している。(但し、本文中の篇題では、五刑解、廟制解の両解字は存す、失刻であろう)。諸本を對讐校勘する手續を経ず、「按諸解字頗無義」或は「疑俗本率標之也」とのむしろ印象的論断に依る字句の改易は武断のそしりを免れない。提要が「殊為勇於變古」と批評する所以であろう。

本書の正文は、卷立から察て汲古閣刊本を始めとする王肅注諸本に近接したテキストであると推察される。しかしながら、

著者拠用の直接の底本が何本であるかは今一つ明確ではない。此の底本を推定する為には、本書注釈中の校勘注記を検証しておく必要がある。以下、此の注記を列記するが、先ず注文の對象とする正文数句を掲出して次に「正義」を冠して姜氏校勘注記の全文を示す。またその姜注に次して当該校注事項に就き諸本との同異を私に補述した。対校諸本は本書が成立した清雍正年間を考慮に入れれば、次の王肅注本四本を以って不足はないはずである。

孔氏家語一〇卷 魏王肅注 明毛晋校 「明末」〔常熟〕毛

氏汲古閣刊本

孔子家語一〇卷 魏王肅注 民国初上海商務印書館影印江南

圖書館藏明黃魯曾翻南宋刊本

孔子家語一〇卷 魏王肅注 明金蟠・葛肅校 「明末」永懷

堂刊本

孔聖家語図一一卷 「魏王肅」注 明吳嘉謨集校 明万曆一

七年序刊本

此の王注四本の外に、明末に刊行され清代前期に流布したと思われる次の通俗本四本を参照付記する。

新鐫台閣清譚補注孔子家語五卷首一卷 題明鄒德溥補注 劉

元卿校正 「明万曆」〔建陽〕喬山堂劉電田刊本

鼎鏡二翰林校正句解評釈孔子家語正印三卷首一卷 題明顧錫

疇注釈 孔貞運評林 明天啓三年序怡慶堂余完初刊本

新刻張天如大史評釈孔聖家語五卷 題明張溥注 「明末」熊

氏刊本

孔子家語八卷 明何孟春注 明永明書院刊本

以上八本、毛本、黃本、永本、吳本、鄒本、顧本、張本、何本

の略号を用いる。尚、掲出正文下（ ）内に本版の卷数、丁数、
行数、篇名を示した。

1 行之一年而四方之諸侯則焉。(一^a 1^a 7 相魯第一)

(正義) 四、一作西非。

毛本・黃本・永本・吳本並作「西」、鄒本・顧本・張本・

何本並作「四」

2 不以其道治之不可以霸王。(一^b 6^b 4 王言第三)

(正義) 霸王之上俗本有致字大戴礼無。

毛本・黃本・永本・吳本並有「致」字、鄒本・顧本・張

本・何本並闕此段

3 天下之至知者能用天下之至和也。(一^b 9^b 1 同前)

(正義) 俗本脱天下之至和二句今從大戴礼定之

毛本・黃本・永本・吳本・張本並無此二句、鄒本・顧本

・何本闕此段

4 今孔子在衛請以重幣迎之。(一^a 12^a 9 儒行第五)

(正義) 俗本今孔子在衛之下有衛將用之・已有才而以貲鄰

国難以言智也・二句非。

毛本・黃本・永本・吳本・鄒本・顧本・張本・何本並有

此二句

5 子路問于孔子曰管仲之為人何如云云不死束縛而立功名未可非
也。(二^b 4^b 5^a 6 致思第八)

(正義) 俗本節末有召忽雖死過于取仁未足多也三句非。

毛本・黃本・永本・吳本並有此三句、鄒本・顧本・張本

・何本並闕此章

6 孔子語子貢曰鄉者君問丘曰子從父命孝臣從君命貞乎賜以為何

如云云之謂孝之謂貞矣。(二^a 12^a 3^a 8 三恕第九)

(正義) 一本章首有魯哀公問于孔子曰子從父命孝乎臣從君

命貞乎三問孔子不答孔子趨出以語子貢七句。

正義云一本、与永本・吳本・何本符合、但並「答」作

「对」、毛本・黃本無此七句及本章首二十八字

7 如此二者則道不可以委也。(三^b 3^b 4 觀周第十一)

(正義) 委俗誤作忘今從說苑改正。

毛本·黃本·永本·吳本並作「忘」、鄒本·顧本·張本

·何本並闕此章

8 孔子對曰衛靈公公曰吾聞其闈門之內無別也孔子曰臣觀其朝廷行事未觀其私家之際也(三^a99)9^b2賢君第十三)

(正義) 旧本稍異從說苑本定之。

毛本·黃本·永本·吳本並作「孔子對曰丘未之見也抑有

衛靈公乎公曰吾聞其闈門之內無別而子次之賢何也孔子曰

臣語其朝廷行事不論其私家之際也公曰其事何如」

9 若夫有道下人何哉(三^b111)同前)

(正義) 何哉俗本作又誰下哉非今從永懷堂本

永本·吳本·鄒本·顧本·張本·何本並「何哉」、毛本·

黃本作「又誰下哉」

10 故天殃所宜加其廟焉是以占之為然(四^a266六本第十五)

(正義) 坊本占之為然以下有公曰天何不殃其身而加罰其廟

也孔子曰蓋以文武故也若殃其身則文武之嗣無乃殄乎故殃廟

以彰其過適我園遺本無此七句今從之。

毛本·黃本·永本·吳本有此七句、但、「故殃廟」四本

並作「故当殃其廟」。鄒本·顧本·張本·何本並闕此章

11 親親之殺尊賢之等礼所生也礼者政之本也(四^a133哀公問政第

十七)

(正義) 俗本所下有以字非永懷堂無以字与中庸合今從之。

永本·吳本·鄒本·顧本·張本並無「以」字、毛本·黃

本有「以」字

12 叔孫武叔問未仕於顏回回曰竇之(五^a47顏回第十八)

(正義) 問俗本誤作見

毛本·黃本·永本·吳本並作「見」、何本此二句作「叔

孫武叔見於顏回」八字、鄒本·顧本·張本並闕本章

13 君子修道立德不為困而改節故居下而無憂者則思不遠(五^b88

在厄第二十)

(正義) 俗本衍詞太勝所稱小白霸心生於莒重耳霸心生於曹

衛勾踐霸心生於会稽等語意尤未瑩而諸本亦互有同異殆伝之

者過也王父靜宜先生適我園本刊削此文今從之。

「改節」下、毛本·黃本·永本·吳本·鄒本·顧本·張本

並有「為之者人也生死者命也是以晋重耳之有霸心生於曹

衛越王勾踐之有霸心生於会稽」三五字、但鄒本「勾踐之

有霸心」「霸」字作「伯」、何本「晋」下有「公子」二字、

「会稽」下更有「齊桓公小白之有霸心生於莒」一二字

14 子貢問曰：賜倦于學。云云。察其從，則隔如也。此其所以息也。(五^a 14⁸)

14^b 7 困誓第二十二

(正義) 俗本末尚有子貢曰：大哉乎死也。君子息焉。小人休焉。大哉乎死也。五句。適我園本刪之。

毛本·黃本·永本·吳本並有此五句、何本無此末一句五

字、「大哉乎死也」作「大哉死乎」、張本無此五句、鄒本

·顧本闕此章後半

15 六官在手以為轡司會均式以為納(六⁴ 9 執轡第二十五)

(正義) 式俗本作仁。蓋式二字通而訛一為仁也

毛本·黃本·永本·吳本·鄒本·顧本·張本·何本並作

「仁」

16 夫德盛則法修。德不盛則政飭。法与政咸。德而不衰。故曰王者。(六⁶ a

8 同前)

(正義) 俗本飭上無政字。按大戴禮：德盛則修法。德不盛則飭政。

法政而德不衰。則此飭字之上。當有政字。而彼飭字亦當為飭。故定之。

毛本·黃本·永本·吳本並無「政」字、鄒本·顧本·張

本·何本闕此段

17 五声六律十二管。還相為宮。(七¹¹ 9 禮運第三十二)

(正義) 六律俗誤作五律。今依禮記正之。

黃本·永本作「五律」、毛本·吳本·顧本·張本並作

「六律」与本版同、鄒本·何本闕此段

18 先王秉著龜。列祭祀。瘞。繪。宣。祝。嘏。辭。說。設。制度。故國有禮。(七¹² b 2 禮

運第三十二)

(正義) 俗本宣祝嘏之下。脫辭說二字。而羨祝嘏辭說四字於設

制度之下。今依禮記正之。

黃本·永本·吳本与正義云俗本同「宣祝嘏」之下無「辭

說」二字、「制度」之下有「祝嘏辭說」四字、毛本与本

版同、鄒本·顧本·張本·何本闕此段

19 其所以異。皆降自西階。玄端与皮弁。皆鞞。朝服素鞞。(八² 4 冠頌第

三十三)

(正義) 皆鞞二字俗誤作異。今按大戴禮公符篇云：公玄端与皮

弁皆鞞。朝服素鞞。蓋脫皆字而誤鞞為異也。

毛本·黃本·永本·吳本並作「異」、素鞞之鞞毛本·黃

本作「畢」、吳本作「鞞」、鄒本·顧本·張本·何本並闕

此段

20 況祖宗其功德。而何以不尊奉其廟焉。(八⁵ a 3 廟制第三十四)

(正義) 何俗誤作可。

毛本·黃本·永本·吳本並作「可」、鄒本·顧本·張本
·何本並闕此段

21 三數叔魚之罪不為末減。咸曰義可謂直矣。(九_{5.4}a 正論三十八)

(正義) 咸俗訛作或。從左傳作咸。

永本作「或」、毛本·黃本無「減」字、咸作「或」、黃本

·永本王注「或左傳作咸也」、毛本王注「或左傳作義」、

與本脫「咸」字並王注、鄒本·顧本·張本·何本闕此段

22 人之於冉求信之矣。將大用之。乃行。(九_{9.1}a 1 同前)

(正義) 俗本末脫乃行二字。

毛本·黃本·永本·吳本並無「乃行」二字、鄒本·顧本

·張本·何本並闕此段

23 君子之行必度於禮。施取其厚。事舉其中。斂從其薄。若是其以丘亦足

矣。不度於禮而貪冒無厭。則雖以田賦。將又不足。且季孫若欲行而取

法。則有周公之典在。若欲犯法。則苟行之。又何訪焉。(九_{11.3}b 3 同前)

(正義) 此節俗本多誤文。從葛鼎本定之。

永本·吳本共同文、毛本·黃本「其以」之以作「已」、

無「難以」之「以」字、「田賦」作「賦田」、「將又」作

「將有」、「季孫」作「子孫」、「欲行」作「以行之」。鄒本

·顧本·張本·何本並闕此段

24 八十則不俟朝。君問則就之。而悌達乎朝廷矣。(九_{12.9}a 9 同前)

(正義) 俟俗作仕。非從祭義作俟。

毛本·黃本·永本·吳本·顧本·張本並作「仕」、鄒本

·何本闕此段

25 孔子在衛。司徒敬子卒。夫子弔焉。(九_{16.3}a 3 曲禮子貢問第三十九)

(正義) 敬子。舊誤作敬之。

毛本·黃本·永本·吳本並作「敬之」、鄒本·顧本·張

本·何本並闕此段

26 原思言於曾子曰。夏后氏之送葬也。用明器。示民無知也。(略) 夫明

器。鬼器也。祭器。人器也。古之人胡為而死其親也。(九_{29.5}a 5 } 7 曲禮

公西赤問第四十二)

(正義) 明俗本作盟。依檀弓作明。

黃本·永本·吳本·顧本·張本並作「盟」、毛本与此本

同作「明」、鄒本·何本闕此段

27 反饋樂成。進其燕俎。序其禮樂。備其百官。(九_{30.5}a 5 同前)

(正義) 進其燕俎。俗本作進則燕俎。今參祭義定之。

毛本·永本·吳本並作「進則燕俎」、黃本·鄒本·顧本

·張本·何本並闕此段

28 伯夏生叔梁紇。雖有九女而無子。其妾生孟皮。有足疾。於是乃求婚於

顏氏(十^a 2^a 本姓第四十二)

(正義) 旧称孟皮。一字伯尼。非孔子以禱于尼丘而生故名丘字仲尼。若其兄本字孟皮。安得又以伯尼附会之耶。

毛本・黄本・永本・呉本「其妾生孟皮」下並有「孟皮一字伯尼」六字、郷本・顧本・張本此段節略多、但有「字伯尼」一句、何本与諸本有異同、無「字伯尼」句

29 寬冲博接從容自務(十^a 7^a 2^a 七十二弟子第四十四)

(正義) 接旧註捷同。

永本・呉本・郷本・顧本並有此注文、毛本・黄本無、何本闕此文、張本闕此七十二弟子篇

30 其妻藜蒸不熟因出之(十^a 7^a 8^a 同前)

(正義) 藜葛本作梨。

永本・呉本・郷本・顧本並作「梨」、毛本・黄本与此本同作「藜」、何本闕此文

以上の姜氏校勘注記のうちで、具体的に示された対校テキストトとしては、9 11の永懷堂本、23の葛籟本、30の葛本、10 13 14の適我園本である。永懷堂本・葛籟本・葛本は同一本であり、先に指摘した目録注記の汲古閣本とこの永懷堂本、適我園本の三本が参照されていることが明らかである。適我園本は姜氏注

中「適我園遺本」(10) 或は「王父静宜先生適我園本」(13) とも見え、丹陽姜氏の伝承家本と思われるが、10 13 14の各項とも、今私に採用した対校八本のいずれにも合致せず、未だ管見の及ばない別本と見做される。また13項の姜氏が言う俗本衍詞のうち、重耳、勾踐の覇心については毛本以下の八本に見えるが、小白覇心の記載は何本のみに見えて他の七本には無い。従って、上記三本のほか何孟春注本系の一本をも俗本として参照されているようである。姜氏の校注で具体的にテキストを示しているのは上記の数個処に過ぎず、諸本を俗本と凡称しその旧文を非として正文を改更する場合はほとんどである。そして、9 11 23各項のごとく永懷堂本を俗本と区別している個処もあるが、上述30項を仔細にみれば、その永懷堂本もまた俗本の範疇に含まれることがむしろ多く、汲古閣刊本以下の諸本もまた俗本と見做されていることが明らかであろう。本書はこれら俗本の本文を非として、礼記・大戴礼・左伝・史記・国語・説苑・新序等に互見の同事類文に従って旧文を改変する処が少なくない。このこともまた「殊為勇於變古」との批判が生じる一因であらう。

此の姜氏校勘注記から本書の底本を確定することは困難であ

る。しかしながら、正文改易に際して示された所拠のテキストが9 11 23 30に見られる永懷堂本及び10 13 14の適我園本の外に無いことから、著者は此の兩本を最も遵用したとの推察は容認されるであろう。適我園本は未だ管見に入らず今その存否も知れ

ず検証の手だてがない。次に、本書即ち正義本と永懷堂本・毛本・呉本及び黄本の王肅注諸本との同異を卷一、七篇に即いて表示してみる。

正義本

永本（永懷堂刊本）

毛本（汲古閣刊本）

黄本（明翻南宋刊本）

呉本（呉嘉謨集校本）

（相魯第一）

1 而四方之諸侯則焉	○西○○○○○	○西○○○○○	○西○○○○○	○西○○○○○
2 季氏葬昭公於墓道之南	○○○于○○○	○○○于○○○	○○○于○○○	○○○于○○○
3 由司空為魯大司寇	○○○	○○○×○○	○○○	○○○×○○
4 定公与斉侯会於夾谷	○○○于○○○	○○○于○○○	○○○于○○○	○○○于○○○
5 古者諸侯並出疆	○○○	○○○×○○	○○○	○○○
6 俘不予盟	○○干○	○○干○	○○干○	○○干○
7 於神為不祥於德為僇	○○○	○○○	○○○	○○○
8 匹夫熒侮諸侯者罪亦誅	○○○	正○○○	○○○	○○○惑○○×○当○
9 請右司馬速×刑焉	○○○×○○	○○○加○○	○○○×○○	○○○加○○
10 手足異処	○○○	○○○	○○○	××××
11 孔子使茲無還対曰	○○○	○○○	○○○	○○○選○○
12 吾以供命者	○○○	○○○	○○○	○所○○○

13 齊人將設享禮

○侯○○○○

○侯○○○○

○侯○○○○

○侯○○○○

14 孔子謂梁丘扈曰

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

15 是用糝糝

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○○糝糝

16 用糝糝君辱

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○○糝糝

17 魯以君子之道輔其君

○○○○○○×○○○○

○○○○○○×○○○○

○○○○○○×○○○○

○○○○○○○○○○

18 而子獨以戎狄之道

○○○○夷○○×

○○○○夷○○×

○○○○夷○○×

○○○○夷○○之○

19 於是乃歸所侵魯之四邑

于○○○○○○○○

于○○○○○○○○

于○○○○○○○○

于○○○○○○○○

20 入於費×之宮

○于○氏○○○

○于○氏○○○

○于○氏○○○

○于○氏○○○

21 孔子命申句須樂頎

○○○○○○○○

○○○○○○○○傾

○○○○○○○○

○○○○○○○○

22 有慎潰氏×

○○○○○×

○○○○○×

○○○○○×

○○○○○者

23 禿羊豚者不加飾

○○○○○○○○

○羔○○○○○

○○○○○○○○

○羔○○○○○

24 四方客至於邑×

○○○○○○○○者

○○○○○○○○者

○○○○○○○○×

○○○○○○○○者

(始誅第二)

25 戮之於兩觀之下

○○于○○○○○

○○于○○○○○

○○于○○○○○

○○于○○○○○

26 魯之聞人也

○○○○○○

○○○○○×

○○○○○○

○○○○○○

27 今夫子為政而始誅之

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○×

28 吾語汝以其故

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○×××

29 二曰行僻而堅

○○○○○○

○○○辟○○○

○○○○○○

○○○○○○

30 五曰順非而況

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○飭

85所謂天下之至知者 能用天下之至和也	×× ×× ×× ×× ×× ×× ×× ××	×× ×× ×× ×× ×× ×× ×× ××	×× ×× ×× ×× ×× ×× ×× ××	×× ×× ×× ×× ×× ×× ×× ××
84則天下之×名譽與焉	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
83又知其數及其所在焉	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
82萬民懷其惠	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
81見德明也	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
80如饑而食	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
79其言可覆	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
78慘怛以補不足	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
77非以盈宮室也	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
76恤行者×有亡	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
75乃為穉積實聚焉	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
74埒三為矩	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
73三井為埒	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
72千步為井	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
71如幼子之于慈母矣	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
70如手足之于腹心×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
69然後賢者悅而不肖者懼	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
68布諸天下四方而不窺	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

- 86 所謂天下之至政者 ○○○○○明○
- 87 能舉天下之至賢者也 ○○○○○○
- 88 ×政者莫大乎官能 賢○○○○○
- 89 此之謂還師在席之上 ○○○○○○
- 90 (大昏×第四) ○婚解○○
- 91 公問曰 ○○○○
- 92 敢問人道孰為大 ○○○○○誰○
- 93 孔子愀然作色而对曰 ○○○○○○
- 94 君×及此言也 ○×○○○○
- 95 固臣敢無辭而对 ○○○○○○
- 96 君為政則百姓從而正矣 ○○正○○○○○
- 97 君之所為百姓之所從君 不為正百姓何所從乎 ○○○○○○
- 89 可得聞乎 ○○○○○○
- 99 古之×政 ○○×○○
- 100 大昏至矣×××× ○婚○○××××
- 101 冕而親迎 ○○○○
- 102 親迎者敬之×也 ○○○○○○
- 103 愛与敬其政之本與 ○○○○○○

- 123 寡人既聞×此言 ○○○○如○○ ○○○○如○○ ○○○○如○○ ○○○○如○○
- 124 君之及此言是臣之福也 ○子○○○○○○○○ ○子○○○○○○○○ ○子○○○○○○○○ ○子○○○○○○○○
- 125 (儒行×第五) ○解○○ ○解○○ ○解○○ ○解○○
- 126 再求言於季孫曰 ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○
- 127 是猶却步而×求×前人 ○○○○欲○及○○ ○○○○欲○及○○ ○○○○欲○及○○ ○○○○欲○及○○
- 128 ×××××××××××××××× 衛將用之已有才而以資 衛將用之已有才而以資 衛將用之已有才而以資 衛將用之已有才而以資
 ×××××××××××××××× 鄰國難以言智也 鄰國難以言智也 鄰國難以言智也 鄰國難以言智也
- 129 請以重幣迎之 ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○
- 130 丘少居魯衣縫掖之衣 ○○○○○○○逢○○ ○○○○○○○逢○○ ○○○○○○○逢○○ ○○○○○○○逢○○
- 131 其服以鄉× ○○○○× ○○○○× ○○○○× ○○○○×
- 132 則留×僕未可以對 ○○×○○○○ ○○更○○○○ ○○×○○○○ ○○更○○○○
- 133 孔子侍坐曰 ○○○○○ ○○○○○ ○○○○○ ○○○○○
- 134 儒有衣冠中動作慎 ○○○○○順 ○○○○○順 ○○○○○順 ○○○○○順
- 135 ×大讓如慢 其○○○○ 其○○○○ 其○○○○ 其○○○○
- 136 難進而易退× ○○○○○× ○○○○○× ○○○○○× ○○○○○×
- 137 行必忠正 ○○○○中 ○○○○中 ○○○○中 ○○○○中
- 138 其備預有如此者 ○○○○豫○○○也 ○○○○豫○○○也 ○○○○豫○○○也 ○○○○豫○○○也
- 139 不求多積×多文以為富 ○○○○×○○○○ ○○○○×○○○○ ○○○○×○○○○ ○○○○×○○○○
- 140 先勞而後祿不亦易祿乎 ○○○○××××× ○○○○××××× ○○○○××××× ○○○○×××××

141 其近人情有如此者

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

142 儒有委之以財貨而不貪

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

143 阻之以兵而不懼

○○○○○○○○○○

沮○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

144 鷙虫攫搏不程其勇引重
鼎不程其力

××××××××××××

××××××××××××

××××××××××××

○蟲○搏○不○程○其○力○

145 過言不再

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○甫

146 戴仁而行

○○○○○○○○

載○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

147 抱德而處

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○義○○○○○

148 其自立有如此者

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○守○○○○○

149 其為士有如此者

○○○○○○○○

○×仕○○○○○

○○○○○○○○

○仕○○○○○

150 儒有令人以居古人以稽

○○今○○○○○○○

○○今○○○○○○○

○○今○○○○○○○

○○今○○○○○○○

151 若不逢世上所不援

○○○○○○○○受

○○○○○○○○受

○○○○○○○○受

○○○○○○○○

152 詭諂之民

○○○○○○○○

諛○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

153 有比党而危之者

○○○○○○○○×

○○○○○○○○×

○○○○○○○○×

○○○○○○○○

154 雖危起居猶竟信其志

○○○○○○○○○○

○猶起居○身○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

155 幽居而不淫上通而不困

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

×××××××××××

156 內称不避親外拳不避怨

○○○○○○○○○○

○○××××××○○

○○○○○○○○○○

○辟○○○○○○○

157 推賢讓能

○○○達○○

○○○達○○

○○○達○○

○○○達○○

158 儒有澡身浴德

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○×○○○○○○○

159 靜言而正之

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

160 而上下不知也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

161 又不急為也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

162 底厲廉隅

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

163 博學以知服×××

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ×

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ×

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ×

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 近文章

164 視之如錙銖

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

165 義同而進不同而退

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 則 ○ ○ ○ ○ 則 ○ ○

166 其交×有如此者

○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ 友 ○ ○ ○ ○ ○ ○

167 儒皆兼×而有之

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

168 儒有不隕穫于貧賤

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

169 不充詘于富貴

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

170 今人之名儒也妄

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

171 哀公既得聞此言也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

172 哀公問于孔子曰

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

173 子之言禮何其尊也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

174 不足以知大禮也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

175 事天地之神焉

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

176 君子×此之為尊敬

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

(問禮第六)

177	× × 不廢其會節	× × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	所能 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
178	而後治其 × × 文章黼黻	○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○ ○ ○	然 ○ ○ ○ ○ 彫鏤 ○ ○ ○ ○ ○ ○
179	以敬其祭祀別其親疎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 疎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 疏
180	而後宗廟會讌	○ ○ ○ 族 ○ 醺	○ ○ ○ 族 ○ 醺	○ ○ ○ 族 ○ 醺	○ ○ ○ 族 ○ 宴
181	器不彤鏤	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 刻 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
182	以與萬民同利	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
183	以忤其衆	× ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
184	是以今之君子莫能為禮	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
185	孔子曰我欲觀夏道	○ ○ ○ 言 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ×	○ ○ ○ 言 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 言 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ×	○ ○ ○ 言 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
186	吾得坤乾焉坤乾之義	○ ○ ○ 乾坤 ○ 乾坤 ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 乾坤 ○ 乾坤 ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 乾坤 ○ 乾坤 ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 乾坤 ○ 乾坤 ○ ○ ○ ○ ○ ○
187	燔黍擘豚	× ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	其 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
188	汙罇 × 杯飲蕢桴 × 土鼓	○ ○ ○ × 杯 ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × × × × ×	○ ○ ○ × 杯 ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 而 杯 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 而 ○ ○ ○ ○ ○ ○
189	猶可以致敬 × 鬼神	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
190	升屋而号告曰高某復	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
191	然後飲腥宜熟	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 飯 ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
192	是謂天望而地藏也	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 為 ○
193	冬則居宮屈	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
194	夏則居橧巢	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
195	以為 × × 宮室戶牖	○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 臺 榭 ○

196	×××××以降×上神	×××××○○○○	×××××○○○○	×××××○○○○	以其祝嘏○○其○○
197	是謂承天之祐	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○祐
198	熟其饒	○○○	○○○	○○○	○○○
199	越席以坐	○○○	○○○	○○○	越○○○
200	疏布以冪	○○○	○○○	○○○	○○○罩
201	衣其浣帛	○○○	○○○	○○○	○○○布
202	以嘉魂魄××××	○○○○○×××	○○○○○×××	○○○○○×××	○○○○○是謂合莫
203	(五儀×第七)	○○○	○○○	○○○	○○○
204	然則章甫紉×履	○○○○○×○	○○○○○	○○○○○×○	○○○○○×○
205	紳帶緇笏者	○○○○○	○○○	○○○○○	○○○
206	皆賢人也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	×○○○
207	夫端衣玄裳冕而乘軒者	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○垂○○
208	則志不在於酒肉	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○×○○
209	敢問何如斯可謂之庸人	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○×○○○○
210	不扞言以託其身	○○○	○○○	○○○	○○○托○○○
211	見小闇大而不知所務	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○×○○○○
212	×××××	×××××	×××××	×××××	五鑿為正心從而懷
213	雖不能盡×道術之本	○○○○○×○○○	○○○○○×○○○	○○○○○×○○○	○○○○○通○○○
214	必審其所由智既知之	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○知○○○

215 則若性命之形骸之	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○於形骸	○○○○○○○○
216 × 則士人也	此○○○○○	此○○○○○	此○○○○○
217 此則君子也	○○○○○○○	××○○○○○	××○○○○○
218 道足以化於百姓	○○○○○○○	○○×○○○○○	○○×○○○○○
219 此則賢者也	○○○○○○○	○×○○○○○	○×○○○○○
220 所謂聖×者	○○○人○	○○○×○	○○○人○
221 窮万事之始終	○○○○終始	○○○○終始	○○○○終始
222 敷其大道而遂成性情	○○○○○○○性情	○○○○○○○性情	××××××××××
223 未嘗知勞	○○○○○	○○○○○	○○×○
224 則丘亦無所聞焉	○○○○○○○	○○○○○○○	×○○○○○○○
225 日出聽政至於中冥	○○○○○○○	○○○○○○于○	○○○○○○于○
226 諸侯子孫往來為賓	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○如○
227 則勞亦可知矣	○○○○○○○	○○○○○○○	○○×○○○
228 周章遠望觀亡國之墟	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○×○○○
229 君既明此五者	○○○○○○○	○○○○○○○	○能○○○○○
230 又少留意	○○○○○	○○○○○	○×○○○
231 于五儀之事	於○○○○○	於○○○○○	於○○○○○
232 則於政治何有失矣	○○○○○○○	○○○○○○○	○×○○○○○○○
233 哀公問於孔子曰請問	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○×○○○

253 所以傲人臣者也	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
254 能知此者至治之極也	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
255 行己自取也	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
256 居下位而上干其君	○○○○○○○○	吾○○○○○○	○○○○○○○○
257 動不量力者兵共殺之	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
258 雖得壽焉不亦可乎	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○

掲出五本間の異同は以上の二五八項が認められる(但、略体字、俗字、別字等一般に通用されている文字の異同は原則として採り上げていない)。このうち、正義本即ち本書と一致する個所の総数は、永本が一六九、黄本が一六七、毛本が一〇一、呉本が五八であり、此の数値からも永懷堂本が最も本書に近接せるテキストであることが判然とする。従って、本書の底本としては第一に此の永懷堂刊本を考えて相違ないであろう。四庫提要が「從葛籛之本竄乱旧次」と記すのは篇次のみではなく本文に就いても言い得ることである。尚、黄本が永本と同じく高い数値を示しているのは、本稿(一)に於て指摘した如く(二十一輯235頁)、永本の底本が黄本である為と解される。

姜氏の注釈は、字義音積のほか、各篇首題下に於て、篇内分

章の総数を示し、篇題を釈して該篇の要旨を叙し、各章段末に於てはその章の大義を要述し、処々文義の訓解を為して本書の義理を講説する。但、大昏第四、儒行第五、問礼第六、哀公問政第十七、論礼第二十七、觀鄉射第二十八、郊問第二十九、刑政第三十一、礼運第三十二、冠頌第三十三、廟制第三十四、弁楽第三十五、問玉第三十六、屈節第三十七及び卷九の三問礼諸篇の如き『礼記』に重見する諸文には篇首に「義詳礼記章義今注其文小異者于左」等と姜氏著述の『礼記章義』を参照す可き旨付記して、『礼記』との同異正譌のみを注記して文義は略す。

『礼記』のほかに、易、書、詩、周礼、大戴礼、春秋伝、孝経、論語、史記、孔叢等諸経籍に互見する同事類文、異文類事に拠つての勘覈弁証がみられ、或はまた屢々旧文を改易すること上述

した如くであるが、徴引旁証に乏しく推求粗略の憾がある。また前人注説の引用考証は尠く、希に王肅注を「王氏曰」「旧注云」と標記して要略敷衍して引載するに過ぎない。四庫提要が「其訓釈亦似俗下、講章之体、不足以資考証」と批評する所以である。本書成立にやや遅れて隆昌する考証学の見地からすれば当然の批判と言えよう。しかし、当時流布した家語注釈書は明末清初累増の通俗坊本類が大勢を占めていたはずで、かかる時情にあつて、王肅注全本である永懷堂刊本に拠り且つ汲古閣刊本を参考し、更に充全ならずも諸経籍の類文を考覈して家語全文に亘る注釈を試みたことに對しては相応の評価がなされてよい。本書はまた、清人による家語注釈書の嚆矢として、注釈史の上から注視されて然るべきであろう。

姜氏は自序に於て、『家語』に就き次の如き見解及び本書撰述の趣旨を叙べている。「左家語十卷四十四篇、先聖二十七世孫猛所出其家藏之編、而魏常侍領秘書監王肅、発之以逮於今者也。(略)此書者、則易・詩・書・礼・春秋・論語而外、其後裔次其論説之緒餘与行蹟之本末、為一家言、是又与先聖所自定之六籍・門弟子所紀次之論語、相輔而不可廢者也。然其書成於先聖之歿後、自秦歷魏年世久遠、其沢之不滅以泯者、固足以羽翼

至訓・表章懿躅、而其伝之稍過、或參於世儒詞章之餘習与外氏雌黙之流風、而稍失聖人之真者、蓋亦有矣。今綜四十四篇之文、聖裔自叙述其聞識者十之三四、而餘多与二戴礼及内外伝・史記・説苑之属小異而大同。伝曰、所見異詞、所聞異詞、所伝聞又異詞。竊不揣固陋、承聖道大明之会、輯為義説、用加闡発」と。即ち、『家語』は六経・論語と相輔して廢すべからざる聖籍であり、至訓を羽翼し、懿躅を表章するに足るものとの認識に立ち、その義理を闡明昭然たらしめることを意図したものである。

尚、本書が刊行された雍正十一年は我国の享保一八年に当り、その後十年を経ずして太宰春台及び岡白駒の注解が出ている。今、彼の清儒と此の邦儒との雌雄を論じ、その影響如何を弁証する用意は無いが、時下つて文政中の成立書写とみられる『説孔子家語』(撰者未詳)に姜注が参校引証され、また文政八年亀井昭陽撰述の「答蒲元凱問家語」(『小天地閣叢書』乾集所収)に於て姜注に即いての論義がみえ、更に西島睡庵撰『読家語』には姜本との校合注、或は姜注の援引注記が屢々見えることと本稿(二)に於て指摘した如くである。本邦近世末儒者への影響の少くなかったことを特に添言しておきたい。

兆錫、字は上均、素清学者と号した。寅清楼は別号であろう。

江蘇鎮江府丹陽の人。康熙五（一六六六）年生。王掇撰「周礼輯義序」に「溯姜氏世有聞人、如宮保姜鳳阿公、暨參政養沖、奉常同節諸公」と、即ち、明南京礼部尚書姜宝、江西参政姜士昌、太常少卿姜志礼の裔孫である。また、本書の校合注記の中に「王父静宜先生適我園本」或は「適我園遺本」との対校個処があることは前に述べた。光緒十一年重修『丹陽県志』卷三十五「書籍」に、姜志珏の著述として『適我園詩稿』を掲げる。此の姜志珏が静宜先生、即ち兆錫の祖父であろう。明崇禎癸酉（一六三〇年）の副榜舉人、順治丁酉（一六四七）年）の廷試に中り（『丹陽県志』卷一九仕進）、康熙辛亥（一七〇一年）江蘇海州沭陽県訓導を授けらると（『丹陽県志補遺』卷十文苑）。

兆錫は康熙庚午（二九年）の舉人、経魁に入る。「官中書」(『丹陽県志』卷二十)と云うがその時期は明らかでない。丙戌（四五年）の会試に下第し、中年以後は卒業を罷め（姜允重「寅清楼撰述書目」、後に、湖北蒲圻県知県を授るが病を以つて辞し帰を告ぐ。郷里白鶴溪の藤村に住し、理学に潜心、著述に精励した。康熙末年より雍正年間に亘り、書経・周礼・儀礼・礼記・春秋・孝経・爾雅等の注釈を為し、朱注未だ備わらざ

るところを補うの意を以て自ら『九経補注』と称して時々刊行を果した。凡そ経義に於て程朱学を嗣承補翼するもので、尤も三礼に於て研思精微を尽し世譽を得た。乾隆元（一七三六）年六月己卯、三礼義疏編纂の命あり、同七月辛丑、大学士鄂爾泰・張廷玉等を総裁、礼部尚書楊名時・内閣学士方苞等を副総裁として三礼館が開設され、兆錫は鄂爾泰の薦に因り纂修官に充てられる。館中には勤博を以て称せられ、一方で解経に於て方苞と合わざりしこと吉夢熊が「郷賢録序」（『国朝耆献類徵初編』卷四一八）に記すところである。乾隆一〇年、家に卒す。年八十。郷賢祠に従祀せらる。乾隆二二年、遺著は孫の爽によつて朝に献ぜられ、四庫存目に著録をみるもの全て十五部一三〇卷にのぼる。男に允重・允遠（或は鳴遠）・允毅あり。允重は遺著の編次校刊に勤め、また『与蘭居詩鈔』の著あり（『丹陽県志補遺』卷二十）。孫に爽、衡あり。爽は『伝経堂集』を著す（『丹陽県志』卷三十五）。

「著書等身、芸林の矜式為り」（『郷賢録序』）と。次に、管見の及ぶところをほほ書成の年次に順つて載けておく。

周礼輯義一二卷首目一卷 清雍正九（一七三二）年刊（寅清楼） 九経補注之一

康熙五十七(一七一八)年戊戌文淵閣大學士王掇序・康

熙戊戌十月既望張大受序・康熙己亥立春後五日王澍序・

康熙戊戌十二月二十六日儲大文後序

礼記章義一〇卷首目一卷 清雍正一〇(一七三二)年刊(寅

清樓) 九經補注之一

康熙五十二年秋九月壬戌張大受序・康熙己亥立春後五日

王澍序

孝經本義 清雍正一〇(一七三二)年刊(寅清樓) 九經補

注之一

康熙五十九年庚子春二月己巳自序

春秋胡伝參義一二卷 宋胡安国伝 姜兆錫參義 清雍正元

(一七二三)年刊(寅清樓) 九經補注之一

孔叢正義五卷 清姜允重・姜允遠校 清雍正一一(一七三

三)年刊(寅清樓) 先聖遺書之一

雍正二年甲辰孟夏自序

爾雅註疏參義六卷 清雍正一一(一七三三)年序刊(寅清

樓) 九經補注之一

雍正三年季春下澣侍生西林鄂爾泰序・雍正十一年孟秋素

清學者自序

儀礼経伝註疏參義内編二三卷外編五卷首一卷 清姜允重・姜

允毅校 清乾隆元(一七三六)年刊(寅清樓) 九經補注之一

雍正癸丑(一一年)七月既望王步青序・雍正乙卯(二三

年)孟夏自序

書経蔡伝參義六卷首目一卷 清雍正一二(一七三四)年刊

(寅清樓) 九經補注之一

雍正甲寅(一二年)春三月自序

春秋公羊 穀梁二伝附左 氏伝彙義一二卷 清乾隆五(一七四〇)年刊

(寅清樓) 九經補注之一

乾隆五年季春既望自序

詩伝述蘊三卷 清乾隆九(一七四四)年序刊(寅清樓)

乾隆甲子(九年)秋九月朔自序

周易本義述蘊四卷 宋朱熹本義 清姜兆錫述 乾隆一四(一

七四九)年刊(寅清樓)

乾隆甲子季冬自序・乾隆十四年孟夏姜允重撰刻周易述蘊

始末録

尚、恐らくは乾隆五年、書経蔡伝參義・周礼輯義・儀礼経伝

註疏參義内外編・礼記章義・春秋公羊 穀梁二伝附左 氏伝彙義・春秋胡伝

參義・孝経正義・爾雅註疏參義の八書を彙輯し、乾隆四年己未

秋八月既望張廷璐序・任啓運序・乾隆三年仲冬自序を冠して『九經補注』と題して印行された。後印本には、周易本義述蘊・詩伝述蘊の両書を追印する。

四庫存目には外に、周易蘊義図考二卷、大戴礼刪翼四卷、春秋事義慎考一四卷を著録、『清儒学案』（卷一九七）は方音集六卷、周礼類考、群經本末考、汲冢周書刪翼、列女伝訂義、新序訂義、説苑訂義、朱子楚辭參義、志（或は忘カ）学齋永言、春風亭倡和詩、寅清楼文集を載す。また、『九經補注』に付印された「寅清楼撰述書目」（男允重撰）には更に、「已刻七種」として、寅清楼方音初集、寅清楼小題制義、寅清楼詩経稿、寅清楼直省考卷選を、「即刻三十一種」として、適我園遺編、寅清楼方音二集、寅清楼方音三集、方岳採風録、徽国文公世沢彙編、寅清楼世沢録、寅清楼大題制義、寅清楼歴試草、寅清楼詩経存稿、古文載道編、国朝五十大家選、国朝墨卷選、国朝考卷選の諸書名が挙げてある。今流传するものは少数ではあるが、畢生の遺業睹るべきであらう。

家語証偽 一一卷 清范家相撰 清光緒一五（一八八

九）年刊（会稽徐氏鑄学齋） 会稽徐氏述史楼叢書

所収

首に「序」（乾隆三十二（一七六七）年丁亥三月清明後一日吉水羅暹春拜手）を冠す。本文卷頭、「家語証偽卷第一」、次行低一格、「会稽范家相著」、第三行「相魯第一」と題し本文に入る。尾題は「家語証偽一（一十一）」、終尾題下方該行末格に「終」字有り。左右双辺（一六・一×一一・五糧）、有界、十一行行廿一字、注大字单行低一格、正文注文共割注あり。版心粗黒口双黒魚尾、「証偽幾（丁付）」。各巻尾題後に、「光緒十有五年会稽徐氏鑄学齋榮彙本」と直行刊記を有す。

『会稽徐氏述史楼叢書』は徐友蘭輯。首の扉裏に、「叢書之刻／自光緒壬／午始卦變／図説一種／外大父沈輔／之先生見貽／遂列諸首」との刊語があり、光緒八（一八八二）年より順次刊行された。本書の外、易卦變図説一卷、説文繫伝考異四卷附録一卷、退庵臚稿一卷、退庵隨筆一卷を収める。尚『叢書綜録』には、徐維則輯の『会稽徐氏鑄学齋叢書』を著録し、それに依れば、此の五書のほかに切音蒙引二卷等八書を合せ計十三種の書名が挙がっている。『鑄学齋叢書』の本邦に於ける所在を聞かず、両叢書の関繋を詳らかにしないが、『鑄学齋叢書』が『述史楼叢書』の増補であるか、或は『述史楼叢書』は『鑄学齋

叢書』の抽印であるか、いずれにせよ、両叢書収録の本書に関して、各巻末の刊記から推して、同板本とみて相違なからう。

〈国立国会図書館蔵〉 三冊 (222合18) 会稽徐氏述史樓叢書第

四一六冊

後補淡橙色覆表紙 (二三・二×一五・二糎)、「帝国図書館

蔵」と空押さる。書題簽、「述史樓叢書 一、二(三四、五六

止)」。原表紙は淡茶色。易卦変図説不分巻、説文繫伝考異四巻

附録一卷、退庵贖稿・退庵隨筆各一卷と原六冊を三冊に合綴。

〈京都大学人文科学研究所蔵〉 四冊 (叢1534) 会稽徐氏述史

樓叢書第四一七冊

茶色表紙 (二三・六×一五・四糎)。「東方文化学院京都研究

所」(朱長方)の印記。

次の両帙は、叢書零本か或は単行本か、詳らかにしない。

〈大阪大学附属図書館蔵〉 三冊 (01家語EG徳堂
3-02孔子K懐)

淡茶色表紙 (二四×一五・三糎)、外題無し。一部に朱句点

圈点、標注の書入あり。「碩園珍藏」(朱長方)、「碩園記念文

庫」(朱長方)、「懷徳堂／図書記」(朱方)の印記あり。

〈東洋文庫蔵〉 三冊 (Ⅲ249) 藤田劍峰旧蔵書

淡茶色表紙 (二五×一五・三糎)、外題なし。

同 「民国」江杏溪校 「民国二三(一九二四)年」刊(蘇

州 文学山房) 木活字印本 「江氏聚珍版叢書四

集所収」

書扉あり、「家語証／譌／文学山房主人属題／瓢廬潘宝

沂」と題され、裏に「蘇州護竜街中／文学山房印行」なる刊記

を有す。首に乾隆三二年羅暹春の序を冠し、本文巻頭、「家語

証偽卷第一」、次行低一格、「会稽范家相著(隔四)吳県江杏溪重

校」、第三行、「相魯第一」と題す。尾題は、「家語証偽幾」、最

終尾題下方該行末格に「終」字有り。四周双边 (一八・四×一

二・七糎)、有界、十一行行廿一字、注大字単行低一格、正文注

文共割注あり。版心上部小黒口単黒魚尾、「証偽幾(丁付)」、

下象鼻に「文学山房／聚珍板印」と印さる。本版は前掲、会稽

徐氏鑄学齋刊本と行款を同じくし、本活字を使用した其の翻印

で、「叔孫」を「孫叔」に(一ウ35)、「其時」を「甚時」に

(二ウ38)作り、或は「以其所能」の所字を脱する(二ウ3)

等の重刊に伴う誤脱は免がれないが、其の個所は比較的少い。

『江氏聚珍版叢書』は『叢書綜録』に拠れば、一名、『文学山房叢書』、民国江杏溪輯、民国二三(一九二四)年の刊行とする。

未だその全帙を架蔵するところを聞かず、管見に入れる以下の諸帙はいずれも、単行本として架蔵されている。叢書の零本か単行本かの別を詳かにしない。

〈斯道文庫蔵〉 六冊 (ホ176) 細川家寄託本

藍色表紙(二九・九×一八糎)、外題無し。一部に朱句点書入あり。「古城文庫」(朱長方)の印記。古城坦堂旧蔵本。

〈大阪大学附属図書館蔵〉 六冊 (02・01家北KEG 3・02子北KEG) 吉田北山旧蔵書

藍色表紙(二九・八×一八・一糎)、外題無し。「北山／文庫」

(朱方)、「北山珍蔵」(白長方)、「北山於／燕京／所購」(朱方)の印記あり。

〈東北大学附属図書館蔵〉 六冊 (乙A1476)

藍色表紙(二九・九×一八・一糎)、外題無し。

〈無窮会図書館蔵〉 六冊 (平沼2467) 河合槃山旧蔵書

藍色表紙(二九・七×一八・一糎)、外題なし。「槃山／蔵書」

(朱方)、「機外文庫」(朱長方)、「平沼氏／蔵書記」(朱方)、「無窮会／神習文庫」(朱長方)の印記あり。

〈同蔵〉 六冊 (真軒880) 三宅真軒旧蔵書

藍色表紙(三〇×一八・一糎)、外題なし。「真軒／蔵書」(朱

長方)、「無窮会／神習文庫」(朱長方)の印記あり。

〈東京大学文学部蔵〉 六冊

藍色表紙(二九・九×一八糎)、外題無し。「東京帝／国大学／図書印」の印記。

本書は首十卷を家語正文及び其の注釈に充て、卷十一は「王肅序」「孔安国序」「王肅後序」、「家語目錄」(目錄は「後序」末行に直接して標題を掲げない)及び「読家語雜記」からなる。首十卷は、汲古閣刊本等の篇次卷立に従い、先ず正文を各篇章段に区切って掲出し、各章段或は篇末に一格を低して考証注解を付す。また正文中処々割注があり、主として、原本、即ち王肅が本書偽撰の為に依用した底本と看做す礼記・大戴礼・說苑等に見える同類文との異同を注記する。

本書は王肅注本文(著者はこれを王肅の偽撰と見做す)の全文を収載している。此の正文の藍本は、卷十一「王肅後序」後の目錄末に付された注解の「近世虞山毛氏自謂得北宋本凡十卷校而刻之云不失王氏本註、其書与旧本多所同異、今之盛行者惟此而已」との一文を考慮すれば、汲古閣刊本であると一応推定することが許されよう。本書撰述当時即ち乾隆朝前半期に於て通行せる王肅注十卷本としては、汲古閣刊本のほかには永懷堂刊本(本稿(一)231頁参照)、姜兆錫正義本(即ち前掲書)、及び

明吳嘉謨集校本（本稿（一）238頁参照）が挙げられる。従って著者 象に入れる必要があろう。次に本書を含めた五本間の異同を掲
 が依用したテキストを考察するに当っては此の四本を考慮の対 して（巻一の七篇に限る）少しく検討を加えておきたい。

証偽本

毛本（汲古閣刊本）

永本（永懷堂刊本）

正義本

吳本（吳嘉謨集校本）

（相魯第一）

1 而西方之諸侯則焉	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
2 孔子対曰雖天下可也	○○○○○○○○乎	○○○○○○○○乎	○○○○○○○○乎	○○○○○○○○乎
3 季氏葬昭公於墓道之南	○○○○○○于	○○○○○○于	○○○○○○于	○○○○○○于
4 由司空為×大司寇	○○○○×○○	○○○○魯○○	○○○○魯○○	○○○○×○○
5 定公与斉侯会於夾谷	○○○○○○于	○○○○○○于	○○○○○○于	○○○○○○于
6 古者諸侯×出疆	○○○○×○○	○○○○並○○	○○○○並○○	○○○○並○○
7 請具左右司馬×公從之	○○○○○○定○○	○○○○○○定○○	○○○○○○定○○	○○○○○○定○○
8 揖讓而登献酬既畢	○○○○醉○○	○○○○醉○○	○○○○醉○○	○○○○醉○○
9 斉使萊人以兵鼓譟	○○○○○○諺	○○○○○○諺	○○○○○○諺	○○○○○○鼓諺
10 俘不干盟	○○○○	○○○○	○○于○	○○○○
11 於神為不祥於德為愆義	○○○○○○○○	○○○○○○愆	○○○○○○愆	○○○○○○愆
12 景公心怍麾而避之	斉侯○○○○	斉侯○○○○	斉侯○○○○	斉侯○○○○
13 匹天燹侮諸侯者	疋○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○惑○○×
14 罪當誅	○庇○	○庇○	○庇○	○○○

15 請右司馬速加刑焉	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
16 手足異処	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	×××××
17 孔子使茲無還對曰	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
18 爾不返我汶陽之田	而○○○○○○○○	而○○○○○○○○	而○○○○○○○○	而○○○○○○○○
19 吾以供命者	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○所○○○○○
20 齊侯將設享禮	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○人○○○○○	○○○○○○○○
21 孔子以梁丘拋曰	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○
22 是用糝稗	○○○糝○○○	○○○糝○○○	○○○糝○○○	○○○糝○○○
23 用糝稗君辱	○○○糝○○○	○○○糝○○○	○○○糝○○○	○○○糝○○○
24 魯以君子×道輔其君	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
25 而子獨以夷狄×道	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
26 於是乃婦所侵魯之四邑	○○○○○○○○○○	于○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
27 今三家踰制	○○○過○○○	○○○過○○○	○○○過○○○	○○○過○○○
28 乃使季氏宰仲由墮三都	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
29 入於費氏之宮	○于○○○○○○○	○于○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○于○○○○○○○
30 孔子命申句須樂頎	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
31 遂墮三都之城	○墮○○○○○○○	○墮○○○○○○○	○墮○○○○○○○	○墮○○○○○○○
32 有慎潰氏者	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×	○○○○○○○○
33 禿羔豚者不加飾	○○○○○○○○○○	○羊○○○○○○○	○羊○○○○○○○	○○○○○○○○○○

34 四方客至於邑者

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○×

○○○○○○○○

(始誅第二)

35 戮之於兩觀之下

○○于○○○○

○○于○○○○

○○○○○○○○

○○于○○○○

36 魯之聞人×

○○○○×

○○○○也

○○○○也

○○○○也

37 今夫子為政而始誅之

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○×

38 吾語女以其故

○○汝○○○

○○汝○○○

○○汝○○○

○○汝×××

39 而盜竊不與焉

○竊盜○○○

○竊盜○○○

○竊盜○○○

○竊盜○○○

40 二日行僻而堅

○○○辟○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

41 五日順非而澤

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

42 其居勉足以聚徒成党

○○○○撮○○○

○○○○撮○○○

○○○○撮○○○

○○○○撮○○○

43 其談說足以飾褒榮衆

○○○○飭褒○○

○○○○褒○○○

○○○○褒○○○

○○○○飭褒○○

44 其彊禦足以返是獨立

○○○○○○○○

○強○○反○○

○強○○反○○

○強○○反○○

45 此乃人之奸雄者×

○○○○○○有×

○○○○姦○○也

○○○○姦○○也

○○○○○○○○也

46 文王誅潘止

○○○○正

○○○○正

○○○○正

○○○○正

47 太公誅華仕

○○○○士

○○○○士

○○○○士

○○○○士

48 凡此七子皆異世

○○○○○○○○

是○○○○○○

×○○○○○○

○○○○○○○○

49 以七子異世而同惡故不可赦也

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

××××××××

50 其父請正

○○○○止

○○○○

○○○○

○○○○

51 而又赦何哉

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 何赦 ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

52 孔子喟然歎曰

× ○ ○ ○ ○ ○

× ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 嘆 ○

× ○ ○ ○ ○ ○

53 獄犴不治不可刑也何也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 者

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 者

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 者

○ 行 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 者

54 罪不在民×也

○ ○ ○ ○ ○ ○ 故 ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 故 ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 故 ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 故 ○

55 義刑義殺弗庸以即汝心

○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

56 唯曰未有慎事

惟 ○ ○ ○ ○ ○ ○

惟 ○ ○ ○ ○ ○ ○

惟 ○ ○ ○ ○ ○ ○

惟 ○ ○ ○ ○ ○ ○

57 不可則廢之

○ ○ ○ ○ ○ ○ 即 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 即 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 即 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 即 ○ ○ ○ ○ ○ ○

58 而後以威憚之

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

然 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

59 則民×知罪矣

○ ○ ○ ○ ○ ○ 咸 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 咸 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 咸 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 咸 ○ ○ ○ ○ ○ ○

60 威厲而不試刑措而不用

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 錯 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 錯 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 錯 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 錯 ○ ○ ○ ○ ○ ○

61 重載陟焉

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 涉 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

62 雖有刑法民能弗踰乎

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 勿 ○ ○ ○ ○ ○ ○

63 (王言解第三)

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

64 孔子閑居

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 間 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 間 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ 間 ○ ○ ○ ○ ○ ○

65 曾子侍

○ 參 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 參 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 參 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

66 惟士与大夫之言×聞也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○

唯 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 可 ○ ○ ○ ○ ○ ○

唯 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 可 ○ ○ ○ ○ ○ ○

唯 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○

67 至於君子之言者希也

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 于 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ×

68 曾子起下席而对曰

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

69 敢問何謂王者言

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 之 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 之 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

89 政教正	○○定	○○定	○○定	○○定
90 則本正矣	○○○	○○○也	○○○也	○○○
91 人君先立仁於己	○○○○○○	○○○○○○	仁○○○○○	○○○○○○
92 民敦而俗樸	○○○○○	○○×○璞	○○×○璞	○○×○○
93 七者	六○	六○	六○	六○
94 教之至也	○○○	○○致○	○○致○	○○致○
95 布諸天下四方而不怨	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
96 棄惡也如湯之灌雪焉	○○×○○○○	○○×○○○○	○○×○○○○	○○×○○○○
97 ×則賢者悦	×○○○○	然○○○○	然後○○○	×○○○說
98 而不肖×懼	○○○者○	○○○者○	○○○者○	○○○者○
99 如手足之於腹心矣	○○○○○○	○○○○○○	○○○○于○×	○○○○○○×
100 如幼子之於慈母矣	○○○○○○	○○○○○○	○○○○于○	○○○○○○
101 此不遠之效也	斯○○○則○	斯○○○則○	斯○○○則○	斯○○○則○
102 千步而井	○○○	○○為○	○○為○	○○為○
103 三步而埒	○井○○	○井○○	○井為○	○井○○
104 埒三而矩	○○○	○○○	○○為○	○○○
105 乃為××資裘焉	○○福積○○○	○○穡積○求○	○○穡積質聚○	○○穡積○聚○
106 恤行者之有亡	○○○○○	○○○×○○	○○○×○○	○○○×○無
107 非以盈宮室也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○×

108 慘怛以補不足

慄○○○○○

○○○○○

○○○○○

○○○○○

109 其言可復

○○○○○

○○○○○

○○○覆

○○○○○

110 ×××××如渴而飲

×××××○○○○○

如飢而食○○○○○

如饑而食○○○○○

如饑而食○○○○○

111 見明德也

○○○○○

○○○○○

○德明○

○○○○○

112 萬民懷其惠

○○○○○

○○○○○

○○○○○

×××××

113 又知其數及其所在焉

○○○○○

○○○○○

○○○○○

×××××

114 則天下之×名譽興焉

○○○○○明○○○○○

○○○○○民○○○○○

○○○○○×○○○○○

○○○○○×○○○○○

115 ×××××

×××××

×××××

所謂天下之至知者
能用天下之至和也

×××××

116 所謂天下之至明者

○○○○○

○○○○○

○○○○○政○

○○○○○

117 能奉天下之至賢者也

○○○○○

○○○○○

○○○○○

○○○○○×

118 賢政者莫大乎官能

○○○○○

○○○○○

×○○○○○

○○○○○

119 明王之征猶時雨之降

○○○○○政○○○○○

○○○○○政○○○○○

○○○○○政○○○○○

○○○○○政○○○○○

120 此之謂還師衽席之上

○○○○○衽○○○○○

○○○○○衽○○○○○

○○○○○衽○○○○○

○○○○○

121 (大婚解第四)

○○○○○

○○○○○

○昏×○○

○○○○○

122 公問曰

○○○○○

○○○○○

○○○○○

○×○○○

123 敢問人道誰為大

○○○○○

○○○○○孰○○

○○○○○孰○○

○○○○○

124 孔子愀然作色而對曰

○○○○○

○○○○○

○○○○○

○○××××○○

125 君×及此言也

○×○○○○○

○×○○○○○

○×○○○○○

○之○○○○○

145 孔子遂言曰

○○○○○

○○○○○

○○○○○

×××××

146 昔三代明王必敬妻子

○×○○○○○

○×○○○○○

○者○○○○○

○×○○○○○

147 敢不敬歟是故君子

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

148 身也者親之枝也

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

149 敢不敬歟不敬其身

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

150 傷其親是傷本也

×××○○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

151 傷其本則枝從之而亡

○○○與○○○

○○○支○○○

○○○支○○○

○○○支○○○

152 昔太王之道也

○大○○○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

○○○與○○○

153 如此則國家順矣

○○○×○○○○

○○○×○○○○

○○○×○○○○

○○○×○○○○

154 過動則民作則

○行○○○○○

○行○○○○○

○行○○○○○

○行○○○○○

155 若此則可謂能敬其身

○是○○○○○

○是○○○○○

○是○○○○○

○是○○○○○

156 敬其身則能成其親矣

○○○與○○○

×××○○○○

×××○○○○

×××○○○○

157 君子者乃人之成名也

○○○與○○○

○○○也○○○

○○○也者○○○

○○○也○○○

158 愛政而不能愛人

○○○與○○○

○○○與○○○

為○○○○○

○○○與○○○

159 ××××××××××××××××

身 不能成其身則不能安其
土不能安其土則不能安其
天不能樂天則不能成其

× 不能成其身則不能安其
土不能安其土則不能安其
天不能樂天則不能成其

× 不能成其身則不能安其
土不能安其土則不能安其
天不能樂天則不能成其

× 不能成其身則不能安其
土不能安其土則不能安其
天不能樂天則不能成其

160 敢問何謂×成身

○○○×能○○○

○○○×能○○○

○○○能○○○

○○○×能○○○

161 不過乎×合天道也

○○○×○○○○

○○○×○○○○

○○○物○○○○

○○○物○○○○

162 貴其不已×	○○○○也	○○○○也	○○○○也	○○○○也
163 ××××××××××	不閉而能久是天道也	不閉而能久是天道也	不閉而能久是天道也	不閉而能久是天道也
164 無為而×成	○○○物○	○○○物○	○○○成物	○○○物○
165 幸煩子之於心	○○○○○	○○○○○	○○○志于○	○○○○○
166 孔子愀然避席而对曰	○○蹴○○○○	○○蹴○○○○	○○蹴○○○○	○○蹴○○○○
167 寡人既聞如此言	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
168 君之及此言是臣之福也	○子○○○○○○○○	○子○○○○○○○○	○○○○○○○○	○子○○○○○○○○
169 (儒行解第五)	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
170 冉求言於季孫曰	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○有○○○○○
171 是猶卻步而欲求及前人	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
172 衛將用之已有才而以資鄰國難以言智也	○○○○○	○○○○○	××××××××××	○○○○○
173 請以重幣言之	○○○○○	○○○○○	○○○○○	××××××
174 ××××	升堂立侍	升堂立侍	升堂立侍	升堂立侍
175 夫子之服其儒服歟	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
176 丘少居魯衣逢掖之衣	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
177 其服以鄉×	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
178 則留更僕未可以对	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
179 孔子侍坐曰	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○

180 儒有衣冠中動作慎	○○○○○○○順	○○○○○○○順	○○○○○○○順	○○○○○○○順
181 其大讓如慢	○○○○○○○	○○○○○○○	×○○○○○	×○○○○○
182 難進而易退×	○○○○○○○×	○○○○○○○×	○○○○○○○×	○○○○○○○也
183 其坐起恭敬	○起坐○○	○起坐○○	○起坐○○	○起坐○○
184 行必中正	○○○忠○	○○○忠○	○○○忠○	○○○忠○
185 其備豫有如此者	○○○○○○○也	○○預○○○○	○○預○○○○	○○預○○○○
186 不求多積×多文以為富	○○○○○○○×	○○○○○○○×	○○○○○○○×	○○○○○○○而○○○○○
187 先勞而後畜××××乎	○○○○○祿××××○	○○○○○祿不亦易祿○	○○○○○祿不亦易祿○	○○○○○祿不亦易祿○
188 其近人情有如此者	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○
189 儒有委之以財貨而不貪	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○貨財○○○
190 淹之以好樂而不淫	○○○樂好○○○	○○○樂好○○○	○○○樂好○○○	○○○樂好○○○
191 沮之以兵而不攝	○○○○○○○攝	阻○○○○○攝	阻○○○○○攝	阻○○○○○攝
192 ×××××××××××	×××××××××××	×××××××××××	鷙虫攫搏不程其勇引重 鼎不程其力	鷙虫攫搏不程其勇引重 鼎不程其力
193 過言不再	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○甫
194 戴仁而行	載○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○
195 抱德而處	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○義○○○
196 其自立有如此者	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○○守○○○○
197 上不答×不敢以諂	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○

198 其×仕有如此者	○×○○○○○	○為士○○○○○	○為士○○○○○	○為○○○○○
199 儒有今人以居古人以耆	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○令○○○○○稽	○○○○○○○○○
200 若不逢世上所不受	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○
201 讒諂之人	○○○民	詭○○民	詭○○民	詭○○民
202 有比党而危之×	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×	○○○○○○○者	○○○○○○○者
203 雖危×起居×竟身其志	○○猶○○×○○○○○	○○×○○猶○信○○	○○×○○猶○信○○	○○×○○猶○信○○
204 幽居而不淫上通而不困	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	××××××××××
205 内举不避親外举不避怨	○称×××××○○○○○	○称○○○○○○○○○	○称○○○○○○○○○	○称○辟○○○○○辟
206 推賢達能	○○○○○	○○○○○	○○讓○○	○○○○○
207 儒有澡身浴德	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○×○○○○○○○
208 靜言而正之	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	×○○○○○○○
209 而上下不知也	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	×××○○○○○
210 又不急為也	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○為急○
211 砥礪廉隅	○厲○愚	底厲○○○	底厲○○○	○○○○○
212 ×××××	博学以知服	博学以知服	博学以知服	博学以知服
213 ××××	××××	××××	××××	近文章
214 視×如錙銖	○之○○○○○	○之○○○○○	○之○○○○○	○×○○○○○
215 ×同而進不同而退	義○○○○○○○○○	義○○○○○○○○○	義○○○○○○○○○	義○則○○○○○則○
216 其交×有如此者	○○×○○○○○	○○×○○○○○	○○×○○○○○	○○友○○○○○

217 敬慎者仁之地也

慎敬○○○○

慎敬○○○○

慎敬○○○○

慎敬○○○○

218 孫接者仁之能也

遜○○○○

遜○○○○

遜○○○○

遜○○○○

219 儒皆兼此而有之

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

220 儒有不隕穫於貧賤

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

221 不充詘於富貴

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

222 不願君王

○○○○

○溷○○

○溷○○

○溷○○

223 今人之名儒也妄

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

224 哀公既得聞斯言也

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

225 終沒吾世

○○○○

○歿○○

○歿○○

○歿○○

226 弗敢×以儒為戲矣

○○復○○

○○復○○

○○復○○

○○復○○

(問禮第六)

227 哀公問於孔子曰

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

228 子之言禮何其尊也

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

229 不足以知大禮×

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

230 孔子曰丘也聞之

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

231 事天地之神焉

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

232 君子×此為之尊敬

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

233 所不能不廢其會節

○○○○

○○○○

○○○○

○○○○

234 而後治其××文章黼黻

○○○○

○○○○

○○○○

然○○○彫鏤○○○

235 以敬×祭祀別其親疎	○○×○○○○○○○○	○其○○○○○○○踈	○其○○○○○○○踈	○○×○○○○○○○疏
236 而後宗族會讌	○○○○○○醯	○○○○○○醯	○○○○○○廟	○○○○○○宴
237 器不刻鏤	○○○○○	○○形○	○○形○	○○形○
238 以與×民同利	○○×○○○○	○萬○○○	○萬○○○	○萬○○○
239 以忤其衆	○○○○○	×○○○	○○○○○	○○○○○
240 以伐其道	○○有○	○○有○	○○有○	○○有○
241 是以××君子莫能為禮	○即今之○○○○○○	○即今之○○○○○○	○今之○○○○○○	○即今之○○○○○○
242 可得而聞乎孔子言曰	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×
243 我欲觀夏道	○○○○○	○○○○○×	○○○○○	○○○○○
244 吾得乾坤焉乾坤之義	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○坤乾○坤乾○	○○○○○○○○
245 ×燔黍擘豚	×○○○○○	×○○○○○	×○○○○○	其○○○○○
246 污尊×杯飲××××	○罇×○××××	○罇×杯○蕢桴×土鼓	○罇×○蕢桴×土鼓	○罇而杯○蕢桴而土鼓
247 猶可以致敬×鬼神	○○○○○○×	○○○○○○×	○○○○○○×	○○○○○○於○
248 升屋而号告曰高某復	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○×
249 然後飯腥苴熟	○○○○○	○飲○○○	○飲○○○	○飲○○○
250 是謂天望而地藏也	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	為○○○○○○
251 冬則居宮窟	○○○○○	○○○○○	○○○○○屈	○○○○○
252 夏則居橧巢	○○○○○	○○橧○	○○橧○	○○○○○
253 以為××宮室戶牖	○○××○○○○	○○××○○○○	○○××○○○○	○○臺樹○○○○

254	×××××以降×上神	×××××	×××××	×××××	以其祝嘏○其○
255	是謂承天之祐	○○○○○祐	○○○○○祐	○○○○○祐	○○○○○
256	薦其毛血腥其俎	○○血毛○○	○○血毛○○	○○血毛○○	○○血毛○○
257	熟其穀	○○○	○○○	○○餽	○○○
258	越席以座	○○○	○○○	○○○	越○○
259	疏布以冪	○○○	○○○	○○○	○○○罩
260	衣其浣帛	○○○	○○○	○○○	○○○布
261	×××××	×××××	×××××	×××××	是謂合莫
262	是謂大祥	○為○○	○為○○	○為○○	○為○○
263	(五饒解第七)	○○○○○	○○○○○	○○×○○	○○○○○
264	然則章甫紃×履	○○○○○衢履	○○○○○×履	○○○○○×履	○○○○○×履
265	紳帶摺笏者	○○○○○	○○縉○○	○○縉○○	○○○○○
266	皆賢人也	○○○	○○○	○○○	×○○○
267	夫端衣玄裳冕而乘軒×	○○○○○者	○○○○○者	○○○○○者	○○○○○垂○者
268	斬衰菅屨	○○○非	○○○非	○○○非	○○○非
269	杖而啜粥者	○○歡○○	○○歡○○	○○歡○○	○○歡○○
270	則志不在於酒肉	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○×○○
271	敢問何如斯可謂之庸人	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○×○○○○○
272	所謂庸人者	○○○○○	○○○○○	○○○○○	××○○○

291 未嘗知懼未嘗知勞 ○○○○勞○○○懼 ○○○○勞○○○懼 ○○○○勞○○○懼 ○○○○×勞○○○懼

292 則丘亦無所聞焉 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ×○○○ ○○○○ ○○○○

293 吾子言焉 ○○○○也 ○○○○也 ○○○○也 ○○○○也 ○○○○也 ○○○○也

294 君子入廟而右 ○○○○如 ○○○○如 ○○○○如 ○○○○如 ○○○○如 ○○○○如

295 俯察几筵 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○机

296 平明視朝慮其危難 ○○○○且 ○○○○且 ○○○○且 ○○○○且 ○○○○且 ○○○○且

297 日出聽政至於中冥 ○○○○于 ○○○○于 ○○○○于 ○○○○于 ○○○○于 ○○○○于

298 諸侯子孫往來為賓 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○

299 則勞×可知矣 ○○○○亦 ○○○○亦 ○○○○亦 ○○○○亦 ○○○○亦 ○○○○×

300 緬然長思出於國門 ○○○○四 ○○○○四 ○○○○四 ○○○○四 ○○○○四 ○○○○四

301 周章遠望觀亡國之墟 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ×

302 君既明此五者 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ 能

303 又少留意 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ×

304 於五儀之事 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ 于

305 則於政治何有失矣 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ×

306 哀公問於孔子曰 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ×

307 無取啍啍 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ 啍啍

308 啍啍誕也 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ 啍啍

309 士必慤而後求智能× ○○○○者× ○○○○者焉 ○○○○者焉 ○○○○者焉 ○○○○者焉 ×

310 大則無攻

○○○○

○○×○

○○能○

○○×○

311 其道如何

○○○○

○○○○

○○何如

○○○○

312 孔子對曰使君朝廷有禮

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

×○○○○○○○○○○○○○○

313 上下和親

○○○○

○○相○

○○相○

○○相○

314 民畔如婦皆君之仇也

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

315 將誰與守

○與誰○

○與誰○

○○○○

○與誰○

316 於是廢澤梁之禁

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○山澤○○

○○○○山澤○○

○○○○山澤○○

317 孔子對曰有之

○○×○○○○

○○×○○○○

○○×○○○○

○○×○○○○

318 為其有二乘

○○○○○○

○○×○○○○

○○×○○○○

○○○○○○

319 若是乎君子之惡

○○○○○○×○○

○○○○○○×○○

○○×○○○○

○○○○○○○○

320 詩之好善道甚也如此

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

321 公曰善哉夫君子

○○美○○○○

○○美○○○○

○○美○○○○

○○美○○○○

322 信有天命非惟人也

○○○○○○唯○○

○○○○○○唯○○

○○○○○○唯○○

○○○○○○唯○○

323 善吾子之言

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○○○言之

324 有雀生大鳥於城之隅

○○○○○○○○隅焉

○○○○○○○○隅焉

○○○○○○○○隅焉

○○○○○○○○隅焉

325 則國家必王而名必昌

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○益○

326 詭福反為禍至者也

○○○○○○×○○

○○○○○○×○○

○○○○○○×○○

○○○○○○×○○

327 × 其先世

又○○○

又○○○

又○○○

又○○○

328 殷王大戊之時

○○太○○○

○○太○○○

○○太○○○

○○太○○○

329 以致天孽	○○天孽	○○妖孽	○○天孽	○○妖孽
330 桑穀生於朝	○○○于○	○○×于○	○○×○○	○○×于○
331 大戊恐駭	太○○○	太○○○	太○○○	太○○○
332 重譯至者十有六国	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○鐸○○○○
333 所以警人臣×也	○○倣○○×○	○○倣○○者○	○○倣○○者○	○○倣○○者○
334 ×知此者至治之極也	能○○○○○○○○	能○○○○○○○○	能○○○○○○○○	能如○○○○○○
335 行已自取也	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	×○○○○○
336 佚勞過度者	逸○○○○○	逸○○○○○	逸○○○○○	逸○○○○○
337 居下位	吾○○○	○○○○	○○○○	○○○○
338 而上忤其君	○○干○○○	○○干○○○	○○干○○○	○○干○○○
339 動不量力者兵共殺之	○○○○×○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○×○○○
340 雖得壽焉不亦宜乎	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○

五本間の異同総数三四〇項のうち、証偽本即ち本書と一致するものは毛本が一九三項（その内本書が此本即ち毛本とのみ一致するもの三二項）、永本が一五一項（同じく〇項）、正義本が一〇九項（同じく九項）、呉本が九四項（同じく一二項）である。此の数字からも、毛本即ち汲古閣刊本が他の三本に比し、本書正文に密接近似せるテキストであることが明らかであろう。一

方で、異同総数三三九項のうち、一四八項が汲古閣刊本とは異なり、また対校四本のいずれとも合致しないものが九八項にも升っている。このことは即ち汲古閣刊本を必ずしも底本とは定めていないことを物語るものでもある。次に、此の事実を補証する事例を二三示しておく。卷一始誅第二「執之三月不別其父請止」句下の注に「荀子作請止。当依荀子」とみえるが、汲古

閣刊本は荀子に同じく「請止」に作り、「請正」に作るのは、永本、正義本、呉本で（異同表第五〇項参照）此の范氏の校注は汲古閣刊本を無視している。又、卷一大婚解第四「足以立上下之敬」句下に「夫婦正則始可以治正言礼」なる王肅注を引くが、此の王注の「始」字を汲古閣刊本は「汝」に作る（永本、呉本は「始」に作る）。

范氏証注の内、まれではあるが、何孟春或は呉嘉謨の注説を引証とし、また、「従何本改正」（卷二觀周篇第八第二章末の割注）、或は「旧本云云」との校記が処々に見えることから、諸本参照取捨した形跡が明らかで、特定の一本を藍本と定めて校勘されたものとは見做し難い。本文整定に関して言えば、やや恣意に流れた嫌いを免れない。

本注釈は、『証偽』という書名から直ちに明らかかなように、王肅家語偽撰を弁証することを以て主眼としている。十卷四十四篇の各篇各章各文に即き、「事本云云」、「其文襲云云」、「見云云」、「此取云云」等と一々その源委即ち所拠の原本を解明し、原本との同異を示して刪削改竄、増出添出、聯貫補湊の跡を解析し、更に行文の破綻、王註造文の矛盾を指摘する。源委不明の文節には「右未知所本」「余未知所本」と記して猶本づく所

有る可きを暗示している。范氏は本書卷末の「詠家語雜記」に於て王肅家語の「取書之原」を記し、所拠の原本として、大戴礼、礼記、説苑、史記孔子世家及弟子伝、荀子法行・子道・哀公問三篇、左伝・国語、新序、韓詩外伝・淮南子・尸子、莊子・列子・韓非子・呂氏春秋・戦国策、毛萇詩伝を挙げ、一々其の取書に即き当然の理あるを説く。更に「改書之弊」を記して、「家語所採之書多従刪改。或一事参合両事以成文、或一篇離為兩処以見異、或首尾加以問答、或中間加以聯貫、或刪削其字句、或潤色其贅牙。凡所變易痕迹宛然、但以原書校之、無不悉見。今就其可見者、平心論之、詳於各条之下。」（句説点は筆者）と。王肅の加増潤色の痕迹を指摘し、猶又、「家語所收間有失考者、疑即説苑之脱佚未可知也」と、「未知所本」即ち所拠不明の文は、現行の宋曾鞏校録説苑の不全に依るもので、その佚文であろうという。卷十一は、先ず「王肅序」を掲し、その誕妄矛盾を指斥して、殆ど信ずべからずと論じ、次に「孔安国序」（即ち旧本「後序」の前半）を掲げ、何孟春の所論を承けて王肅の贋作と見做し、序するところ悉く無拠妄説悠謬無稽の説と為す。更に「王肅後序」（即ち旧本「後序」の後半）は、前半の孔安国に至る孔氏の世系を史記世家に合わずとして疑い、後半の博士孔衍の上書も内

容上史乘に乖ずるとして全て王肅の捏造と断ずる。「読家語雜記」は総論的な性格を有し、家相の家語論の言わば薈粹で家語偽書論の要述である。「名義出処」「家語非出孔壁」「伝習」「家記之亡」「今家語之出」「篇数不同」「取書之原」「改書之弊」「諸家評論」「書行之由」「偽誣之尤」「王肅原本之訛」と論旨を分ち、既撰の割録を彙輯し、加筆整序したものである。

次の一文は家相の本書撰述の意図を最も良く示している。「王氏所註家語、先儒或信或疑。信者亦譏其雜而不純、疑者但知其增加旧説。未有全指其偽者、一以魏晋以来流传之旧或有所本、一以孔門之書存之為幸、且託於孔猛之所出、当非全誣也。不知是書之源委自王肅以前從未見諸儒言及、而肅言孔壁所藏博士所奏。独如此、了了非即肅之供牒耶」(「書行之由」と)。

尚、宋の史繩組、沈約、朱熹、陳振孫、王応麟、明の何孟春、吳嘉謨、劉宗周、清の顧炎武(絳)(日知録)、朱彝尊(孔門弟子考)、毛奇齡(四書改錯)等先儒の議論の引用がみられ或は参考引証となし、或は批判弁斥する。

家語四十四篇の全文を王肅の偽撰と論断したのは夙に宋王柏(宋慶元三八一—一九七)年生、咸淳一〇八二—二七四)年歿)があり、其の論義は「家語考」(『魯齋王文憲公文集』卷九所収)

に詳らかである。降って明郎瑛(明成化三三八—四八七)年生)は王柏の所論を承けて「家語非孔安国所為」(『七修類稿』卷二四)の小文を貽している。しかしながら、唐より以来宋元明を經、清初に到るまで、孔子家語は論語・孝經と共に孔子並に弟子の言行事績を伝えた先秦の古籍とみるのが猶一般であった。

しかるに、清代中葉以来、家語偽撰説が主流を占め、殆ど定論となつた趣がある。それはとりもなおさず考証学隆盛に伴つて生じた學術の成果の一端であろうが、その先鞭を着けたのが范家相の本書である。家相は朱彝尊の『經義考』に拠つて王柏の所論は承知していたであろう。しかしながら、全文に亘つて本文批判を試み、逐一基く所の原典を比定し王肅偽撰の手法を指斥した綿密精緻なる考証は家相を待つてはじめて成就したことであつて、その功業は甚大である。

尚、本書は羅暹春序の年紀から察するに、書成後百二十年余り経てはじめて刊行されていることに、注意を要しよう。此の間の伝承の経緯は明らかでなく、伝鈔本も現存しないようである。また、校刊の顛末も未だ詳らかにしない。

范家相、字は左南、又蘅洲或は雪舟と号す。浙江会稽の人。乾隆一九(一七五四)年の進士にして、刑部主事を授けられ、郎

中に陞る。同三三（一七六八）年、広西柳州府知府となるが、歳余にして疾を以て告歸し、ほどなく卒した。生卒年は詳らかにしないが歿年は乾隆三四・五年と推定される。家相の学は毛奇齡の学統を引くとされる。但、奇齡が詰駁攻撃を喜み、反つてまた攻撃を蒙つたのに鑑み、持論和平、放言高論は謹しんだ（『四庫全書提要卷』二六〇）。生平最も服膺したのは黄宗羲で、孝友直諒、古誼に敦く、榮達利欲には淡懷泊如であった。著作は多く、特に考証に秀で、詩学に尤もその蘊蓄を示している。ただ多くは今伝わらず、管見に入れる著書は本書を除けば次の三書に過ぎない。

三家詩拾遺一〇卷首目一卷〔清〕刊光緒二三（一八八七）

年修（墨潤堂）〔范氏三種〕所収本

自序（乾隆甲戌八一九年）四月長至後十日会稽范家相

序、序（乾隆丁亥八三一年）三月清明後一日吉水弟羅

暹春撰

尚、四庫全書本は自序の年紀を庚辰、即ち乾隆二五年とする。

本書には次の葉鈞による重訂本がある。

重訂三家詩拾遺一〇卷 清葉鈞重訂 譚瑩校 清道光三〇

（一八五〇）年刊（南海伍氏）嶺南遺書所収本

此本、自序年紀を、庚戌に誤る。

詩藩二〇卷〔清〕刊光緒二三（一八八七）年修（墨潤堂）

〔范氏三種〕所収本

序（乾隆甲戌八一九年）九月望後二日年通家侍生秀水諸

錦序、序（乾隆二十八年歲次癸未二月虞山同学年愚弟

顧鎮頓首拜題）、序（大興翁方綱頓首序）、自序（乾隆二

十五年歲次庚辰正月上元会稽范家相序）

以上二書は欽定四庫全書經部三詩類に収録されている。

夏小正輯註四卷〔清〕刊光緒二三（一八八七）年修（墨潤

堂）〔范氏三種〕所収本

序（乾隆三十二年正月上元范家相自序）、（乙亥八嘉慶二

〇年）夏日改庭再侄芝跋）

以上三書並に〔范氏三種〕に収める。各書首、扉裏の木記に

「会稽范氏藏板光緒丁亥年墨潤堂重脩」とある。開板の年月を

詳らかにせず、また未修原本の現存するところを聞かない。

此のほか、易說二卷、書義拾遺七卷、四書貫約一〇卷、韻学

攷原二卷、今韻律五卷、史漢義法一〇卷、史記蒙拾三卷、廟制

問答二卷、刑法表四卷、南中日札四卷、文集二〇卷（以上、清

同治刊紹興府志卷五三人物志一三儒林に拠る）、及び古趣亭詩

一冊（諸錦撰詩潘序に拠る）環渌軒詩草（『国朝詩人徵略』卷三六）の著述がある。略伝は、清史列伝卷六八儒林伝下、国朝学案小識卷一三に見えている。尚、清儒学案には、目錄の卷二六毛奇齡西河学案下の末に名のみ見え、本文該処には記述が無い。

孔子家語疏証 一〇卷 清陳士珂輯 清嘉慶二三年（一八一八）年刊

未見。『販書偶記』卷九子部儒家類議論經濟之属に著録さる。

本書が嘉慶二三年に初めて刊行された事実に就いては、次掲、『湖北叢書』所収本首にみえる、同年春三月陳詩撰「孔子家語

疏証序」末の一文が旁証とならう。曰く「已而先生（即ち陳士珂）帰道山、哲嗣金門就官南楚、相晤于鄂城、以兄事余、命其二子沈灑師余為老馬。未幾二子聯翩官京師、会以仮帰。而今歲之春、金門于長沙官署、一日檢旧篋、得二書稿本。亟命二子攜以來鄂、取其書示余、而蜀為之序、以次版行焉」と。金門とは士珂の子光詔の字、乾隆四四（一七七九）年の挙人で、大挑に由り湖南省長沙・湘陰・永定・平江等の知県を歴任し、恵政を称せられた人物である（光緒六八一八八〇年修『蕪水県志』卷一〇人物志宦蹟、光緒一〇年修『黃州府志』卷二一人物志宦蹟

下）。また、此の序文を撰じた陳詩は、蕪州の人、乾隆四三年の進士で工部主事を授けられ、後に江漢書院院長を勤めた（咸豐二八一八五二年修同治二八一八六三〇年補『蕪州志』卷一一人物志儒林）。蕪水陳氏とは同族であり、士珂を先生と称し、光詔とは兄弟を称する間柄にあつて、光詔の子沆・灑は詩を師としている。詩序に拠れば「今歲」、即ち嘉慶二三年の春、光詔は、長沙官署において、旧篋の中より士珂の遺稿を見出した。「二書」とは、本書及び『韓詩外伝疏証』を云う。光詔はすぐさままたまたま仮帰していた二子沆・灑を、此書を携えて詩のもと鄂城へ遣り、序を求めて版行に及んだものと記す。

更に今一つ、嘉慶二三年刊行を旁証するものとして、同年季夏月撫楚使者海豊張映漢撰の「韓詩外伝疏証序」がある。『韓詩外伝疏証』の原刊本は未だ管見に入らぬが、『増訂四庫簡明目錄標注』邵章統録、或は『統修四庫全書提要』に嘉慶二三年刊本が著録され、同年の刊行にかかることは疑を入れぬ。今、『文淵樓叢書』所収本に従つて、映漢の序文を抄録する。「退食之暇、偶取所藏韓詩外伝諦觀之、竊憾其字句多脱誤、而未有以正也。一日拳以語陳虞部愚谷、虞部遂言曰（略）琢軒諱士珂、蕪水宿儒、由歲貢生拳乾隆丁酉鄉試。戊寅之夏、其文孫国録沆

庶常灃以假歸、拳是書付劄颺氏、且來請序余因述其書之梗概」
と。愚谷は陳詩の号。戊寅は即ち嘉慶二三年。また、その本の
首には、

蕪水琢軒陳士珂輯

男光詔金門孫

治際安
沢蘭階

同校

沈秋舫
灃大雲

と題署されている。本書もまた此の『韓詩外伝疏証』と同様、
光詔・沈・灃等父子の校訂刊行になるものと看做して相違ない
であろう。

ちなみに、陳沆は原名を学廉、字は大初、秋舫と号した。嘉
慶一八(一八一三)年の挙人で、陳詩序に「官京師」と、張映漢
序に「国録」とあるのは、国子監某堂の学録に任じたのである
う。灃はその弟で、嘉慶二十一年、相繼いで郷試に中り、翌二二
年、兄に先だつて進士となつて「庶常」即ち翰林院庶吉士に任
ぜられている。本書が刊行されたのはその翌年に当る。更にま
たその翌年即ち嘉慶二十四年の恩科に於て、沆も続いて進士に挙
げられ、廷試第一名状元の榮譽を得、翰林院修撰の官に就いて
いる。兩人の伝は光緒六(一八八〇)年修『蕪水県志』卷九人物
志文苑或は、光緒一〇年修『黄州府志』卷一九人物志文苑に見

える。

同 清光緒一七(一八九一)年刊(三餘艸堂) 湖北叢
書所収本

書扉「陳氏孔子／家語疏証／十卷」と題し、裏に「光緒辛卯
三／餘艸堂藏板」なる木記あり。首に「孔子家語疏証序」(「嘉
慶二十有三年戊寅春三月族人詩撰」)及び「孔子家語疏証目錄」
を冠す。本文卷頭「孔子家語疏証卷一(隔二)湖北叢書用蕪水陳
氏家藏本／(低一)蕪水陳士珂輯／相魯第一」と題し本文に入る。
尾題は首題に同じ。但、卷数下に「終」字があり、題次行低一
三格に校字・覆校者名(各卷異なる)あり。四周单边(一五・
八×一一・一糧)、有界、十一行行廿字、疏証文大字単行低一
格行十九字。版心上大黒口、下小黒口、双黒魚尾、「孔子家語疏証
幾(丁付)、毎葉下象鼻左に字数あり。章節毎に改葉さる。

『湖北叢書』は清趙尚輔編、經部一三種、史部八種、子部七
種、集部一種の計二十九種を収録するが、本書の如く、書前の
封面に「光緒辛卯／三餘艸堂藏板」等と題署する外には、前後
並に刊書序跋の類は無く刊行の経緯顛末を詳らかにしない。編
者、字は翼之、四川万県の人、光緒中の進士で、湖北学政とな
る。従つて本編は、尚輔学政時の編刊にかかる(『統修四庫全

書提要』子部雜叢郡邑類参照)。本書は首題下に「湖北叢書用新水陳氏家藏本」と題され、恐らくは前述の嘉慶二三年原刻本に拠れる翻刻であろう。原刻本罕伝の為か再刊弘通を企つたものと推則される。此の湖北叢書本は、次に掲げる如く、民国以後再三影印或は翻印され、家語の清人撰述注釈書類の内でも最も流通するに至っている。

同 民国五七(一九六八)年刊(台北 文海出版社)

影印清光緒一七年刊湖北叢書本 国学集要三編十種所収本 A5二冊

同 民国五八(一九六九)年刊(台北 芸文印書館)

影印国立台湾大学図書館藏清(光緒一七年)刊湖北叢書本 百部叢書集成所収本 唐中八冊

同 民国二六(一九三七)年刊(上海 商務印書館)

鉛印 翻湖北叢書本 万有文庫第二集所収 断句本 未見 『中国近代現代叢書目録』に拠る

又 民国二八(一九三九)年印(長沙 商務印書館)

叢書集成初編所収 B6四冊

又 民国三〇(一九四一)年印(上海 商務印書館)

国学基本叢書所収 未見 『中国近代現代叢書目録』

に拠る

同 民国五七(一九六八)年刊(台北 台湾商務印書館)

館) 影印国学基本叢書四百種所収

同 民国六〇(一九七一)年刊(台北 台湾商務印書館)

館) 影印 人文庫 書一冊

同 一九八七年刊(上海 上海書店) 影印国学基

本叢書所収本 B6一冊

本書四十四篇の卷立篇次は、永懷堂刊本、姜兆錫正義本とは異なり、汲古閣刊本、明翻南宋刊本等に一致する。即ち、卷九に、七十二弟子解第三十八、本姓解第三十九、終記解第四十、正論解第四十一を、卷十に、曲礼子貢問第四十二、曲礼子夏問第四十三、曲礼公西赤問(本書篇題「公」字を脱す)第四十四を収める。

本書には所拠の底本に就いては一切触れられていない。従つて藍本を推定するには正文に即いて諸本との同異の検討を要する。書成当時即ち乾隆嘉慶の交に於て伝存し、著者が参見依用した可能性の強い王肅注本四本、明翻南宋刊本(黄本と略す、四部叢刊本に拠る)、永懷堂刊本(永本)、汲古閣刊本(毛本)及び明吳嘉謨集校本(呉本)を採りあげ、卷一、七篇に即いてその間の異同を表示すれば次の如くである。

疏証本 (字句下に(正)とあるのは姜氏正義本とのみ一致することを示す)

黄本 (明翻南宋刊本)

永本 (永懷堂刊本)

毛本 (汲古閣刊本)

吳本 (吳嘉謨集校本)

(相魯第一)

1 器不雕偽

○○○○

○○○○

○○彫○

○○彫○

2 五寸之椁

○○○○

○○○○

○○○槨

○○○槨

3 因邱陵為墳

○丘○○○

○丘○○○

○丘○○○

○丘○○○

4 于是二年定公以為司空

於○○○○○○○○○○

於○○○○○○○○○○

於○○○○○○○○○○

於○○○○○○○○○○

5 由司空為魯大司寇

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○×○○

○○○○○○○○×○○

6 無姦民

○○○○

○○○○

○姦○

○姦○

7 定公与齐侯会于夾谷

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○於○○

8 古者諸侯並出疆

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○×○○

○○○○○○○○○○

9 齊使萊人以兵鼓譟

○○○○○○○○○譟

○○○○○○○○○譟

○○○○○○○○○譟

○○○○○○○○○譟

10 于神為不祥

於○○○○

於○○○○

於○○○○

於○○○○

11 于德

於○

於○

於○

於○

12 為僭義

○愆○

○愆○

○愆○

○○○

13 于人為失礼

於○○○○

於○○○○

於○○○○

於○○○○

14 匹夫熒侮諸侯者

○○○○○○○○

○○○○○○○○

疋○○○○○○○

○○○惑○○×

15 罪庇誅

○○○○

○○○○

○○○○

○当○

16 請右司馬速加刑焉

○○○○○○○○×○○

○○○○○○○○×○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

17 于是斬侏儒

於○○○○

於○○○○

於○○○○

於○○○○

- | | | | | |
|---------------|----------|----------|----------|----------|
| 35 尸于朝三日 | ○於○○○ | ○於○○○ | ○於○○○ | ○於○○○ |
| 34 于是朝政七日而誅 | 於○○○○○○○ | 於○○○○○○○ | 於○○○○○○○ | 於○○○○○○○ |
| 33 四方客至于邑× | ○○○○於○× | ○○○○於○者 | ○○○○於○者 | ○○○○於○者 |
| 32 賣羊豚者不加飾 | 賣○○○○○ | 賣○○○○○ | 賣羔○○○○○ | 賣羔○○○○○ |
| 31 有慎潰氏× | ○○○○× | ○○○○× | ○○○○× | ○○○○者 |
| 30 疆公室 | 強○○ | 強○○ | 疆○○ | ○○○ |
| 29 孔子命申句須樂頤 | ○○○○○○○ | ○○○○○○○ | ○○○○○○○ | ○○○○○○○ |
| 28 叔孫不得意于季氏 | ○○○○○○於○ | ○○○○○○於○ | ○○○○○○於○ | ○○○○○○於○ |
| 27 孔子言于定公曰 | ○○○○於○○ | ○○○○於○○ | ○○○○於○○ | ○○○○於○○ |
| 26 于是乃歸所侵魯之四邑 | 於○○○○○○○ | 於○○○○○○○ | 於○○○○○○○ | 於○○○○○○○ |
| 25 而子獨以夷狄× | ○○○○○○× | ○○○○○○× | ○○○○○○× | ○○○○○○之○ |
| 24 魯以君子× | ○○○○○○× | ○○○○○○× | ○○○○○○× | ○○○○○○之○ |
| 23 用糝糝君辱 | ○○○○○ | ○○○○○ | ○○○○○ | ○○糝○○ |
| 22 是用糝糝 | ○○○○○ | ○○○○○ | ○○○○○ | ○○糝○○ |
| 21 孔子謂梁丘扈曰 | ○○○○○○○ | ○○○○○○○ | ○○○○○○○ | ○○以○○○○○ |
| 20 吾以供命者 | ○○○○○ | ○○○○○ | ○○○○○ | ○所○○○ |
| 19 孔子使茲無還對曰 | ○○○○○○○ | ○○○○○○○ | ○○○○○○○ | ○○○○選○○ |
| 18 手足異処 | ○○○○○ | ○○○○○ | ○○○○○ | ×××× |

(始誅第二)

36 魯之聞人也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
37 今夫子為政而始誅之	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
38 吾語汝以其故	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
39 二曰行僻而堅	○○○○○	○○○○○	○○○辟○	○○○○○
40 三曰言偽而辯	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
41 五曰順非而澤	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
42 有一于人	○○於○	○○於○	○○於○	○○於○
43 其居勉足以撮徒成党	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
44 其談說足以飾褒榮衆	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
45 其疆禦足以反是獨立	○強○○○○○	○強○○○○○	○○○○○	○強○○○○○
46 此乃人之姦雄者也	○○○○○	○○○○○	○○○姦○有×	○○○○○
47 是此七子皆異世	○○○○○	○○○○○	凡○○○○○	凡○○○○○
48 以七子異世而同惡故不可赦也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	××××××××××
49 其父請止	○○○○○	○○○正	○○○○○	○○○正
50 孔子喟然歎曰	×○○○○○	×○○○○○	×○○○○○	×○○○○○
51 獄犴不治	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○行○○○
52 而後以威憚之	○○○○○	○○○○○	○○○○○	然○○○○○

(王言解第三)

53 孔子問居	曾○○○	○○○	○○○	○○○
54 曾參待	○○○侍	○○○侍	○○○侍	○子侍
55 唯士与大夫之言可聞也	○○○	○○○	惟○○○	○○○
56 至於君子之言者希也	○○○	○○○	○○○	○○○
57 曾子起下席而对曰	○○○	○○○	○○○	○○○
58 敢問何謂王之言	○○○	○○○	○○○者	○○○者
59 曾子曰侍夫子之間也難	○○○	○○○	○○○	××××××××××
60 对是以敢問孔子又不応	○○○	○○○	○○○	××××××××××
61 有頃孔子歎息	○○○	○○○	○○○	○○○
62 顧謂曾子曰	○○○	○○○	○○○	○○○
63 居吾語汝	○○○	○○○	○○○	××××
64 不可以×道里	○○○×○○	○○○×○○	○○○取理	○○○趣○○
65 則必折衝×千里之外	○○○×○○○○	○○○×○○○○	○○○	○○○平○○○○
66 其征也則	○○○×○	○○○×○	○○○	○○○
67 必還師衽席之上	○○○衽○○○	○○○衽○○○	○○○衽○○○	○○○
68 政之不平	○○○	○○○	○○○中	○○○中
69 闕譏市鄽皆不收賦	○○○	○○○	○○○	○○○塵○○○○
70 則下益悌	○○○	○○○	○○○	○○○弟
71 上惡貧	○○○	○○○貧	○○○貧	○○○貧

90 又知其教及其所在焉	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× × × × × × × × × × × ×
89 万民懷其惠	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× × × × × × × ×
88 利用不施而親	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
87 如寒暑之不驗	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
86 如饑而食	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
85 其迹可履	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
84 其言可覆	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
83 慘怛以補不足	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
82 非以盈宮室也	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
81 恤行者×有亡	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
80 乃為稽積資聚焉	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
79 千步為井	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
78 如手足之於腹心×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
77 誘孝悌	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
76 然則賢者悅而不肖者懼	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
75 布諸天下四方而不窕	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
74 六者教之至也	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
73 民敦×俗璞	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
72 則本正也	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

91 則天下之×名譽興焉	○○○○民○○○	○○○○民○○○	○○○○明○○○	○○○○×○○○
92 能奉天下之至賢者也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○×
93 此之謂還師衽席之上	○○○○衽○○○	○○○○衽○○○	○○○○衽○○○	○○○○○
94 (大昏解第四)	○婚○○○	○婚○○○	○婚○○○	○婚○○○
95 公×曰	○問○	○問○	○問○	○×○
96 敢問人道孰為大	○○○○○	○○○○○	○○○○誰○○	○○○○誰○○
97 孔子愀然作色而对曰	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○××××
98 君×及此言也	○×○○○○	○×○○○○	○×○○○○	○之○○○○
99 固臣敢無辭而对	○○○○○	○○○○○	○○○○○	×○○○○○
100 君為政則百姓從而正矣(正)	○○○正○○○○○	○○○正○○○○○	○○○正○○○○○	○○○正○○○○○
101 君之所為百姓之所從君 不為正百姓何所從乎	○○○ ○○○	○○○ ○○○	○○○ ○○○	××× ××× ××× ××× ××× ×
102 可得聞乎	○○○○○	○○○○○	○○○○○	××××
103 古之×政	○○○×○	○○○×○	○○○×○	○○○為○
104 大婚為大	○婚○○○	○婚○○○	○婚○○○	○婚○○○
105 大婚至矣	○婚○○○	○婚○○○	○婚○○○	○婚○○○
106 ××××	××××	××××	××××	大婚既至
107 冕而親迎	○○○○○	○○○○○	○○○○×	○○○○○
108 親迎者敬之×也	○○○○○×○	○○○○○×○	○○○○○×○	○○○○○至○

- 109 愛与敬其政之本與 ○○○○○○○○○○○
- 110 君何謂已重焉公曰 ○○○○○○○○○○
- 111 大婚万世之嗣也 ○婚○○○○○○○
- 112 君何謂已重焉孔子遂言 ○○○○○○○○○○
- 113 出以治直言之礼 ○○○○○○○○○○
- 114 × 以立上下之敬 ×○○○○○○○○○
- 115 国恥則足以興之（正） ○○○×○○○○○○○
- 116 孔子遂言曰 ○○○○○○○○○○
- 117 身也者親之支也 ○○○○○○○○○○
- 118 傷其親是傷本也 ○○○○○○○○○○
- 119 傷其本則支從之而亡 ○○○○○○○○○○
- 120 昔太王之道也 ○○○○○○○○○○
- 121 ××× 則能成其親矣 ×××○○○○○○○○○
- 122 君子者也人之成名也 ○○○○○○○○○○
- 123 ×××××××××××××× ××××××××××××××
- 124 敢問何謂能成身（正） ○○○○×○○○○○○○
- 125 不過乎物合天道也 ○○○○×○○○○○○○
- 126 君之及此言是臣之福也（正） ○子○○○○○○○○○○○

（儒行解第五）

127 冉求言於季孫曰

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○有○○○○○

128 請以重幣迎之

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○言○

××××××

129 其服以鄉×

○○○○×

○○○○×

○○○○×

○○○俗

130 則留×僕未可以對

○○×○○○○○

○○×○○○○○

○更○○○○○

○更○○○○○

131 孔子侍坐曰

○○○○○○

○○○○○○

○○○○×

○○○○○○

132 儒有衣冠中動作慎

○○○○○○○順

○○○○○○○順

○○○○○○○順

○○○○○○○

133 ×大讓如慢

其○○○○○

其○○○○○

其○○○○○

×○○○○○

134 難進而易退×

○○○○○○×

○○○○○○×

○○○○○○×

○○○○也

135 行必忠正

○○○○○

○○中○

○○○○○

○○中○

136 道途不爭險易之利

○塗○○○○○

○塗○○○○○

○塗○○○○○

○塗○○○○○

137 其備預有如此者

○○○○○○○

○○○○○○○

○豫○○也

○○○○○○○

138 不求多積×多文以為富

○○○○○○×○○○

○○○○○○×○○○

○○○○○○×○○○

○○○○而○○○

139 先勞而後祿不亦易祿乎

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○×××

○○○○×○○○

140 其近人情有如此者

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○

141 儒有委之以財貨而不貪

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○貨財○○

142 阻之以兵

○○○○○

○○○○○

沮○○○

○○○○○

143 而不懾

○○○○

○○○○

○○○○

○○攝

144 鷙虫攫搏不程其勇引重
鼎不程其力

××××××××

××××××××

××××××××

○○○○○○○○

145 過言不再	○○○○	○○○○	○○○○	○○○甫
146 其過失可微辯	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○○辨
147 戴仁而行	○○○○	○○○○	載○○○	○○○○
148 抱德而處	○○○○	○○○○	○○○○	○義○○
149 其自立有如此者	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○守○○○
150 其為士有如此者	○○○○○	○○○○○	○×仕○○○	○○仕○○○
151 儒有今人以居古人以稽	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
152 若不逢世上所不援	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
153 詭詔之民	○○○○○	○○○○○	○詭○○○	○○○○○
154 有比党而危之者	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
155 雖危起居猶竟信其志	○○○○○	○○○○○	○猶起居○身○	○○○○○
156 幽居而不淫上通而不困	○○○○○	○○○○○	○○○○○	×××××
157 內稱不避親外舉不避怨	○○○○○	○○○○○	○○×××××	○○○辟○○○
158 儒有澡身浴德	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○×○○○○
159 靜言而正之	○○○○○	○○○○○	○○○○○	×○○○○
160 而上下不知也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	××○○○
161 又不急為也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○為急○
162 其特行獨立有如此者	○○○○○	○○○○○	○立○行○○○	○立○行○○○
163 底厲廉隅	○○○○○	○○○○○	砥○○○愚	砥礪○○○

164 博学以知服×××

○○○○○○×××

○○○○○○×××

○○○○○○×××

○○○○○○近文章

165 視之如錙銖

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○×○○○

166 義同而進不同而退

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○則○○則○

167 其交×有如此者

○○×○○○○○

○○×○○○○○

○○×○○○○○

○友○○○○

168 慎敬者人之地也

○○○仁○○○

○○○仁○○○

○○○仁○○○

○○○仁○○○

169 儒皆兼此而有之

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○×○○○

170 不溷君王

○○○○○

○○○○○

○恩○○○

○○○○○

171 今人之名儒也妄

○○○○○○○忘

○○○○○○○○

○○○○○○○忘

○○○○○○○

172 哀公既得聞此言也

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○×○○○

173 子之言礼何其尊也

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○×

174 不足以知大礼也

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○×

175 事天地之神焉

○○○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○×

176 非礼則無以辨

○○○○○○○辯

○○○○○○○辯

○○○○○○○辯

○○○○○○○

177 婚姻親族

婚○○○○

婚○○○○

婚○○○○

婚○○○○

178 疏数之交

踈○○○○

踈○○○○

踈○○○○

○○○○○

179 君子×此之為尊敬

○○○×○○○○○

○○○×○○○○○

○○○×○為之○○

○○○以為之○○

180 ××不廐其会節

××○○○○○○

××○○○○○○

所能○○○○○○

××○○○○○○

181 而後治其××文章黼黻

○○○○○○××○○○○

○○○○○○××○○○○

○○○○○○××○○○○

然○○○彫鏤○○○○

182 以敬其祭祀	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
183 別其親疏	○○○疎	○○○疎	○○○疎	○○○○○
184 而後宗族會讌	○○○○○醺	○○○○○醺	○○○○○醺	○○○○○宴
185 車不雕璣	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
186 器不彫鏤	○○○形	○○○形	○○○刻	○○○形
187 以与萬民同利	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
188 荒怠慢遊	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○游
189 以忤其衆	×○○○	×○○○	○○○○○	○○○○○
190 孔子言我欲觀夏道	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
191 吾得坤乾焉坤乾之義(正)	○○○乾坤○乾坤○	○○○乾坤○乾坤○	○○○乾坤○乾坤○	○○○乾坤○乾坤○
192 ×燔黍擘豚	×○○○○	×○○○○	×○○○○	其○○○○
193 汙罇×杯飲	○○○×杯	○○○×杯	○○○×	○○○而杯
194 簣桴×土鼓	簣○×○○	簣○×○○	×××××	簣○而○○
195 猶可以致敬×鬼神	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○於○○
196 升屋而号告曰高某復	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○
197 然後飲腥苴熟	○○○○○	○○○○○	○○○飯	○○○○○
198 是謂天望而地藏也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	為○○○○
199 夏則居橧巢	○○○橧	○○○橧	○○○○○	○○○○○
200 以為××宮室戶牖	○○○××○○○○	○○○××○○○○	○○○××○○○○	○○○臺樹○○○○

201 ××××以降×上神 ×××××××××× 以其祝嘏○○其○○

202 是謂承天之祐 ○○○○祐 ○○○○祐 ○○○○祐 ○○○○祐

203 越席以坐 ○○○○ ○○○○ 越○○○ ○○○○

204 疏布以霽 ○○○○ ○○○○ ○○○○ 罩○○○

205 衣其浣帛 ○○○○ ○○○○ ○○○○ 布○○○

206 以嘉魂魄×××× ○○○○×××× ○○○○×××× ○○○○是謂合莫

207 是謂大祥 ○為○○ ○為○○ ○為○○

(五儀解第七)

208 然則章甫紉×履 ○○○○× ○○○○× ○○○○衢 ○○○○×

209 紳帶纒笏者 ○○○○ ○○○○ ○搢○○ ○搢○○

210 皆賢人也 ○○○○ ○○○○ ×○○○

211 夫端衣玄裳冕而乘軒者 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○垂○○

212 則志不在於酒肉 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ×○○○

213 敢問何如斯可謂之庸人 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ×○○○

214 不挾賢以託其身 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○托○○

215 見小闇大而不知所務 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○

216 ×××××××××× ×××××××××× ×××××××××× 五擊為正心從而懷

217 雖不能盡×道術之本 ○○○○× ○○○○× ○○○○通○○○

218 必審其所由智既知之 ○○○○ ○○○○ ○○○○ 知○○○

219	則若性命之形骸之	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
220	此則君子也	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	××○○○○○○○○○○○○○○○○	××○○○○○○○○○○○○○○○○
221	道足以化於百姓	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
222	此則賢者也	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○×○○○○○○○○○○○○○○○○	○○×○○○○○○○○○○○○○○○○
223	所謂聖×者	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
224	敷其大道而遂成性情(正)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	××××××××××××××
225	未嘗知勞	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
226	則丘亦無所聞焉	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	×○○○○○○○○○○○○○○○○
227	俯察几筵	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
228	日出聽政至於中冥	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
229	諸侯子孫往來為賓	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
230	則勞亦可知矣	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
231	周章遠望觀亡国之墟	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
232	君既明此五者	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	能○○○○○○○○○○○○○○○○
233	又少留意	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	×○○○○○○○○○○○○○○○○
234	則於政治何有失矣	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	×○○○○○○○○○○○○○○○○
235	哀公問於孔子曰	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○×
236	無取啍啍	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
237	啍啍誕也	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○

257 居下位而上干其君

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

吾○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

258 動不量力者兵共殺之

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

259 雖得寿焉不亦可乎

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

宜○○○○○○○○

宜○○○○○○○○

表示した二五九項の異同の内、各本本書と一致するものは黄

本が一八一項（此の内、本書が該本とのみ一致するのは二項）、

永本が一八二項（同じく二項）、毛本が一八項（同じく一項）、

呉本が六四項（同じく一九項）である。此の数字から本書正文

は、毛本・呉本よりは、はるかに、黄本或は永本に近接してい

ることが明らかであろう。黄本と相違する七八項のうち3の邱

丘、45の疆強、6793の枉枉、86の饑飢、10410511177の婚姻、136の

途塗、176の辨辯、178183の疎疎、227の几机は、本字、別体字、同

字、通用字の関係にある所謂、異体字であり、また410111317

26272833343542228250の于於、74至致、94の昏婚、184の譙醜、194

の簣蕘、251の太太は一般に通用され文義上乖異を生ずるもので

はなく、また両本の近接関係に於て必ずしも負の要因となるも

のではない。従つて事実上本書が黄本と相違するのは、91216

303250535466758087889195100115124125126132133144151152154162168171186189

190191193199202207224236237239242245249256の四五項に限られる。永本に即

いてみても略同様の数字が示され（これは、本稿(一)に於て指摘

した如く、永本が黄本を底本としているのであれば当然の結果

である）るが、上述した如く、永本とは卷立篇次を異にするこ

とから、黄本を本書の底本と認め得べき蓋然性が高い。一方で、

黄本と相違を示す四五項のうち、1275809195125132133144152154202245

の一三項が呉本とのみ合致し、100115124126191224239の七項は前掲の

姜氏正義本とのみに合致することから、呉本、正義本をはじめ

とする幾本かを参校した形跡も窺える。

黄本との近似性は、本稿(一)（229頁参照）に於て示した黄本の

脱文錯簡の個処を本書について比較すればより明らかになる。

本稿(一)該所に於て916の数字下に指摘した七十二弟子解第三

十八の脱文は正文については本書も尽く脱している。また1718

の曲礼子夏問第四十三、曲礼公西赤問第四十四の間の黄本の錯

簡も、ほぼそれを踏襲し、只、黄本では子夏問篇「季桓子死」

章を中途断絶した錯入であったのを、本書は此の章は首尾完好

させ、次に公西赤問篇の「孔子有母之喪」「顔回死」「原思言於曾子曰」の三章を竄入し、黄本が錯入せる「孔子有母之喪」章に続く「孔子之母既喪」章の後半は、本書では公西赤問篇にもどしてそこで此章を完備させている。従って本書は、公西赤問篇の「孔子有母之喪」章から「原思言於曾子曰」章までを子夏問篇の「季桓子死」章と「子罕問於孔子曰」章の間に錯置したこととなり、黄本の錯簡の痕跡を留めるものと見做される。また、曲礼公西赤問篇「衛莊公之反国」章以下及び後序全文を脱していることも黄本と規を一にする。以上のことから、本書の底本は、黄本、もしくは黄本により近接せる一本と考えて過誤ないであろう。

本書編述の体例は、陳詩の序文に撰者陳士珂の言を引き、「予嘗据本書為綱、而互見于他書者、仍用大字書之、以附其後、与所輯韓詩外伝、体例相同、名之曰疏証」とある如く、まず、正文を章段に句切つて掲出し（但し王言解第三・大昏解第四・儒行解第五・弟子行第十二・入官第二十一・五帝第二十四・郊問第二十九・五刑解第三十・刑政解第三十一・礼運第三十二・冠頌第三十三は一篇一章）、該文と同義同事の類文或は参照記載を群書の内に旁搜採摭し各篇末或は章末に一格を低して引載列挙

し、末に出典名並にその篇名卷数等を小書附記してある。かかる編述の手法は同人撰の『韓詩外伝疏証』と共通する。韓詩外伝首には「互見諸書目錄」が冠してあるが本書には無い。今それに倣つて本書引載諸書を示しておく。経部（尚書大伝・詩・韓詩外伝・同佚文見緯略・儀礼・礼記・大戴礼・三礼義宗・春秋左氏伝・春秋公羊伝・春秋穀梁伝）、史部（史記・国語・戦国策・晏子春秋・世本八詩商頌那正義引）、子部（荀子・孔叢子・賈宜新書・新序・說苑・韓非子・呂氏春秋・淮南子・白虎通・列子・文子・尸子へ太平御覽引・文選琴賦注引）。以上、『三礼義宗』を除けば全て、先秦秦漢成立の旧典である。『三礼義宗』は梁崔靈恩撰、佚書にして、『玉函山房輯佚書』に蒐めて四巻と成す。『玉函山房輯佚書』抛用の底本は乾隆中章宗源の集録した稿本とされ、従つて、本書編述時既に、此の『三礼義宗』は亡佚していたと考えるのが妥当で、本書に於ける此の引用は、『礼記』檀弓上正義引くところに拠るものと見做されるが、字句に些少の違いがある。

叙上の撰述体例を以つて、撰者の意が王肅の家語偽撰或は増加説の立証にあるとする見解、例は「章ごとに広く引用原本と思われる各書の関係部分を抽出列挙している。証譌（即ち范家

相撰家語証偽（筆者補記）のように説明や批判を全く加えていないのが偽作立証の効果を反って強からしめている」（明德出版社刊中国古典新書『孔子家語』巻頭解説）との如き見解は當を失した誤認であろう。本書撰述当時、家語偽撰説は既に殆ど通説であったが、なお疑義も存したのであって、陳士珂は寧ろその疑意を存して闕疑の立場を持し、安易な考証論義の回避を企り学者の諦思を促したものと看るのが妥当であろう。陳詩序に見える次の詩と士珂との問答が参考になる。「因拳以問先生曰、『是書也、子朱子于四書章句集註、嘗屢引之。而顏監注漢書芸文志、則以為非今所有家語、或者以為王肅增加。近之宗漢學者、遂置不道、其果然乎。』先生曰『子之意殆与予同。夫事必兩証而後是非明。小顏既未見安国旧本、即安知今本之非是乎。且子觀周末漢初諸子、其称述孔子之言、類多彼此互見、損益成文、甚至有問答之詞、主名各別、如南華重言之比、而溢美溢惡、時時有之。然其書並行、至于今不廢。何独于是編而疑之也。予嘗据本書為綱、而互見于他書者、仍用大字書之、以附其後。与所輯韓詩外伝、体例相同、名之曰疏証。将使學者参考而諦觀之。他日吾子覽焉、当有実獲我心之歎』」と。即ち顏師古は漢書芸文志著録の家語は当時伝存した家語とは異なる本であると云う

が孔安国が編撰したとされる古本家語は唐代既に失伝して、双方を比較検証する手段はなかったはずで、師古は伝存今本的一方を非として貶けているわけではない、更に、漢代以前に成立した諸子の旧籍には処々孔門の言行が称述されて同類の文辭が彼此互見し、往々相互に異同詳略参差矛盾を露呈しながらなお且つ並び存して今に通行している、従つて家語のみを疑い偽書として排斥するのは公正ではない、というのが士珂の論旨の大筋であろう。士珂はまた家語偽撰説を否定するものでもない。両証を旨とする撰者の考証家としての慎重なる見識が、他書互見の同類文の列举という本書撰述の体式を生んだのであり、上述の如く、同人撰述の『韓詩外伝疏証』も全く同様の手法が生かされている。「韓詩外伝疏証序」（嘉慶二十有三年季夏月撫楚使者海豊張映漢撰）の末に「他日依此例尽取諸書、互為主客、於以化專己守殘之陋、与入主出奴之私、不亦善乎」と結ぶ。專己守殘の陋と入主出奴の私から逸れること、すなわち固陋な己の偏見に固執せず、狭量な学派の成見より超脱することは考証家学人の遵守すべき鉄則である。士珂が用いた撰述の体例は、かかる見識を具現したものととして評価すべきであろう。

我国に於ては服部宇之吉が「家語ノ古書ヲ割裂シテ織成サレ

タルヲ疏証シタルモノハ、孫志祖ノ孔子家語疏証及ビ陳士珂ノ孔子家語疏証有リ、皆参考ニ資スベシ」(「孔子家語解題」、末に「大正三年十二月三十日」と記し自著あり、—『漢文大系』孔子家語卷首)と評して以来、武内義雄「読家語雜識」(全集第四卷儒教篇三)、林泰輔「孔子家語解題」(有朋堂文庫『漢文叢書』小学・孝經・孔子家語卷頭解題)、藤原正『孔子家語』(岩波文庫)緒言等、いずれも前轍を踏んで、本書を王肅偽作説を主張したものと解している。敢て其の旧謬を訂した所以である。

陳士珂、琢軒と号す。蕪水(湖北省黃州府)の宿儒といふ(張映漢「韓詩外伝疏証序」)。乾隆三七(一七七二)年の歳貢生、同四二(一七七七)年の挙人。子の光詔、孫の沈・澗或は族人の詩等に比し、彼の事績は詳らかでない。光詔・沈・澗の事績の若干については上述したとおりである。

家語疏証 六卷 清孫志祖撰 [清嘉慶]刊(仁和孫氏)

封面「家語疏証」と題す。首に海寧陳燾及び錢唐梁玉繩の二序を冠す。本文卷頭「家語疏証卷之二」(低一) 仁和孫志祖字(低二) 相魯第一」と題し本文に入る。尾題は首題に同じ、但、

卷二のみ書名卷数なく末行下方に「終」と刻さる。左右双辺(一八・四×二一・二)糧)、有界十行行廿一字、案語疏証大字单行低一格、処々割注あり。版心白口单黒魚尾、「家語疏証 卷幾(丁付)」。最終尾題前四行低二一格に「男同元校録」と。

△静嘉堂文庫蔵▽ 二冊(1168) 陸心源十万卷楼旧蔵本

淡茶色表紙(二八・一×一七・九)糧)、外題無し。「帰安陸

樹声蔵/書之記」(朱方)、「静嘉堂蔵書」(朱長方)の印記。第

二冊は清孫同元撰『弟子職』(注)「嘉慶六(一八〇一)年序刊本

と合冊、尚此の両冊は、清孫志祖撰『讀書脞録』七卷統編四卷

清嘉慶四・七年刊本と一帙を成しており、その第四・五冊に配

されている。

△京都大学人文科学研究所蔵▽ 二冊(子II13) 吳翌鳳枚

庵(清嘉慶二四八一八一九)年歿)旧蔵書

茶色表紙(二七・八×一七・三)糧)、外題なし。「枚庵/流覽

/所及」(朱方)、「平湖屈氏一卷/書塾所蔵」(朱長方)、「屈熾

/之印」(白方)、「伯剛」(朱方)の印記あり。

△大阪大学附属図書館蔵▽ 二冊

茶色表紙(二七・二×一七・五)糧)、外題なし。「碩園記念文

庫」(朱長方)、「懷德堂/圖書記」(朱方)の印記あり。

『販書偶記』卷九子部儒家類論經濟之屬に著録され「嘉慶間刊」と。『北京図書館古籍善本書目』著録の「清刻本」二本（一は李福蔵校）及び『北京大学図書館李氏書目』著録の「清嘉慶刻本」は同版であろう。また、『北京人文科学研究所蔵書簡目』に「乾隆間刊本 有清丁晏手跋並批」と著録される本も恐らくは同版本か。本版は伝本意外に稀なく、本書は次掲の式訓堂叢書本によって通行している。

本書首に冠せる陳・梁兩序には撰序の年月を記さないが、陳序は「家語疏証叙」と題して『簡莊綴文』卷二及び『簡莊文鈔』卷二に收入され（本書首冠の文とは字句に異同あり）、末に「乾隆五十有八年冬十有一月書於杭州鼓樓彎之金声館」と記す。梁序は「跋孫侍御家語疏証」と題して『清白士集』卷二八蛻菓四に収められ（同じく、少しく文字に異同あり）、末に「癸丑（即ち乾隆五八年）七月識」とある。梁序に「今読孫頤谷侍御疏証六（清白士集作「四」字）卷、討本尋源、剽譌弁謬、発昔人未発之覆、凡向所搜出皆眉列無遺、亟毀前稿并慫憑付梓、以告世之読家語者」と、また陳序に「因校閲家語疏証、特（簡莊綴文・簡文鈔並作「遂」）書此以諗広伯（即ち錢復）且質諸侍御（即ち孫志祖）」と言うところから本書の成立は乾隆末同五八（一七九三）年を降らない。開雕

刊行の時期に就いては、てそれを示す刊記刊語序跋の類が無く確定出来ない。只、静嘉堂文庫蔵の本書と共に一帙を成す『読書勝録』『同統編』『弟子職「注」』は版式をほぼ同じくし、それぞれ相前後して刊行されたものと認められる。此の三書の刊年は刊記序跋に従えば、嘉慶四（一七九九）年、同七年、同六年序刊であり、本書もまたその頃、嘉慶四年の前後兩三年の間の刊成に繋るものと推定されよう。尚、『読書勝録』及び本書末尾に「男同元校録」とあり、刊行の主体は孫氏と看做され、所謂自家板であろう。

尚、『北京図書館古籍善本書目』には清刻本二本に続けて、陳鱣校清抄本一本が著録されている。この著録の順序からみれば刊本の転写と考えられようが、本書に序を寄せた陳鱣の校本であれば、あるいは刊本以前の稿本かとの期待も生まれる。今後の調査を期したい。

同 「清光緒」刊（会稽章氏） 式訓堂叢書二集所収扉、「家語疏証／六卷」（彖文）と題す。首の兩序、前掲本に同じ。末に海甯錢馥の跋あり。本文巻頭「家語疏証卷之二」、次行低二三格「仁和孫志祖学」、第三行低二格「相魯第一」と題す。尾題は首題に同じ。四周单边（一六・四×一一・五糧）、

有界、十一行行廿一字、考証按語大字単行低一格行廿字、処々割注あり。版心小黒口双黒魚尾、中縫に「家語疏証巻幾（丁付）」と題さる。

前掲本に拠れる翻刻で、末に錢馥の跋文を加増。

△東京大学東洋文化研究所蔵▽ 六冊（子^儒家²） 徐則恂旧蔵

茶色表紙（二九・二×一七・一纏）、外題無し。「青山／徐則恂蔵」（白方）、「投戈／講執／息馬／論道」（白方）の印記。

△筑波大学附属中央図書館蔵▽ 四冊（口880268）

淡茶色表紙（二二・八×一四・九纏）、外題無し。「東京教育／大学附属／図書館印」（朱方）の印記あり。

△静嘉堂文庫蔵▽ 二冊（4918） 竹添井々旧蔵本 式訓堂叢書全二〇冊の内第一四・一五冊

後補艶出香色表紙（二三・八×一四・八纏）、「式訓堂叢書二集二（三）」、右肩に「家語疏証」と墨書。「松方／文庫」（朱方）、

「井井／居士／珍藏」（朱方）、「竹添／光鴻」（白方）、「静嘉堂蔵書」（朱長方）の印記。

△京都大学人文科学研究所蔵▽ 一冊（叢1523） 繆荃孫・

陶湘通蔵 式訓堂叢書全三〇冊の内第一〇冊

茶色表紙（二三・八×一五・一纏）、外題無し。「東方文化学

院京都研究所」（朱長方）の印記。

△東洋文庫蔵▽ 二冊（V⁵-B¹¹²） 式訓堂叢書全三三冊の内第一八・一九冊

淡茶色表紙（二四・二×一五・一纏）、外題無し。「東洋文庫」（朱長方）の印記。

以下掲出の諸帙は、叢書首の扉等に「江左書林／督造書籍」なる朱長方双郭の印記がみられ、該書肆による後印本である。

△慶応義塾図書館蔵▽ 一冊（100534318） 田中萃一郎遺書 式訓堂叢書全一八冊の内第一四冊

淡茶色表紙（二四・二×一五・一纏）、外題無し。

次の三帙を収める『式訓堂叢書』は、一集所収の『弟子職集解』を『槐廬叢書』初編所収後修改版本（式訓堂叢書原刻本の覆刻）の書版を流用した改修後印本とみとめられ、従って『槐廬叢書』刊行以後の後印と看做される。朱紀栄編『槐廬叢書』五編五十四種は、光緒二二（一八八六）—一五（一八八九）年の刊行、清莊述祖撰『弟子職集解』は光緒一三年序刊である。

△斯道文庫蔵▽ 一冊（ヤ25/124） 安井息軒旧蔵書 式訓堂叢書全二四冊の内第一四冊

淡茶色表紙（二四×一五・二纏）、「家語疏証」と墨書、息軒

自筆か。「財団法／人斯道／文庫印」(朱方)の印記。

〈東洋文庫蔵〉 二冊(V-B 5-113) 藤田劍峰旧蔵書 式訓堂叢書全三二冊の第一八・一九冊

淡茶色表紙(二四・三×一五・六糎)、外題なし。「藤田劍峰／蔵書之記」(朱長方)、「東洋文庫」(朱長方)の印記。

〈国立国会図書館蔵〉 二冊(19315) 式訓堂叢書全三二冊(合一六冊)の内第一八・一九冊(九・一〇冊) 明治三〇年八月二三日購求

淡茶色表紙、第二冊は『春秋夏正』二巻と、第二冊は『鍾山札記』首三巻と合綴され、黄色覆表紙(二三・七×一五・二糎)を添える。「帝国／図書／館蔵」(朱方)の印記あり。

同 民国五七(一九六八)刊(台北 芸文印書館)

百部叢書集成式訓堂叢書所収 影印清光緒会稽章氏刊式訓堂叢書二集所収本

『式訓堂叢書』は清章寿康の編刊にかかり、清光緒三(一八七七)年以後、同十年代初めにかけては十年を費して漸次刊行された。首の光緒三年李慈銘撰「式訓堂叢書序」に「今同邑章君碩卿、嗜古敏学、幼棄科挙、彈力讐校、所蓄亡慮数十万卷、多精稟旧鈔。随其尊人宦蜀中、即以刻書為事。今年入都待觀、

無日不閱市。茲將為令楚中、先勿集近儒輯述凡有稗經史及目錄之學者為式訓堂叢書、次第刻之」と。伝存本の多くは『古易音訓』一卷をはじめとする十四種を収める一集、『春秋夏正』二巻に始まり『家語疏証』六巻を含む十二種を収録する二集の両集から成る。ただ京都大学人文科学研究所蔵、繆荃孫旧蔵の早印本にはさらに三集があり、『字林考逸』八巻以下十三種が収載されていて、これは『叢書綜録』に著録するところと同様である。『続修四庫全書提要』の記載に拠れば、「是書随刻随印、故各本子目間有不同、其書共刻三集、其書第二集流伝極罕、坊間即取第三集、作為第二集刊行」と記し、一集以下の子目が列挙されているが、上記『春秋夏正』以下の二集を第三集となし、「第二集欠」としてその子目は全く記さない。『提要』に流伝極めて罕れという第二集が、『叢書綜録』或は人文科学研究所蔵本の第三集に当るのかどうか、今確認することは出来ないが、『提要』に従うならば、本書『家語疏証』六巻は、「式訓堂叢書第三集所収本」ということになる。しかしながら、三集として収録する伝本が未だ管見に入らない現在、坊間印行の通行本に従って、「第二集所収本」と記しておく。

編者章寿康は、原名は貞、字は碩卿、会稽の人。光緒の初め、

張之洞の幕客となり、光緒二一（一八八五）年嘉魚（湖北武昌府）

知県に任じたが、民の困苦を余所目に日々専ら刻書に耽ったと

して効を被け職を解かれた。或は上官に忤い落職したものと

いう。書籍金石の蒐蓄、書画の鑒別で知られ、繆荃孫、錢葆唐

等と交游があり、同治光緒の間に盛名があったが、失職の後は

困窮し、所蔵の金石碑刻書版は悉く売却し鬱鬱の中に卒したと。

『中国蔵書家考略』、『中国人名大辞典補遺』に簡伝を載せる。

『式訓堂叢書』一集二集（或は三集）の書版は孫谿の朱記采に

歸し、後に述べるが、同人編の『校経山房叢書』は其の書版を

襲用し、改編重印したものにすぎない。

又 清光緒三〇（一九〇四）印（孫谿朱記采） 校経山

房叢書所収

前掲、式訓堂叢書所収本の版木を襲用。

△国立国会図書館蔵▽ 二冊

冊の内第四・五冊

茶色表紙（二四・七×一五・四糎）、原題簽「校経山房叢書秀

水沈宣」。「自抱齋藏本」（白長方）、「国立国会図書／館蔵書」

（朱方）の印記あり。

△筑波大学附属中央図書館蔵▽ 二冊（350イ34）校経山房叢書全

三三冊の第五・六冊

淡茶色木肌紋表紙（二三・八×一五・一糎）、外題無し。「東

京高等／師範学校／図書之印」（大小二種、並に朱方）の印記。

△東洋文庫蔵▽ 二冊（V B 5-137）校経山房叢書全三三冊の第四

・五冊

茶色表紙（二四・三×一五・三糎）、外題無し。「東洋文庫」

（朱長方）の印記。

△静嘉堂文庫蔵▽ 二冊（6121）校経山房叢書全三三冊の第四

五冊

淡茶色表紙（二四・二×一五糎）、外題無し。「静嘉堂蔵書」

（朱長方）の印記あり。

△京都大学人文科学研究所蔵▽ 二冊（叢I 557）校経山房

叢書全三三冊の内第四・五冊

紺色表紙（二九・五×一七・三糎）、外題無し。「東方文化学

院京都研究所」（朱長方）の印記あり。

『校経山房叢書』は清朱記采編。首の扉裏に「光緒三十（一

九〇四）年春王月／孫谿槐廬家塾藏板」の双行木記があり、同

年の印刷頒行と見做される。「校経山房叢書総序」（「光緒癸卯

△二九年▽孟夏月吳県朱記采）に「僕昔日匡居竊嘗慕此、已

効綿薄、蒐集梓印孫谿槐廬叢書五集、風行海宇、見許芸林。邇年僑寓雲間、卜築槐廬、秦漢圖書、色香俱古、汲古伝是、差足頡頏。暇輒默坐期踵前修、假手陳編、規隨勘訂。凡經史地輿目錄金石旁涉雜志、彙為校經山房全集、以統五編、撫拾旧藏、蔚成巨麗」とあるが、『統修四庫全書提要』等が指摘する如く、

『式訓堂叢書』一集二集（或は三集）兩集の旧版を買収し、大半はそれを襲用重印した改編改題本。『提要』は「有攘善掠美之嫌、此非通人所宜為也」と厳しい裁断を下している。同人編

刊の『槐廬叢書』五編を継ぐと言うが、実は『古易音訓』二卷、『弟子職集解』、『呂子校補』二卷、『誌銘広例』二卷、『金石例補』二卷等は兩叢書にあって重複しており、『弟子職集解』に就いてみれば、槐廬叢書本（式訓堂叢書原刻本の覆刻、同叢書後印本は此の覆刻本を収める、上記参照）の板木を用い、首題下の「槐廬叢書」の四字を削去、本文末の刊記を削除する等旧版重印の痕跡を湮滅する為の姑息な改修を加えてある。

本書は、家語正文は全載せず、各篇頭に篇名を二格を低して題記し、次に、篇内を章節に句切り、その頭の数句を例え、「孔子初任為中都宰節」の如く掲出、或は章節内の疑義を存する字句のみを掲出し、行を改め低一格に考証案語を拳述して、

四十四篇及び後序を六卷に分つ。卷立篇次の次第は次の如し。

卷之一	相魯第一	始誅第二	王言解第三
	大婚解第四	儒行解第五	問礼第六
	五儀解第七	致思第八	三恕第九
	好生第十		
卷之二	觀周第十一	弟子行第十二	賢君第十三
	弁政第十四	六本第十五	弁物第十六
	哀公問政第十七		
卷之三	顏回第十八	子路初見第十九	在厄第二十
	入官第二十一	困誓第二十二	五帝德第二十三
	五帝第二十四	執轡第二十五	本命解第二十六
	論礼第二十七		
卷之五	觀鄉射第二十八	郊問第二十九	五刑解第三十
	刑政第三十一	礼運第三十二	冠頌第三十三
	廟制第三十四	弁樂解第三十五	問玉第三十六
	屈節解第三十七		
卷之五	七十二弟子解第三十八		本姓解第三十九
	終記解第四十	正論解第四十一	
卷之六	曲礼子貢問第四十二		曲礼子夏問第四十三

以上、卷立は通行の家語諸本と相違するが、篇次は汲古閣刊本、翻南宋刊本、日本の古活字〔元和〕刊本等と、篇名は翻南宋刊本及び〔元和〕刊本等と一致する。第四十三・四十四の篇題の「曲礼」二字下に「毛本／脱」と、第四十三篇題「夏」字下に「毛本／譌賁」と夾注がある如く、汲古閣刊本の譌脱を訂して別本に従っており、主として依用されたテキストは汲古閣刊本で、その譌脱の個処を別本を参校して改正したものと推定され

る。次に、本書に掲出された家語正文及び孫氏考証案語中に引かれた王肅注文とに即き、家語王肅注諸本との異同を表示してみる。著者撰述当時参看可能であったと思われる汲古閣刊本（毛本）、翻南宋刊本（黄本、四部叢刊本に拠る）、永懷堂刊本（永本）、呉嘉謨集校本（呉本）の四本と比較する。四本との異同総数は二六七件、このうち、黄本には曲礼公西赤問第四十四に脱簡がある為四件が対校不能、呉本は、王肅注を省脱或は改変するところがあって八件が対校件数から除かれる。

孫氏家語疏証

毛本（汲古閣刊本）

黄本（翻南宋刊本）

永本（永懷堂刊本）

呉本（呉嘉謨集校本）

（相魯第一）

- 1 故西方諸侯皆法則（注） ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○
- 2 定公与斉侯会于夾谷 ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○
- 3 於是乃帰所侵魯之四邑 ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○

（始誅第二）

- 4 其談説足以飭褒衆 ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○
- 5 孔子閑居 ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○
- 6 布諸天下四方而不怨 ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○

(大婚解第四)

7 傷其親是傷本也

(儒行解第五)

8 其過失可微辯

9 雖危猶起居×竟身其志

10 而上下不知也

11 因事而止之則君不知(注)

(問礼第六)

12 以忤其衆

13 乾天地(注)

14 夏則居櫓巢

(五儀解第七)

15 哀公問於孔子曰請問

16 大則無政

(致思第八)

17 孔子北遊於×農山

18 季羔為衛×士師

19 季孫之賜我粟千鍾也

20 王者有似于春秋

×××○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○辨

○○○○○○○○×○○○○○

○○○○○○○○×○○猶信○○

○○○○○○○○×○○猶信○○

○○○○○○○○×○○猶信○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

×××○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○正×○○○○

○○○○○○

×○○○○

×○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

×××××

○○○○○○

○○○○櫓○

○○○○櫓○

○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○×○○

○○○○○○

○○○○×○

○○○○×○

○○○○×○

○○○○○○○○于○○

○○○○○○○○×○○

○○○○○○○○×○○

○○○○○○○○×○○

○○○○○○○○之○○

○○○○○○○○之○○

○○○○○○○○之○○

○○○○○○○○之○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○×

○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○乎○○

○○○○○○○○乎○○

○○○○○○○○乎○○

(弟子行第十二)

37 匹夫不怒

○ ○ ○ ○

正 ○ ○ ○

○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○

38 而為下国駿彫

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ 龐

○ ○ ○ ○ ○ 龐

○ ○ ○ ○ ○ 龐

39 是×宮縮之行也

○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 南 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 南 ○ ○ ○ ○ ○ ○

40 問於二三子之行於賜

○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○

○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○

○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○

○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

(賢君第十三)

41 又有士曰林国者

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○

42 故夫不比於數而

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○

43 孔子誦詩于正月六章

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

(以下正文一二二字欠)

(同上)

44 孔子閒処喟然而嘆

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 歎

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 歎

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × 歎

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○

45 首拔五穀

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ 叛

○ ○ ○ 叛

○ ○ ○ ○ ○ ○

46 (辯政第十四)

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

辨 ○ ○ ○ ○ ○ ○

辨 ○ ○ ○ ○ ○ ○

47 昔者齊君問政於夫子

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ×

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ×

48 皆以兄事之而加愛敬×

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ×

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ×

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 焉

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 焉

(六本第十五)

49 無務農桑

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ 豐末

○ ○ 豐末

50 良莠苦×口而利於病

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○

51 入謂弟子曰

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ 為 ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ 為 ○ ○ ○ ○ ○ ○

52 子夏三年之喪畢

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ 貢 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ 季 ○ ○ ○ ○ ○ ○

53 大雀從黃口亦不得

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

54 荆公子行年十五

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

55 而撰荆相事

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

56 其廊下有二十壯士

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

57 或曰采益期也(注)

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

58 是以自知終不及二子

×○○○○○○○

×○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

59 君子必慎其所與処者焉

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

60 曾子從孔子於齊

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

61 圻方所以脩道

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

62 孔子曰以富貴而下人

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

(弁物第十六)

63 陳惠公賓之於上館

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

64 通道於九夷百蠻

○○○○○○○○

○○于○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

65 邾隱公朝于魯

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○於○

○○○○於○

66 陳侯就之燕×焉

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

67 子遊行路之人云

○○○○○○○○

××○○○○○○

××○○○○○○

××○○○○○○

68 事于上帝先王

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○於○○○○

○於○○○○

69 採薪於大野

○○○○○○○○

○○○○○○○○

采○○○○○

采○○○○○

70 棄之於郭外

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○×○○○

○○×○○○

(哀公問政第十七)

71 饋廩稱事

○○○○

既廩○○

既稟○○

既稟○○

72 祭欲見親之顏色者

○○○○○○○○

○○○○○○○○×

○○○○○○○○×

○○○○○○○○×

(顏回第十八)

73 魯定公問於顏回曰

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○×

74 馬當為車(注)

○非○○

○非○○

○非○○

(此注文無)

75 公說遂以告孔子

○悅○○○○

○悅○○○○

○悅○○○○

○○○○○○○○

76 若乃窮神知禮

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○化

77 好言兵討而挫銳於邾

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○計○○○○

78 顏回問×君子

○○○○×○○

○○○○於○○

○○○○×○○

○○○○×○○

79 恥××學而羞××不能

○××○○○○××○○

○××○○○○××○○

○××○○○○××○○

○人之○○人之○○

80 顏回謂子路曰

○○問○○○

○○問○○○

○○問○○○

○○○○○○○○

81 為聞者蓋曰思也夫

○○○○○○○○

○○○○○○○○日○○

○○○○○○○○日○○

○○○○○○○○日○○

82 故君子於為義之上

○○○○○○○○

○○○○○○○○×

○○○○○○○○×

○○○○○○○○

83 攻其惡無攻人之惡

○○○○○○○○

○○○○○○○○×

○○○○○○○○

○○○○○○○○

(子路初見第十九)

84 子路初見孔子

○○○×○○○○

○○○×○○○○

○○○×○○○○

○○○○○○○○

85 木受繩則正

○○○○直

○○○○直

○○○○直

○○○○直

86 竜宜為襲(注)

○○○襲

○○○襲

○○○襲

○○○襲

87 陳靈公君臣宣淫於朝

○○○××嫪○○

○○○××嫪○○

○○○××嫪○○

○○○××嫪○○

88 彼婦人之請

○○○○○

○○○○○

○○○○○

○○○○○

89 優哉游哉聊以卒歲

○○遊○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○優○○○○

90 以辭取人則失之宰子

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○言○○○○○

91 終日言無遺己憂

○○○○○○○×○

○○○○○○○之○

○○○○○○○之○

○○○○○○○之○

92 終日行不遺己患

○○○○○○○×○

○○○○○○○×○

○○○○○○○×○

○○○○○○○之○

(在厄第二十)

93 ××使爾多財

吾亦○○○○○

吾亦○○○○○

吾亦○○○○○

××○○○○○

94 曾子弊衣而耕於魯

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○敝○○○○

(入官第二十一)

95 夫臨之無抗民之惡

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

(困誓第二十二)

96 作樂操以哀之

○○琴○○○○

○○琴○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

97 子路問於孔子曰有人

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○×○○○○

98 汨之×深則出泉汨

汨○×○○○○○
○汨

○○之○○○○○

汨○×○○○○○
汨渥

汨○×○○○○○
汨渥

99 粲然如喪家之狗

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○儻○○○○○

100 主人哀荒不見飲食(注)

○○○○○○○○

○○○○○○○飯○

○○○○○○○飯○

○○衰○○○飯○

101 形狀未也

○○○○○

○○末○

○○末○

○○末○

102 孔子適衛路出于蒲

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

103 又伐樹於宋

○○○○○

○○○○○

○○○○○

×○○○○

104 見蜚鴈過而仰視之

○飛○○○○○

○飛○○○○○

○飛○○○○○

○飛○○○○○

(五帝德第二十三)

105 戰于阪泉之野

○○○○○

○○○○○

○於○○○○○

○○○○○

106 喬極之子曰辛

○○○○○高○

○○○○○高○

○○○○○高○

○○○○○高○

107 瞽瞍之子曰有虞舜

○○○○○也○○○○○

○瞽○○○也○○○○○

○瞽○○○也○○○○○

○瞽○○○×○○○○×

(五帝德第二十四)

108 天有五行木火金水土

○○○○○

○○○○○水○○木○

○○○○○水○○木○

○○○○○水○○木○

109 不知者以祭社為祭地(注)

○○○○○禮○○○○

○設○○○○○○○○○

○識○○○○○○○○○

○識○○○○○○○○○

110 不亦失之遠乎(注)

○○○○○

○○○○○

可謂○○○○○

××○○○○○

111 以金德王而尚黑

○○○○○

○○○○○色○○

○○○○○色○○

○○○○○色○○

(執轡第二十五)

112 以之義則國義

○○○○○

○○○○○

○○○○○父

○○○○○父

113 食穀者智惠而巧

○○○○○

○○○○○

○○○○○慧○○

○○○○○知慧○○

(本命解第二十六)

114 八月×生齒然後能食

○○×○○○○○○○

○○×○○○○○○○

○○×○○○○○○○

七○而○○○○○○○

115 ××××××××××

××××××××××

××××××××××

碁而生齒然後能行

碁而生齒然後能行

116 八歲而齒××××

○○○○○×××××

○○○○○×××××

○○○○○二八而化

○○○○○二八而化

117 十有四而化

○○○○○

○○○○○

二七×○○○

二七×○○○

118 男子窮天數也極也

○○○○○○○

○○○○○○○極

○○○○○○○極

○女○○○之極

119 婚禮×始殺於此

○○而×○○○

○○而×○○○

○○而×○○○

○○而○○○

120 喪父長子者

○○○○○○○

○○○○○○×

○○○○○○×

○○○○○○○

121 一也 二也 三也

○○○○○○○

也一
也二
也三

也一
也二
也三

也一
也二
也三

(論禮第二十七)

122 致于湯階

○○○○○

○○○○齊

○○○○齊

○○○○齊

123 至湯與天心齊(注)

○○○○○○○

○○以大○○

○○以大○○

(此注文無)

(觀鄉射第二十八)

124 主人獻寶

○○○○○

○○○○○

○○○○○

○○○之

125 記曰主人獻之(注)

祀○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

(此注文無)

(郊問第二十九)

126 所以戒百官也

○○○○○○○

○○誠○○○

○○誠○○○

○○誠○○○

(刑政第三十一)

127 顛五刑必即天倫

○○倫○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

128 兵軍旂旗不粥于市

○○○○○○○於○

○車○○○○○於○

○車○○○○○於○

○車○○○○○於○

129 五木不中不粥于市

○○○○○○○於○

○○○○○○○於○

○○○○○○○於○

○○○○○○○於○

130 (禮運第三十二)

○○○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

體○○○○○

131 可得以禮正矣

○○○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

○○而×○○

132 天子以杞宋二王之後

○○杞宋以○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

133 效以降命

郊○○○

○○○

○○○

○○○

134 人所則非則人者也

○○○○○○○○

○○明○○明○○

○○明○○明○○

○○明○○明○○

135 大夫死宗廟謂之變

○○○○○○○○

○○○○○○為○○

○○○○○○為○○

○○○○○○為○○

136 茂而不問

○○○○

○○有○

○○有○

○○○○

137 冬合男女春頒爵位

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○頒○○

(冠頌第三十三)

138 成王年十有三而嗣立

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

139 辭達而弗多也

×○○未幼×

×○○未幼×

○○○勿○○

○○○勿○○

140 其所以為賓主何也

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○如

○○○○○○○○如

141 異朝服素鞞

○○○○鞞

○○○○鞞

○○○○鞞

○○○○鞞

(廟制第三十四)

142 將立先×君之廟

○○○×○○○

○○○三×軍○○

○○○三×軍○○

○○○三將軍○○

143 至於周之所不變也

○于○○○○○○

○于○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○

(弁樂解第三十五)

144 子路鼓瑟

○○○琴

○○○琴

○○○琴

○○○琴

145 衆夾振之而四伐

○○○○○○○○

○○○焉○○○

○○○焉○○○

○○○焉○○○

146 庶民弛政×××

○○○○○○×××

○○○○庶士倍祿

○○○○庶士倍祿

○○○○庶士倍祿

147 命之×建囊

○○○×鞞囊

○○○曰鞞囊

○○○曰鞞囊

○○○曰鞞○

148 建以為諸侯(注)

鞞○○○○

使○○○○

使○○○○

○○○○○○

149 郊配后稷

○○○○

○祀○○

○祀○○

○祀○○

(問玉第三十六)

150 君子貴玉而賤珉

○○玉貴○珉賤

○○○○○○

○○○○○○

○○○○○○

151 天有四時×

○○○○×

○○○○者

○○○○×

○○○○×

(屈節解第三十七)

152 屈節×求其達者也

○○×○○○○

○○×○○○○

○○以○○伸○○

○○以○○伸○○

153 越霸者賜之說×也

○○○○○○×

○○○○○○之○

○○×○○○×

○○○○○○×

154 齊人攻魯道由單父

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○

155 使巫馬期往觀政焉

○○○○○○○○

○○○○○遠○○

○○○○○遠○○

○○○○○遠○○

156 鱣宜為鱣新序作鱣(注)

○○○○○○○○

○○○鱣○○○

○○○鱣○○○

(此注文無)

157 由也昔者聞諸夫子×

○○○○○○○○×

○○○○○○○○曰

○○○○○○○○曰

○○○○○○○○曰

158 鯀首之斑然

○○○班○

○○○班○

○○○○○

○○○○○

159 夫子×屈節而極於此

○○×○○○○

○○○×○○○○

○○○之○○○○

○○○之○○○○

160 (七十二弟子解第三十八)

○○○○○○○○

○○○○○○○○

○○○○○○○○四四

○○○○○○○○四四

161 或為誤(注)

○○○

×××

×××

○○○

162 自吾有回門人日益×

○○○○○○○○×

○○○○○○○○○親

○○○○○○○○○親

○○○○○○○○○親

163 少孔子五十歲

○○○○○○○

××××××

○○○○○○○

○○○○○○○

164 ××××××

××××××

××××××

少孔子二十九歲

少孔子二十九歲

165 与田常為乱夷其三族孔子恥之

○○○○○○○○

××××××

○○○○○○○○○耻

○○○○○○○○○耻

166	常結駟連騎以造原憲	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	××××××××××××××	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
167	子貢好販與時轉貨	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	×××××××××××××	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
168	自吾有由而惡言不入於耳	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	×××××××××××××	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
169	言偃魯人	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○吳○○	○○○吳○○
170	能通其議 <small>子夏所叙詩義今之毛詩序是</small>	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	×××××××××××××	誦○○○○○○○○○○○○○○○○	誦○○○○○○○○○○○○○○○○也
171	密不齊	密○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
172	少孔子四十×歲	○○○○○○○○○○○○○○○○○○×	○○○○○○○○○○○○○○○○○○九○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○九○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○九○
173	清淨守節	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○靜○○	○靜○○
174	公皙哀	○析○○	○析○○	○皙○○	○皙○○
175	字季次	○○沉	○○沉	○○沉	○○沉
176	顏由	○○○○	○○○○	○繇	○繇
177	孔子始教×於闕里	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
178	使孔子為次乘	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
179	字子開一字×張	○○○○○○○○○○○○○○○○○○×	○○○○○○○○○○○○○○○○○○×	○○○○○○○○○○○○○○○○○○子○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○子○
180	顏幸	○○○○	○辛	○辛	○辛
181	伯虔字楷	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○○○楷	○○○○楷	○○○○楷
182	公孫龍衛人	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	○○龍○○	○○龍○○	○○龍○○
183	字子元	○○○○	○○元	○○元	○○元

184 与孔璇年相比	○○○○○○○○○○	○璇○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
185 奚箴字子楷	○○○○○○○○○○	○箴○○○借	○箴○○○借	○箴○○○借
186 宰父黑字子索	○○○○○○○○○○	○○○○○○黑	○○○○○○黑	○○○○○○黑
187 公西减字子尚	○○○○○○○○○○	○减○○○○	○箴○○○○	○箴○○○○
188 石处字子里	○○○○○○○○○○	○○○○里之	○○○○里之	○○○○里之
189 狄黑字哲之	○○○○○○○○○○	○○○○哲	○○○○哲	○○○○哲
190 原抗字子藉	○○○○○○○○○○	○桃○○○○	○桃○○○○	○桃○○○○
191 公竇字子仲	○○○○○○○○○○	○肩○○○○	○肩○○○○	○肩○○○○
192 右作蜀	○○○○○○○○○○	○石子○○	○石子○○	○石子○○
193 邽巽	○○○○○○○○○○	○選○○○○	○選○○○○	○選○○○○
194 申績字子周	○○○○○○○○○○	○績○○○○	○績○○○○	○績○○○○
195 孔忠字子蔑 <small>孔子兄××</small>	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○ ○○○○○○○○ ○○○○○○○○	○弗○○○○ 弟○○○○ ○○○○×	○弗○○○○ 弟○○○○ ○○○○×	○弗○○○○ 弟○○○○ ○○○○×
196 縣成字子横	懸○○○○○○○○	懸○○○○○○	懸○○○○○○	懸○○○○○○
197 右×夫子弟子七十二人 ××	○○×○○○○○○○○○○ ××	○件○○○○× 弟子○○○○×	○件○○○○× 弟子○○○○×	○×○○○○× 弟子○○○○×
198 (本姓解第三十九)	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
199 微国名子爵	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○	微国名 子爵也	微国名 子爵也
200 仲思名衍或名泄	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
201 弗父何生送父周	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○

202 華氏之禍而奔魯	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
203 伯夏生叔梁紇	×○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
204 雖有九女是無子	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
205 娶於宋之元官氏	○○○○○○○○	○于○○并○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
206 ×××生伯魚	×××○○○○	一歲而○○○○	一歲而○○○○	一歲而○○○○
207 天將欲×素王之乎	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
208 (終記解第四十×)	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×	○○○○○○○○三	○○○○○○○○三
209 孔子蚤×作	○○○○晨○	○○○○晨○	○○×晨○	○○×晨○
210 則吾將安杖	○○○○○○○	×○○○○○○	×○○○○○○	×○○○○○○
211 時年七十二矣	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○三	○季○○○○三
212 門人疑所以服夫子者	○○○○○○○○	○○×○○○○	○○○○○○○○×	○○○○○○○○×
213 公西赤掌殯葬焉	○○○○○○○○	○○×○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
214 (正論解第四十一)	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○三八	○○○○○○○○三八
215 招虞人以弓	○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
216 旃以招大夫	○○○○○○○	旃○○○○○	旃○○○○○	旃○○○○○
217 齊國書伐魯	○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
218 南宮說仲孫何忌既除喪	○容○○○○○	○容○○○○○	○容○○○○○	○容○○○○○
219 使子產猷捷于晉	○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○於○	○○○○○○○○
220 授首於我	○○○○○○○	校○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○

221 楚靈王汰侈	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
222 王是以獲沒於文宮	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
223 長而字(注)	○○○	○ ○ ○	○ ○ ○	言刑以	(此注文無)	(此注文無)
224 或曰義	○○○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	減 ○ ○	○ ○ ○
225 或左伝作咸也(注)	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	(此注文無)	(此注文無)
226 晉平公會諸侯于平丘	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
227 鄭伯×南也	○ ○ ○ × ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
228 及其子成	○○○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
229 賦晋国一鼓鐘	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
230 今失厥道乱其紀綱	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
231 齊陳恒弑其君簡公	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
232 出稷不秉芻缶米××	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
233 定公問於孔子曰	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
234 哀公問×於孔子曰	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
235 寡人聞東益宅不祥	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
236 君使求仮於馬	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
237 (曲礼子貢問第四十二)	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
238 君子上不僭下下不偪上	○○○○○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
239 ×臧文仲知魯国之政	× ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○

- 240 民悅其愛者弔可敵也 ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 241 吳延陵季氏聘于上國 ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 242 不至者跂而及之 ○○○企○望○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 243 國君之於同姓 ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 244 (曲禮子夏問第四十三) ××○貢○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 245 子貢問於孔子曰 ○夏○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 246 亦不×奪故也 ○○○×○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 247 行一物而×善者× ○○○○○×○○○× ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 248 子貢問於孔子曰 ○夏○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 249 當言×姊妹而已姊上長姑字也(注) ○○○姑○○○○妹○○ ○○○姑○○○○妹○○ ○○○姑○○○○妹○○ ○○○姑○○○○妹○○ ○○○姑○○○○妹○○
- 250 毀×則死者 ○×○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 251 君子為之×× ○○○○○×× ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 252 不食亦不飲而殮 ○○○客○○○殮 ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 253 子貢問曰官於大夫 ○夏○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 254 子貢問居父母之喪 ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 255 殷人既窆而弔於壙 ○○○定○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
- 256 由問魯大夫練而杖禮与夫子曰吾不知也子貢曰 ×××××××××××× ×××××××××××× ×××××××××××× ×××××××××××× ××××××××××××

257	將以君之瓊璫斂	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
258	琴張与宗魯友善	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
259	邾人子蒲卒	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
260	二三婦人之欲供先祀者	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
261	子罕問於孔子曰	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
262	(曲礼公西赤問第四十四)	××○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
263	膝臚(注)	○鑽	○鑽	○鑽	○鑽	○鑽	○鑽	○鑽	○鑽
264	濟濟××者容也	○○○漆漆○○○	○○○漆漆○○○	○○○漆漆○○○	○○○漆漆○○○	○○○漆漆○○○	○○○漆漆○○○	○○○漆漆○○○	○○○漆漆○○○
265	漆漆者以自反也	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
266	衛莊公之反国×	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
267	進俎而不受	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
	總異同件数二六七のうち、毛本との異同数は七一、黄本は一								
	五二、永本は一八四、呉本は一九七件を数える。逆に各本につ								
	き異同のない件数を対校総数毛本・永本二六七、黄本二六一、呉								
	本二五八で除すれば、毛本約七割三分、黄本四割四分、永本三								
	割一分、呉本二割四分の割合となり、毛本が他の三本に比し庄								
	到的な近似率を示す。毛本の異同数七一のうち、例えば5の例								
	のように「毛本譌閑」と、17に「毛本衍于字」と、50に「毛本								
	有於字」との毛本衍脱譌誤訂正に就いての校語がある処が5 17								
	50 80 84 86 87 93 96 109 119 127 132 133 139 144 147 175 177 203 205 207 209 230 235 236 242 244 252 254								
	255 256 264の三三個所に亘る。残りの四〇件不足の異同は、説悦、								
	遊游、于於、歎嘆等の通用字の相違によるもの、別本或は家語								
	本文が襲用していると見做される別書所見の同類文の字句に従								
	うもの、更に校記を附す可くして等閑に付された個処、また本								
	書刊行に当たっての校正上の誤りに依るもの等が考えられよう。								

単純な数字の上での比較ではあるが、孫氏が主として依拠したテキストが汲古閣刊本であったことは顯らかであろう。

しかしながら、本書考証案語には此の毛本の訂譌以外にも、諸本との校合作業を経た校勘注記が多見する。その対校テキストは凡そ次の三類が考えられよう。一は、家語別本であり、一は諸旧籍に引用された家語正文及び王肅注文であり（これは通行版本以前の古態を存す）、一は諸古典籍に散見する、家語正文と類事内容の異文或は類文である。

まず家語別本に就いて検討しておきたい。孫氏は書中「宋本」「宋本家語」「一本」「一本家語」「別本」「今本」「今家語」「今本家語」等と標記して字句の異同を論じている。このうち「今本」「今家語」「今本家語」は、文選注等に引かれた家語刊本成立以前の旧本、或は「宋本」・「宋本家語」に対して所拠の底本並に、「一本」「別本」を含む通行諸本を対応させた標記であり、従って今此処での検討の対象からは除外出来る。

本書中の、「宋本」との校勘注記を全て抄出すれば、次の十八条が挙げられる。以下条挙するに当っては全て孫氏の記述に従い、ただ私に句点を付した。先ず校勘対象の正文の字句を掲し、次に孫氏案語を示す。正文字句下の（ ）には該字句の所

在する篇節を付記する。その下の数字は前掲対校表の項頭の通し番号に符合する。また孫氏案語の次へ下に、該宋本と日本の「元和」古活字版等を含めた諸本との同異關係を付述した。

1 為聞者盍曰思也夫（顔回十八顔回謂子路曰節81）

此語不甚可解、「曰」宋本作「日」、注同。

〈宋本、黄本・永本・吳本・古活字版と符合。〉

2 彼婦人之請（子路初見十九孔子相魯節88）

盧「文昭」云、「請」当從史記作「謁」、方叶韻、宋本家語

「謁」。

〈永本・吳本・古活字版と符合、太平御覽五七一引家語は

「請」に作る。〉

3 天有五行木火金水土（五帝二十四108）

宋本作「水火金木土」、是以相剋言。

〈黄本・永本・吳本・古活字版と符合、御覽一七引家語「木

金水火土」、同七六引「木金水火及土」に作る。〉

4 一也二也三也（本命解第二十六孔子遂言曰女有五不取節121）

此六字宋本俱屬注。

〈黄本・永本・吳本・古活字版と符合。〉

5 子路鼓瑟（弁樂解第三十五子路鼓瑟節114）

「鼓瑟」毛本作「鼓琴」誤、說苑作「瑟」、論語由之瑟集注

引家語亦作「瑟」、御覽五百七十七同、可證宋本不誤。毛

氏自謂得北宋板王肅注本、細校之非也。

〈黃本・永本・吳本並に「琴」に作り、古活字版両本、元

泰定二年崇文書塾刊本ともに「琴」、「瑟」に作るのは何

孟春本及び明末坊刻俗本の類である。尚太平御覽卷五七

七は樂部琴の項であり当然琴に作る。孫氏の誤述である。

6 庶民弛政（同、周賓牟賈侍坐於孔子節146）

宋本此下有「庶士倍祿」句、与礼記合。

〈黃本・永本・吳本・古活字版並に此句有り。

7 自吾有回門人日益（七十二弟子解三十八顏回162）

宋本益下有「親」字、是。

〈黃本・永本・吳本・古活字版と符合。

8 曾參字子輿（同、曾參）

宋本作「子輿」、白水蒼頡廟碑陰同。

〈毛本・黃本・永本・吳本・古活字版並に初学記卷一七引

家語は「輿」、覆宋刊本・太平御覽卷四二二は「輿」に

作る。毛本・覆宋刊本の底本は同一宋刊本であるが、か

かる異同が生じている。

9 原憲清淨守節（同、原憲173）

文選運命論・後漢書張霸子楷傳注引並作「清約」、是也。

（略）礼記黎靜精微作「靜」字。宋本家語亦作「清淨」。

〈毛本・黃本と合う。永本・吳本・古活字版は「清靜」に

作る。

10 孔子始教於闕里（同、顏由177）

四書釈地又統云、向從王氏句解家語本孔子始教於闕里、証

此書出於王肅、以其有闕里字面。及近説北宋板、是「闕

字非「闕」字、不覺自失。愚謂闕里以近觀闕得名、猶闕党

也。閻氏謂孔子時無闕里之名、本屬臆説。乃因毛本家語

「闕里」作「閻里」、遂信為北宋善本。不知史記索隱引家語

是「闕里」、其述贊云「教與闕里道在陬郷」、正用其語。是

毛本「閻里」譌、而句解本「闕里」不譌也。盧抱経先生所

見宋本亦作「闕里」。

〈黃本・永本・吳本・古活字版と符合。

11 顏幸字子柳（同、顏幸180）

宋本作「顏辛」、即顏柳也。

〈黃本・永本・吳本・古活字版と符合。

12 陳亢字子元（同、陳亢183）

「子元」、宋本作「子元」。

〈黄本・永本・呉本・古活字版に符合。

13 石処字子里（同、石処188）

索隱「后処字里」、宋本「字里之」。

〈黄本・永本・呉本・古活字版に符合。

14 右夫子弟子七十二人（同、197）

〔右字下割注〕宋本有「件」字。

〈黄本・永本・古活字版と符合、但し、三本とも以下「夫

子七十二人弟子」に作る。

15 則吾将安杖（終記解四十孔子蚤作節210）

〔則字下割注〕宋本無

〈黄本・永本・呉本・古活字版に符合。

16 招虞人以弓 旃以招大夫（正論解四十一孔子在齊齊侯出田節

215 216）

宋本作「招虞人以旃」「旃以招大夫」、〔盧文招〕云弓旃二

字、後人以左氏之文、易此文。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

17 今失厥道乱其紀綱乃滅而亡（同、楚昭王有疾節230）

〔道字下割注〕毛本「其行」、此拠宋本。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

18 出稷禾秉芻粟（同、季康子欲以一井田出法賦焉節232）

宋本与国語〔魯語〕同。今本家語作「稷秉芻米芻粟」譌。

〈此の宋本と一致するテキスト、未だ管見に入らず。呉本、

「出稷禾秉芻米」に作り、最も近い。尚、毛本は「出獲

秉芻米芻粟」、黄本・古活字版「出獲禾秉芻米芻粟」、永

本「出獲禾秉芻米」に作り、孫氏言うところの今本家語

とはいづれも異なる。

以上、わずか十八例の校合注記から、孫氏が言う「宋本家語」

のテキスト上の特徴を云云するには危険を伴う。敢ていささか

陳べることが出来るとすれば、一つには、十八例のうち1 3 4

6 7 10 11 12 13 15 16 17の十二例が、黄本・永本・呉本と一致し、

2の一例が永本・呉本と一致している如く、黄本・永本・呉本

と共通する点が多いこと、即ち、此の宋本が、黄本以下明版三

本の性格を含み込んでいるということが指摘出来よう。これは、

翻宋刊本である黄本はもとより、諸本が宋本に淵源するという

伝本系統上の一般的な了解に立てば当然の帰結と言える。また

一つには、全て所拠の底本即ち毛本との対校注記であり、孫氏

は毛本を、宋本を直接継承するものとは看做していないという

点が注目されよう。このことは5の案語に「毛氏自謂得北宋板王肅注本、細校之非也」と汲古閣刊本末に附された毛晋識語に対する批判の言辞からも明らかである。さらに今一点は、58の如き、現今披見できる王肅注本のいずれとも合致しない例を考慮に入れば、此の宋本に対応する更なる宋刊一本が存在したことを容認しなければならぬ点である。もし、そうであるとすれば、家語の伝本研究上、相應の意義を持つことになる。

しかしながら、聊か疑念が残る。乾隆嘉慶の当時、汲古閣旧蔵の宋刊本とは別に宋刊本が伝存していた事実を伝える資料は知られていない。また、10の案語末に「盧抱經先生所見宋本亦作闕里」とあり、少くとも此一条は、孫氏が親しく宋本と対して記した校語では無く、他の条も或は盧文弨の校記に従ったに過ぎないのではあるまいか。いずれも、孫氏の謂う宋本の存在を否定する要件となる訳ではないが、模糊然たる別一宋本の実体が更に曖昧となる憾を深める。盧文弨（清康熙五六八一七一七〇年生、乾隆六〇八一七九五〇年歿）は『群書捨補』の如き四部の諸書に亘つての校勘考証の著述を遺し『抱經堂叢書』に収められ流布しているが、未だ孔子家語考証の專著あって、その伝存するを聞かない。恐らく未定稿のまま刊行されるに至ら

なかつたのであろう。盧氏に親かつた孫氏はその未定写本を参照し得たのではなからうか。ちなみに孫氏は『抱經堂文集』三四卷の校訂に預かり、また「与盧抱經書」（『申鄭軒遺文』卷一、未見、『清代文集篇目分類索引』に依る）が遺る。尚、既に本稿（何孟春注本の項に於て触れたことではあるが、盧文弨に「重刻何註孔子家語序」の一文がある。乾隆三二（一七六七）年の撰述に繫けられる此の序文には、未だ別一宋刊本に言及するところは無く、ただ「明末虞山毛氏汲古閣本、為猶見王肅之旧。考之唐人註書所引、合者為多。然譌舛亦復不少」と毛本の瑕瑜に就き一顧するに止る。

「一本」「別本」との校勘注記を上「宋本」の例に倣つて抄出すれば、次の十八条が挙げられる。

1（致思八楚昭王渡江節）

家語一本、此条入弁物篇。

へ一本、不明。尚、何孟春注本等弁政篇に入れる。

2世之博学者謂周公便履天子之位失之遠矣（觀周十一孔子觀乎

明堂節王肅注）

〔博字下割注〕二作「傳」。

へ一本、不明、諸本「博」に作る。

3(弁政十四齊有一足之鳥節)

家語一本、此条亦入弁物篇。

一本、不明。何孟春注本は此条を同篇内末尾に置き、諸

本の章次と異なる。

4 陳侯就之燕焉子游行路之人云(弁物十六孔子在陳節66 67)

文選蘇子卿古詩及褚淵碑文注、並作「子游見行路之人」。

毛本脱「見」字。別本改作「就之燕遊焉行路之人云」、

益謬。

此の別本、黄本・永本・吳本と符合。

5(顔回十八仲孫何忌問於顔回曰節)

一本、此条在下顔回問朋友之際節後。如此則顔回問君子、

而因及小人、以類相從。

此の一本、吳本と符合。

6(在厄二十孔子厄於陳蔡節)

一本、此節在子路問於孔子曰節之前。

吳本と符合。

7 汨之深則出泉汨汨(困誓一十二子貢問於孔子曰賜既為人下矣節

98)

一本、以「汨握」二字為正文、非。汨、荀子作「扞」、注

「扞握」也。此注「握」字、亦当作「握」。

一本、永本・吳本に符合、尚、此兩本、「汨之」は「扞之」

に作る。孫氏は荀子のみを引いて此の一本に言及しない。

8 姦邪不勝曰不義不義則飭司寇(執轡二十五閔子騫為費宰節)

別本家語、作「不义」、亦非。

此の別本不明。

9 八歳而讎(本命解二十六魯哀公問於孔子曰節116)

一本、此下有「二八而化」四字。

永本・吳本と符合。

10 十有四而化(同、同節117)

一本「十有四」作「二七」。

永本・吳本と符合。

11 故聖人因時以合偶男子窮天教也極也(同、同節118)

「数字下割注」一本衍「之極」二字。

此一本、吳本と近い。吳本、「男女窮天教之極」に作る。

「男子」を「男女」と作るのは詩東門之楊正義引家語も

同じ。

12(問玉三十六子張問聖人之所以教節)

此襲礼記仲尼燕居、亦応在前論礼篇「行之其在人也」下。

不知王肅何意、將礼記兩篇之文、割裂如此。一本家語、於論礼篇全載仲尼燕居、於問玉篇全載孔子問居、所以補救其失、而前後倒置亦非王肅之旧。

〈此一本もまた呉本と符合、呉校は此一条を論礼篇末に置き、諸本論礼篇に収める「子夏侍坐於孔子曰敢問詩云」

以下の一節を問玉篇末に配す。

13 子貢好販与時轉貨（七十二弟子解三十八端木賜167）

索隱引云「子貢好廢拳与時轉化」（中略）今本多誤。一本

「好廢著」、漢書貨殖伝作「発貯」、古廢発・著貯並通。

〈此一本、不明。

14 伯夏生叔梁紇曰雖有九女是無子（本姓解三十九孔子之先末之

後也節204）

〔是字下割注〕一本「而」。

〈永本・呉本と符合。

15 齊太史子與適魯（同、齊太史子與適魯節）

「子與」一作「子輿」。困学紀聞引作「子餘」。

〈一本不明。但、何孟春注本は「子輿」に作る。

16 孔子蚤作（終記解四十孔子蚤作節209）

〔蚤字下割注〕毛本衍「晨」字、一本「晨作」、無「蚤」字。

〈永本・呉本に符号。

17 定公問於孔子曰三三大夫皆勸寡人（正論解四十一定公問於孔子三三大夫皆勸寡人節233）

〔定公下割注〕一本「哀公」。

〈黄本・永本・呉本に符合。

18 君子上不僭下下不偪上（曲礼子貢問四十二子貢問曰管仲失於

奢節238）

一本作「上不僭上上偪下」。礼記「君子上不僭上下不偪下」。

〈一本、永本・呉本に符合。

以上の十八条のうち、4 5 6 7 9 10 11 12 14 16 17 18 の十二条が

呉本と合致して、この「一本」或は「別本」は呉嘉謨集校本と最も近縁な関係にあると考えて良からう。「一本」或は「別本」が単数であるか、毛本以外の複数のテキストを含めて用いられた標記であるか詳らかになし難いが、後者であるとすれば、この「一本」の内に呉本が含まれると看做すのがまず妥当なところであろう。しかしながら、7の案語にみられる如く「汨之深則出泉」の汨を「拍」に作る永本・呉本に依らずして、「荀子作拍」と荀子堯問篇の同文との校語示すのみである。かかる事例は他にもあり、今、そのいくつかを挙げてみる。

六本第十五の「大雀從黃口亦不得」句下の案語に「不得、當從說苑作可得」との校勘記があるが、永本・呉本ともに「可得」に作ることに触れていない。(前掲対校表53参照)

顔回第十八の「好言兵討而挫銳於邾是智不足名也」句下「御覽四百四十五討作計」とあり、呉本が「計」に作ることに言及しない。(77)

困誓第二十二の「形状未也」句下「未、史記作末」とのみあるが、黄本・永本・呉本並に「末」に作る。(101)

礼運第三十二「君者人所則非則人者也」句下、「礼記〔礼運篇〕兩則字俱作明字云云」の校語があるが、黄本・永本・呉本並に兩「則」字ともに「明」に作ることに触れない。(134)

同じく「茂而不間」句下「礼記〔礼運篇〕作茂而有間、此注言有理也。亦当是有字」との校語があるが、黄本・永本とも「茂而有間」であることに一言もない。(136)

七十二弟子解第三十八「公西滅字子尚」句下「史記、公西滅字子上、滅乃滅之譌、上尚通」と注記があるが、永本・呉本ともに「滅」に作ることは触れていない。(187)

同じく「申續字子周」句下には、「史記作申党索隱本作堂字周、即論語之申振也。索隱引家語作續。論語邢疏引作續。困学記聞又

引作續。續續本通。今本作續者譌。」との考証があるが、黄本・永本・呉本並に「續」に作り、孫氏称する今本には此の三本は入っていない。(194)

本姓解第三十九「娶於宋之元官氏」の句に就き「元古其字。左桓六年伝正義引作并官譌。并音堅。毛本家語作上官、更譌。其実乃并官也。錢氏大昕跋元至順二年加封孔子父母及夫人并官氏詔云、致韓勅礼器碑本作并官、宋祥符追封及此詔亦皆作并官文字明白、可証家語伝写之誤。広韻引魯先賢伝孔子妻并官氏。今本亦誤為元。蓋流俗相伝失其本真。惟石刻出於千載以前者、信而有徵也。」との長文の考証があるが、黄本が「并」に作り、永本・呉本が「并」に作ることは全く触れていない(205)。

かかる事例はまだまだ挙げられるが、叙上の挙例から、呉本はもとより、永本・黄本とも本書対校テキストの範囲には入っていないことは明らかである。王肅注家語の校勘注釈に当って、此の三本を対象から外すことは、校勘上の不備を露呈することになる。この点に於て本書の限界と瑕瑾を認識しておかねばならない。とともに、孫氏依用の一本に就いて、別テキストを想定する必要がある。今、考えられる王肅注本としては、錢受益校〔明末〕刊本(本稿(一)241頁)及び、陸治校明隆慶刊本(本稿(一)

236頁)であるが、前者は呉本の翻版であり蓋然性は薄い。後者は、本邦には伝本は無いようで、現在のところ対査する機縁がない。或は両本に限らず、現今失伝せるか、未だ知られていない別のテキストの存在も考慮に入れておく必要がある。疑を存して後考を俟たねばならない。

次に、経伝注疏類或は類書等に引載されている所謂旧本家語との校勘注記が要所に見られ、考証旁搜博覧の程が窺える。いうまでもないことではあるが、宋刊本出現以前の旧家語本文の一斑を窺うには、かかる旧籍に引かれた家語の辞句文章を細心かつ綿密に検証することが必須である。唐宋に遡り得る古抄本が発見されない限り、宋刊本すら現存しない今日、家語の原初形態に遡る最も有効な方法であろう。以下、ほぼ引載撰述された年代の古い順に書名等を列記し、本書に於ける該当個処を()内に付記して参考とする。書名等は著者孫氏の標記に準じ、簡省略記されているところは適宜「」内に補記しておく。

〔史記孔子世家〕集解引王肅曰(困誓二二孔子適衛路出于蒲節)

水経注済水篇引家語(致思八子路為蒲宰節)

玉篇上引(困誓二二孔子適鄭節)

世説新語方正篇〔梁劉孝標〕注(困誓二二孔子之宋節)

同汰侈篇注(七十二弟子解三八顔回)

大戴礼〔記〕衛將軍文子篇周盧弁注云(弟子行一二)

周易同人正義引家語(好生一〇楚恭王出遊節)

書舜典正義引(五帝二四)

詩〔国風〕標有梅及東門之楊(本命解二六魯哀公問於孔子曰

節)

礼記檀弓正義引(本姓解三九)

〔春秋〕左桓六年伝正義引(本姓解三九)

同宣九年伝正義(子路初見一九子貢曰陳靈公君臣宣淫於朝節)

同襄二十三年伝正義引家語(好生一〇孔子問漆雕憑節)

同昭七年伝正義引(本姓解三九)

同昭二十六年伝正義引(入官二一)

〔春秋〕公羊〔哀十二年伝〕疏引(正論解四一季康子欲以一

井田出法賦焉節)

史記〔孔子世家〕索隱曰(弁物第一六季桓子穿井節)

同引(困誓二二孔子之宋節)

同引(同、孔子適鄭節)

同引(同、孔子適衛路出于蒲節)

同〔仲尼弟子列伝〕索隱引(七十二弟子解三八顔回)

後漢書鄧暉傳注(七十二弟子解三八曾參)

同張霸子楷傳注引(同、原憲)

荀子宥坐篇〔楊倞〕注引家語(三怨九子貢觀於魯廟之北堂節)

同法行篇注引家語(賢君一三顏淵將西遊於宋節)

文選吳都賦〔李善〕注(困誓二二孔子適衛路出于蒲節)

同上林賦注引家語(弟子行一二)

同寡婦賦注引(困誓二二孔子適鄭節)

同文賦注引(正論解四一公父文伯之母節)

同廬陵王墓下詩注引(執轡二五閔子騫為費宰節)

同荅盧諶詩注引(入官二一)

同蘇子卿古詩注(弁物一六孔子在陳節)

同〔樂府〕陸士衡子章行注(顏回一八孔子在衛節)

同沈休文冬節後詩注(儒行解五)

同七發注引家語(六本一五孔子曰無体之礼節)

同王元長曲水詩序注(致思八魯國之法節)

同運命論注引(七十二弟子解三八原憲)(正論解四一齊國書

伐魯節)

同廣絕交論注引(弟子行一二)

同演連珠注引(弁政二四子路治蒲三年節)

同褚淵碑文注(弁物一六孔子在陳節)

同弔魏武帝文注(曲礼子夏問第四三子貢問居父母之喪節)

說文繫傳邑部艱字引家語(賢君一三子路問於孔子曰賢君治國

節)

同〔人部儻字〕引(困誓二二孔子適鄭節)

爾雅積魚繩小魚〔邢昺〕疏引(屈節解三七三年孔子使巫馬期

往觀政焉節)

論語〔公治長〕邢〔昺〕疏引(七十二弟子解三八申續)

同疏引(好生二〇孔子問漆雕馮節)

同由之瑟集注引家語(弁樂解三五子路鼓瑟節)

〔歐陽士秀〕孔子世家補引家語(困誓二二孔子適衛路出于蒲

節)

〔王元麟〕困學紀聞引(本姓解三九齊太史子與適魯節)

陸佃鷓鴣冠子環流篇注引(好生二〇鄩詩曰執轡如組節)

太平御覽卷一七引(五帝二四)

同三六本書「三十」引(執轡二五子夏問於孔子曰節)

同七六引(五帝二四)

同一八一(在厄二〇孔子厄於陳蔡節)

同一八三一八二引(好生二〇孔子謂子路曰見長者而不尽其辭節)

同二六六（致思八子路治蒲節）

同三〇八引（正論解四一齊國書伐魯節）

同三四二（好生一〇子路戎服見於孔子節）

同三九〇引（致思八孔子北遊於農山節）

同四四五（顏回一八顏回問於孔子曰臧文仲武仲孰賢節）

同四六三引（致思八孔子北遊於農山節）

同四九九引（弁政一四子貢為信陽宰節）

同五一三（屈節解三七孔子之旧曰原壤節）

同五四一引（本姓解三九）

同五七一引（子路初見一九孔子相魯節）

同五七七（弁樂解三五子路鼓瑟節）

同六〇七（子路初見一九子路初見孔子節）

同六四一（五刑解三〇再有問於孔子曰先王制法節）

同七二八（好生一〇孔子嘗自筮其卦節）

元張存中四書通証引（弟子行一二）

文献通考六八引（郊問二九）

因に、宋歐陽士秀撰孔子世家補一二卷は四庫存目伝記類に著録されているが罕伝、今容易に睹るを得ない。

そのほか、校勘考証に当っては、唐余知古諸宮旧事、宋廬陵

劉美中〔才邵〕、王心鱗詩攷、歐陽士秀孔子世家補、清余姚盧氏文詔校、錢氏大昕考異、海寧陳氏鱣等の校記注説が引証され、また、日本の山井鼎七經攷文の「家語亦作櫓巢、句解本音魯」なる一条が引載されていること（問礼第六言偃問曰節）には注目してよからう。

以上の校合注記は、本文校定を企図して考証された注釈ではなく、家語の本文の記述内容或は措辞上の矛盾を解析する過程での派生的成果であつて、本考証の目指すところは別にある。従つて先に触れた校勘学上の不備は諒としなければならぬ。

孫氏考証の主眼とするところは、王肅家語偽撰の事実を暴露することにあつた。後年、自ら「予嘗患王肅之作偽、著家語疏証六卷」（『讀書脞録』卷四家語攷）と述べていることから、この孫氏の企図は明らかであらう。孫氏は家語各篇を小節に分け、その小節毎に王肅が依用勦襲する旧籍の書名篇名を明示し、立異加増、妄改牽合、敷衍縁飾に依る造文改変の手法を克明に指摘する。これを范家相の『証偽』に比すればより峻厳且つ精緻である。次に、その要を摘録して本書の主旨を示しておきたい。まず、著者掲するところの各節頭の数句を挙げ、次行一字を低して王肅が襲用したとする旧典の書名篇名を示す。次に二

字を低して、王肅偽撰に就き孫氏論ずる所の要を録す。節頭句下の（ ）内は篇次數並に、篇内小節の順序數、句点並に「」内の辭句は適宜私に付加したものである。

相魯第一

孔子初仕為中都宰節（一 1）

凡「王」肅所云、皆敷衍無実拠。

定公以為司空節（一 2）

此亦鑿空臆說。（略）肅意不過欲孔子所歷之職、皆有事蹟。

如後世人撰年譜所為、而又別無証拠。摭拾空談殊可不必。

定公与齊侯会于夾谷節（一 3）

左氏穀梁定十年伝・史記「孔子」世家

孔子言於定公曰家不藏甲節（一 4）

初魯之販羊有沈猶氏者節（一 5）

呂氏春秋樂成篇・荀子儒効篇・新序雜事第一篇及第五篇・淮

南泰族訓

始誅第二

孔子為魯司寇撰行相事節（二 1）

孔子為魯大司寇有父子訟者節（二 2）

荀子宥坐篇・說苑政理篇・韓詩外伝三

王言解第三

孔子問居至篇末（三 1）

大戴礼主言篇

大婚解第四

孔子侍坐於哀公至篇末（四 1）

礼記哀公問篇・大戴礼哀公問於孔子篇

篇首尚有哀公問於孔子曰大礼何如一段。王肅割入後問礼篇、

以一篇之辭、分作兩篇。家語多此類。

儒行解第五

孔子在衛至篇末（五 1）

礼記儒行篇

篇首孔子在衛一段、則王肅以史記孔子世家敷演、又參用礼

記檀弓、申之以再有語也。

問礼第六

哀公問於孔子曰節（六 1）

礼記哀公問篇・大戴礼哀公問於孔子篇

案此当入前大婚解。王肅移置於此非也。

言偃問曰節（六 2）

〔禮記〕禮運篇

此下乃禮運篇之文。王肅又移置於此、合為問禮篇、其各還其旧可也。紊亂篇第、而上下文義俱不聯貫。

五儀解第七

哀公問於孔子曰寡人欲論魯國之士節（七1）

大戴〔禮〕哀公問五義篇·荀子哀公篇·韓詩外傳一·同四·新

序雜事第四篇

哀公問於孔子曰請問取人之法節（七2）

荀子哀公篇·說苑尊賢篇·韓詩外傳四

哀公問於孔子曰寡人欲吾國節（七3）

說苑指武篇

哀公問於孔子曰吾聞君子不博節（七4）

說苑君道篇

哀公問於孔子曰夫國家之存亡禍福節（七5）

說苑敬慎篇

說苑敬慎篇非對哀公語。王肅假為問答、而類入於此。

哀公問於孔子曰智者壽乎節（七6）

說苑雜言篇·韓詩外傳一·文子符言篇

致思第八

孔子北遊於農山節（八1）

說苑指武篇·韓詩外傳七·同九

魯有儉嗇者節（八2）

說苑反質篇

孔子之楚節（八3）

說苑貴德篇

季羔為衛士師節（八4）

說苑至公篇·韓非子外儲說左下

孔子曰季孫之賜我粟千鍾也節（八5）

說苑雜言篇

孔子曰王者有似于春秋節（八6）

說苑君道篇

曾子曰入是國也節（八7）

說苑談叢篇

子路為蒲宰節（八8）

說苑臣術篇·韓非子外儲說右上

子路問於孔子曰管仲之為人如何節（八9）

說苑善說篇

孔子適齊節（八10）

說苑敬慎篇·韓詩外傳九

孔子謂伯魚曰節(八11)

說苑建本篇

說苑建本篇分兩段。(略)此合為一、參取尚書大傳·大戴

禮勸學篇·韓詩外傳六。

子路見於孔子曰節(八12)

說苑建本篇·韓詩外傳一

孔子曰由他事親三語、則王肅所增。

孔子之郊節(八13)

說苑尊賢篇·韓詩外傳二

孔子自衛反魯節(八14)

說苑雜言篇·列子說符篇

列子說呂梁事有二、一見黃帝篇、與莊子達生篇同。一見說

符篇、與說苑雜言篇·家語同。大旨亦無甚懸殊也。

孔子將行節(八15)

說苑雜言篇

楚昭王渡江節(八16)

說苑弁物篇

子貢問於孔子曰死者有知乎節(八17)

說苑弁物篇

子貢問治民於孔子節(八18)

說苑政理篇

魯國之法節(八19)

呂氏春秋〔先識覽〕察微篇·說苑政理篇·淮南子道心訓

子路治蒲節(八20)

史記仲尼弟子列傳·說苑政理篇

三怨第九

孔子曰君子有三怨節(九1)

荀子法行篇

孔子曰君子有三思節(九2)

荀子法行篇

伯常騫問於孔子曰節(九3)

晏子春秋問下篇作柏常騫。伯與柏通。是問晏子、非孔子也。

孔子觀於魯桓公之廟節(九4)

荀子宥坐篇·淮南子道心訓·說苑敬慎篇·韓詩外傳三作周廟

孔子觀於東流之水節(九5)

大戴禮觀學篇·荀子宥坐篇·說苑雜言篇

子貢觀於魯廟之北堂節(九6)

荀子宥坐篇

孔子曰吾有所恥節(九七)

荀子宥坐篇

子路見於孔子節(九八)

荀子子道篇

子貢問於孔子曰子從父命孝節(九九)

荀子子道篇

荀子子道篇魯哀公問於孔子曰子從父命孝乎。(略)今家語

刪去前一段、直從子貢問起、改奚對為奚疑、語便無根。

子路盛服見於孔子節(九一〇)

荀子子道篇·說苑雜言篇·韓詩外傳三

子路問於孔子曰節(九一一)

老子下篇有知我者希、則我者貴、是以聖人被褐懷玉語、疑

因此影撰。

好生第十

魯哀公問於孔子曰昔者舜冠何冠乎節(一〇一)

荀子哀公篇

孔子誦史至楚復陳節(一〇二)

孔子嘗自筮其卦節(一〇三)

呂氏春秋〔慎行論〕老行篇·說苑反質篇

孔子曰吾於甘棠節(一〇四)

說苑貴德篇

子路戎服見於孔子節(一〇五)

說苑貴德篇

楚恭王出遊節(一〇六)

說苑至公篇

孔子為魯司寇節(一〇七)

說苑至公篇

孔子問漆雕憑節(一〇八)

說苑權謀篇

魯公索氏將祭而忘其牲節(一〇九)

說苑權謀篇

虞芮爭田而訟節(一一〇)

詩〔大雅〕虞芮質厥成毛傳

虞芮爭田事尚書大傳·史記周本紀·說苑君道篇·詩虞芮質

厥成毛傳並載之、而毛傳尤詳。王肅注詩、多從毛傳、而違

鄭箋。故其撰家語亦往往竊取之如此。及後魯人學柳下惠事、

並襲毛傳成文。

曾子曰狎甚則相簡節（一〇一）

說苑談叢篇

「孔子聞斯言也」以下、則王肅所增。

哀公問曰紳委章甫節（一〇一〇）

荀子哀公篇

孔子謂子路曰見長者而不尽其辭節（一〇〇九）

孔子謂子路曰君子以心導耳目節（一〇〇八）

「君子以心導耳目、小人以耳目導心」、子思子^{見意}及說苑談叢

篇俱有此二語^{說苑君子。作聖人}。「其立義以為勇、不憊以為勇」則又

參用論語也。

孔子曰君子有三患節（一〇〇七）

禮記雜記

魯人有獨處室者節（一〇〇六）

詩〔小雅〕巷伯毛傳

刪去顏叔子事、雜引不倫。吾不知肅意何屬。

孔子曰小弁害義節（一〇〇五）

大戴禮小弁篇·淮南子泰族訓

孔子謂子路曰君子而強氣節（一〇〇四）

此襲論語〔陽貨篇〕「君子有勇而無義則亂、小人有勇而無義則

盜」語意。

關詩曰迨天之未陰雨節（一〇〇三）

此襲孟子「周自后稷以下即能治其國家、孰敢侮予」二句、而敷衍之耳。

鄘詩曰執轡如組節（一〇〇二）

呂氏春秋〔季春紀〕先己篇·淮南子繆稱訓·詩〔國風邶〕簡兮毛傳·同于旄毛傳

「竿旄之忠告至矣哉」、兼采左定九年傳「竿旄何以告之、取其忠也」語。

觀周第十一

孔子謂南宮敬叔曰節（一一一）

「孔子聖人之後也云云」、襲〔春秋〕左昭七年傳。「車一乘馬二匹豎子侍御」、襲史記孔子世家。「吾乃今知周公之聖與周之所

以王也」、襲〔春秋〕左昭二年傳韓宣子語。

及去周老子送之節（一一〇）

史記〔孔子〕世家

孔子觀乎朋堂節（一一一）

淮南主術訓云「文王周觀得失遍覽是非、堯舜所以昌、桀紂所以亡者、皆著於明堂」、王肅遂影撰為孔子事。又周公負

成王圖見漢書霍光傳、故并以為孔子適周而見之也。

孔子誦詩于正月六章節（一三三）

「其明鏡所以察形云云」、襲大戴禮保傳篇·賈誼新書胎教篇·

說苑敬慎篇

說苑尊賢篇·韓詩外傳五·同七

子路問於孔子曰賢君治國節（一三六）

孔子觀周節（一一四）

說苑尊賢篇

說苑敬慎篇

孔子問勉喟然而嘆節（一三七）

孔子見老聃而問焉節（一一五）

說苑尊賢篇

說苑反質篇

齊景公來適魯節（一三八）

弟子行第十二

史記孔子世家·說苑政理篇·同尊賢篇

衛將軍文子問於子貢曰至篇末（一二一）

哀公問政於孔子節（一三九）

大戴禮衛將軍文子篇

說苑政理篇

賢君第十三

衛靈公問於孔子節（一三〇）

哀公問於孔子曰當今之君孰為最賢節（一三一）

說苑政理篇

說苑尊賢篇

呂氏春秋〔季春紀〕先己篇作「魯哀公問」。

子貢問於孔子曰今之人臣孰為賢節（一二二）

孔子見宋君節（一三二）

說苑臣術篇·韓詩外傳七

案說苑政理篇宋君作梁君。王肅以孔子時無梁君故改之也。

哀公問於孔子曰寡人聞忘之甚者節（一二三）

弁政第十四

尸子君治·說苑敬慎篇

子貢問於孔子曰昔者齊君問政於夫子節（一四一）

顏淵將西遊於宋節（一二四）

尚書大傳略說·史記孔子世家·韓非子難三·說苑政理篇

說苑敬慎篇

孔子曰忠臣之諫君節（一四二）

說苑正諫篇·白虎通諫諍篇

子曰夫道不可不貴也節(一四三)

案此撮合說苑權謀篇二事為一。

楚王將遊荆台節(一四四)

說苑正諫篇

〔子貢問於孔子曰夫子之於子產晏子可為至矣節〕(一四五)

齊有一足之鳥節(一四六)

說苑弁物篇

孔子謂宓子賤曰節(一四七)

說苑政理篇·韓詩外傳八·史記仲尼弟子列傳

子貢為信陽宰節(一四八)

說苑政理篇

子路治蒲三年節(一四九)

韓詩外傳六

六本第十五

孔子曰行已有六本焉節(一五一)

墨子脩身節·說苑建本篇

孔子曰良藥苦口而利於病節(一五二)

說苑正諫篇

孔子見齊景公節(一五三)

呂氏春秋〔離俗覽〕高義篇·說苑立節篇

孔子在齊舍於外館節(一五四)

說苑權謀篇但云「孔子与齊景公坐」、家語「孔子在齊舍於

外館景公造焉賓主之辭既接」、亦王肅緣飾之詞。

子夏三年之喪畢節(一五五)

詩〔國風檜〕素冠毛傳·說苑脩文篇

孔子曰無体之礼節(一五六)

說苑脩文篇

孔子見羅雀者節(一五七)

說苑敬慎篇

「孔子顧謂弟子曰」以下、則攬說苑之文而暢論之也。

孔子說易節(一五八)

說苑敬慎篇

子路問於孔子曰請積古之道而行由之意節(一五九)

說苑建本篇

曾子耘瓜誤斬其根節(一五〇)

說苑建本篇·韓詩外傳八

荆公子行年十五而撰荆相事節(一五一)

說苑尊賢篇

子夏問於孔子曰顏回之為人奚若節（一五十二）

列子仲尼篇·說苑雜言篇·淮南子人間訓

孔子游於泰山節（一五十三）

列子天瑞篇·說苑雜言篇·淮南子主術訓·同齊俗訓

孔子曰回有君子之道四焉節（一五十四）

此撮說苑雜言篇二段為一。王肅（略）牽合之痕迹顯然。

孔子曰吾死之後節（一五十五）

此亦撮說苑雜言篇二段為一。

「故曰与善人居云云」又見大戴禮曾子疾病篇。

曾子從孔子於齊節（一五十六）

此亦撮說苑雜言篇二段為一。「依賢固不因云云」乃說苑別一

索引孔子語、王肅強綴於此、以為聞晏子之言而發、非也。

孔子曰以富貴而而下人節（一五十七）

此亦合說苑雜言篇二段為一。

孔子曰中人之情也節（一五十八）

此亦合說苑雜言篇二段為一。

孔子曰巧而好度必攻節（一五十九）

案說苑雜言篇「愚者反是」下接以「夫処重擅寵云云」、而

「非其地而樹之、不生也」又別一條、今撮合為一、增「是以」

二字。（略）是之謂勦說。

孔子曰舟非水不行節（一五二十）

說苑雜言篇

齊高庭問於孔子曰節（一五二十一）

此又撮說苑雜言篇一段為一。（略）不知何故牽合之也。

弁物第十六

季桓子穿井節（一六一）

國語魯語·史記孔子世家·說苑弁物篇

「與伐越隰云云」節（一六二）

「國語魯語」·「史記孔子世家」·「說苑弁物篇」

「孔子在陳陳惠公賓之於上館節」（一六三）

「國語魯語」·「史記孔子世家」·「說苑弁物篇」

鄭子朝魯節（一六四）

「春秋」左昭十七年傳

邾隱公朝于魯節（一六五）

「春秋」左定十五年傳

孔子在陳節（一六六）

「春秋」左哀三年傳·史記孔子世家

「礼祖有功而宗有德故不毀其廟焉」此二語王肅所造、以証七廟不數文武之說。

陽虎既奔齊節（一六七）

因「春秋」左定九年伝有「孔子曰趙氏其世有乱乎」一語、假為子路問答之辭、以敷演之、「親富不親仁」又襲左伝鮑文子語也。

季康子問於孔子曰節（一六八）

「春秋」左哀十二年伝

「季康子曰所失者幾月也」以下、則王肅所增。

吳王夫差將与哀公見晋侯節（一六九）

「春秋」左哀十三年伝

「子貢聞之」以下、則王肅所增。

叔孫氏之車士曰子鉏商節（一七〇）

「春秋」左哀十四年伝・同公羊同伝・史記孔子世家

哀公問政第十七

哀公問政於孔子節（一七一）

礼記中庸

「公曰子之言美矣至矣寡人実固不足以成之也」、中庸無此數語、蓋王肅所增。

「公曰政其尽此而已乎孔子曰」「公曰為之奈何孔子曰」、此

俱王肅所增、中庸無之。

「公曰子之教寡人備矣敢問行之所始」、此二語亦王肅所增。

孔子曰立愛自親始節（一七二）

礼記祭義篇

「公曰寡人既得聞此言也懼不能果行而獲罪咎」、此亦王肅所增。刪中庸之文、而以祭義足成之、又撰為哀公語、以聯屬其文。

宰我問於孔子曰吾聞鬼神之名節（一七三）

礼記祭義篇

因上襲祭義、而復牽連及之。

顔回第十八

魯定公問於顔回曰節（一八一）

荀子哀公篇・新序雜事第五・韓詩外伝二

莊子達生篇・呂氏春秋「離俗覽」適威篇、以此為莊公顔闔事。

「公說遂以告孔子」、此下並王肅所增。

孔子在衛節（一八二）

說苑弁物篇

顔回問於孔子曰成人之行若何節（一八三）

說苑弁物篇

顏回問於孔子曰：「威文仲武仲孰賢？」（一八四）

〔春秋〕左文二年傳及び同襄二十三年傳の兩文を雜取、假託して此段を作る、家語の是非の論述多く謬れりと、やや長

文の論証あり

顏回問君子節（一八五）

仲孫何忌問於顏回曰節（一八六）

〔顏回問小人節〕（一八七）

「毀人之善以為弁狡、許懷詐以為智」、此本論語〔陽貨〕「惡微以為智者」「惡許以為直者」。

顏回謂子路曰節（一八八）

論語〔衛靈公篇〕「子曰：由知德者鮮矣」、及〔先進篇〕「若由也、不得其死然」語。

〔孔子謂顏回曰節〕（一八九）

〔顏回問於孔子曰：小人之言有同乎節〕（一八〇）

〔顏回問朋友之際節〕（一八一）

〔叔孫武叔見未仕於顏回節〕（一八二）

此篇所引顏回語、多不詳其來歷。蓋王肅所摭先秦諸子書、今已亡佚也。

「故君子攻其惡、無攻人之惡」、此襲論語〔顏淵篇〕。

〔顏回謂子貢曰節〕（一八三）

子路初見第十九

子路初見孔子節（一九一）

說苑建本篇

子路將行辭於孔子節（一九二）

說苑雜言篇本分兩段、王肅增「汝所問苟在五者中矣」句、牽合為一。

孔子為魯司寇節（一九三）

說苑政理篇

孔子謂宰予曰節（一九四）

孔子兄子有孔蔑者節（一九五）

說苑政理篇

孔子侍坐於哀公節（一九六）

韓非子外儲說左下

子貢曰：陳靈公君臣宣淫於朝節（一九七）

此因左傳載「孔子曰：詩云、民之多辟、無自立辟、其洩洽之謂乎」數語、而傳會之。

孔子相魯節（一九八）

史記孔子世家

澹台子羽有君子之容節（一九九）

韓非子顯學篇

「以容取人則失之子羽以辭取人則失之宰予」，此語亦見史記·

韓非子·大戴禮五帝德·論衡骨相篇、本書亦屢引之。

〔孔子曰君子以其所不能畏人節〕（一九一〇）

〔孔蔑問行己之道節〕（一九一一）

「終日言無遺已憂終日行不遺已患」，此二語見說苑雜言篇，前六本篇已襲之。

在厄第二十

楚昭王聘孔子節（二〇一）

史記孔子世家·荀子宥坐篇·說苑雜言篇·韓詩外傳七

子路問於孔子曰君子亦有憂乎節（二〇二）

荀子子道篇·說苑雜言篇

曾子弊衣而耕於魯節（二〇三）

說苑立節篇

孔子厄於陳蔡節（二〇四）

呂氏春秋〔審分覽〕任數篇、与此小異。

入官第二十一

子張問入官於孔子至篇末（二一一）

大戴禮子張問入官篇

困誓第二十二

子貢問於孔子曰賜倦於學節（二二一）

列子天瑞篇·荀子大略篇·韓詩外傳八

孔子自衛將入晉節（二二二）

史記孔子世家

子路問於孔子曰有人於此節（二二三）

荀子子道篇·韓詩外傳九

孔子遭厄於陳蔡之間節（二二四）

說苑雜言篇

又莊子讓王篇·呂氏春秋〔孝行覽〕慎人篇、語意略同。

孔子之宋節（二二五）

說苑雜言篇·韓詩外傳六

孔子曰不覲高崖節（二二六）

說苑雜言篇

子貢問於孔子曰賜既為人下矣節（二二七）

荀子堯問篇·說苑臣術篇·韓詩外傳七

孔子適鄭節（二二八）

史記孔子世家·白虎通壽命篇·論衡骨相篇

与韓詩外傳九文異。

孔子適衛路出于蒲節（二二九）

史記孔子世家

衛蘧伯玉賢而靈公不用節（二二一〇）

韓詩外傳七·賈誼新書胎教篇·新序雜事第一篇

「孔子聞之曰」以下、王肅所增。

五帝德第二十三

宰我問於孔子曰至篇末（二三一）

大戴禮五帝德篇

五帝德第二十四

季康子問於孔子曰至篇末（二四一）

案此篇王肅所造。雜采禮記·左傳、假為季康子問答、以駁

鄭康成六天之說。

「昔少皞氏之子有四叔」、此襲〔春秋〕左昭二十九年傳。

「夏后氏以金德王而尚黑至此三代之所以不同」、此段襲禮記檀

弓。

執轡第二十五

閔子騫為費宰節（二五一）

大戴禮盛德篇

假為閔子騫問答之辭。

子夏問於孔子曰節（二五二）

大戴禮易本命篇·淮南子地形訓

「孔子曰然吾昔聞諸老聃亦如汝之言子夏曰商聞山書曰、大

戴無此數語。蓋王肅所增。

「子夏言終而出至各其所能」、此俱王肅所增。

本命解二十六

魯哀公問於孔子曰節（二六一）

大戴禮本命篇·韓詩外傳一·說苑弁物篇·白虎通姓名篇

假為哀公孔子問答之辭。

「男子二十而冠有為人父之端女子十五許嫁有適人之道於此

而往則自婚矣」、此數語乃王肅所造。

孔子遂言曰女有五不取節（二六二）

大戴禮本命篇·白虎通嫁娶篇·趙岐孟子注·何休公羊莊廿七

年傳注

孔子曰禮之所以象五行也節（二六三）

大戴禮本命篇·禮記喪服四制

論禮第二十七

孔子問居子張子貢言游侍節（二七一）

礼記仲尼燕居

「給奪慈仁」、礼記此句下尚有「子曰師爾過而商也不及子產猶衆人之母能食之不能教也」。故子貢問將何以為此中者也。

中字承上過不及來。今王肅刪去上數語。

「言游退子張進曰敢問礼何謂也」、礼記無此三句。王肅以後

文子張問政一段、割入問玉篇(三六4)。故於此增子張問語耳。

子夏侍坐於孔子曰節(二七2)

礼記孔子間居

「是湯之德也」、礼記此下尚有「天有四時」一段、家語亦割

入問玉篇(三六3)。

觀鄉射第二十八

孔子觀於鄉射節(二八1)

礼記射義

「射既闋子路進曰由与二三子者之為司馬何如孔子曰能用命

矣」、此數語王肅所增。

孔子曰吾觀於鄉而知王道之易易也節(二八2)

礼記鄉飲酒義·荀子樂論篇

子貢觀於蜡節(二八3)

礼記雜記

郊問第二十九

定公問於孔子曰至篇末(二九1)

此篇王肅所造。雜采礼記諸文、以駁鄭康成、而假為定公孔

子問對之詞。

五刑解第三十

冉有問於孔子曰古者三皇五帝不用五刑節(三〇1)

大戴礼盛德篇

假為冉有孔子問答之辭。大戴盛德後半篇、前執轡篇(二五1)

已襲之矣。此復襲其前半篇、蓋亦以一篇之文分為兩篇也。

孔子曰大罪有五節(三〇2)

大戴礼本命篇

冉有問於孔子曰先王制法節(三〇3)

礼記曲礼·漢書賈誼傳·賈誼新書階級篇

假為冉有孔子問答之辭。

刑政第三十一

仲弓問於孔子曰雍聞至刑無所用政節(三一1)

此本論語、而參以尚書大傳·孔叢子刑論。

「顯五刑必即天倫」、此下襲礼記王制。

礼運第三十二

孔子為魯司寇至篇末（三三一）

禮記禮運篇

「則天下國家可得以禮正矣」、禮記此下有「言偃復問曰夫子之極言禮也」一段。家語割入前問禮篇（六二）、而於此增

「言偃曰今之在位莫知由禮何也」教語。

「冬合男女春頒爵位」、冬春二字、王肅所增。

冠頌第三十三

邾隱公既即位節（三三一）

禮記郊特牲·同冠義·儀禮士冠禮·〔春秋〕左襄九年傳

假為邾隱公即位將冠問孔子之辭。

懿子曰天子未冠即位節（三三二）

此段即做〔禮記郊特牲〕文為之。（梁玉繩說に倣う）

「諸侯之有冠禮也夏之末造也」、此二句襲禮記郊特牲。

〔周公命祝雍作頌曰〕、此襲大戴禮公冠篇·說苑脩文篇。

「其頌曰令月吉日」、祝雍頌止五句、所謂辭達而弗多也。此

復雜采儀禮士冠禮始加祝辭·大戴禮孝昭冠辭為頌語、竟成

贅設。

懿子曰諸侯之冠其所以為賓主何也節（三三三）

大戴禮〔公冠篇〕·說苑〔脩文篇〕

懿子曰始冠必加緇布之冠何也節（三三四）

儀禮士冠禮·禮記郊特牲·同玉藻

廟制第三十四

衛將軍文子將立先君之廟於其家節（三四一）

案此篇王肅所造。以駭鄭康成廟制、而撰為衛將軍文子將立

先君之廟於其家事。

「公廟設於私家非禮也」、則襲禮記郊特牲語。

子羔曰敢問尊卑上下立廟之制節（三四二）

禮記王制·同祭法

子羔問曰祭典云節（三四三）

「周人之於邵公也云云」、亦見漢書韋元成傳。

弁樂解第三十五

孔子學琴於師襄子節（三五一）

史記孔子世家·韓詩外傳五

「吾雖以擊磬為官」、此語王肅所增。

「其佖曰文王操」、此語王肅所增。

子路鼓瑟節（三五二）

說苑脩文篇

周賓牟賈侍坐於孔子節（三五三）

礼記案記·史記案書

正義云「姓賚牟名賈」，不云周人也。此周字，王肅所增。

「郊配后稷而民知尊父焉」、礼記無此句。（略）王肅因駁康

成帝譽配祭圖丘之說，故增此句。

問玉第三六

子貢問於孔子曰敢問君子貴玉而賤珉節（三六一）

礼記聘義·荀子法行篇

孔子曰入其國其教可知也節（三六二）

礼記經解

天有四時節（三六三）

礼記孔子問居·韓詩外伝五

此応在前論礼篇「是湯之德也」（二七二）下，誤綴於此。

子張問聖人之所以教節（三六四）

礼記仲尼燕居

応在前論礼篇「行之其在人也」（二七一）下，不知王肅何

意將礼記兩篇之文割裂如此。

屈節解三十七

子路問於孔子曰由聞丈夫居世節（三七一）

荀子仲尼篇有時屈則屈時則伸語，此襲之。

孔子在衛聞齊國田常將欲為乱節（三七二）

史記仲尼弟子列伝·吳越春秋夫差内伝·越絶書陳恒伝

「此聖人所謂屈節求其達者也」、此句王肅所增。

「遂自發國內之兵以伐齊」、史記云發九郡兵伐齊。此時不得

有九郡之名，故王肅改之。

孔子弟子有宓子賤者仕於魯節（三七三）

呂氏春秋「審心覽」具備篇·新序雜事第二篇

「屈節治單父將以自試也」、此二句王肅所增。

齊人攻魯道由單父節（三七四）

賈誼新書審微篇

三年孔子使巫馬期往觀政焉節（三七五）

呂氏春秋「審心覽」具備篇·淮南子道應訓、又見水經泗水注

孔子之旧曰原壤節（三七六）

礼記檀弓

「子路曰由也昔聞諸夫子無友不如己者過則勿憚改夫子憚矣

姑已若何」、此襲論語「学而·子罕篇」、而假為子路問辭。

「子路曰夫子屈節而極於此失其與矣豈未可以已乎」、此數語

亦王肅所增。

七十二弟子解第三十八

「自吾有回門人日益」(顏回) 是語襲尚書大傳。

「宰予与田常為乱夷其三族孔子恥之」(宰予) 此襲史記「仲尼弟子列傳」而誤者。

「端木賜常結駟連騎以造原憲」(端木賜) 此襲莊子讓王篇·韓

詩外傳一·新序節士篇。

「自吾有由而惡言不入於耳」(仲由) 此語亦襲史記「仲尼弟子列傳」·尚書大傳。

「見說史志者云」(卜商) 此襲呂氏春秋「真行論」察佞篇。

「顓孫師孔子門人友之而弗敬」(顓孫師) 此因論語子游曾子之語、而影撰者。

「使孔子為次乘」(顏刻) 此襲史記孔子世家。

「小成則若性也習慣若自然也」(叔仲會) 二語見大戴禮保傳篇

·賈誼新書保傳篇·漢書賈誼傳

本姓解三十九

「孔子之先宋之後也節」(三九一)

齊太史子与適魯節(三九二)

終記解第四十

孔子蚤作節(四〇一)

礼記檀弓

哀公誅曰節(四〇二)

礼記「檀弓」·「春秋」左「哀十六年」傳·史記「孔子世家」·漢

書^{五行}志中並載孔子誄詞、而詞句小異。家語所載誄詞与左傳史記同

既卒門人疑所以服夫子者節(四〇三)

礼記檀弓

孔子之喪公西赤掌殯葬焉節(四〇四)

「礼記」檀弓、參取史記「孔子」世家。

「冠章甫之冠」、此句王肅所增。

「珮象環徑五寸而緝組綬」、此襲礼記玉藻。

既葬有自燕來觀者節(四〇五)

「礼記」檀弓

一三子三年喪畢節(四〇六)

孟子·史記「孔子世家」

正論解第四十一

孔子在齊齊侯出田節(四一)

孟子·「春秋」左昭二十年傳

齊國書伐魯節(四一二)

「春秋」左哀十一年傳

「既戰季孫謂冉有曰」、此襲史記孔子世家。

南宮說仲孫何忌既除喪節(四一三)

〔春秋〕左昭七年傳

衛孫文子得罪於猷公節(四一四)

〔春秋〕左襄廿九年傳

〔孔子聞之曰〕、此下王肅所增。

孔子覽晉志節(四一五)

〔春秋〕左宣二年傳

鄭伐陳入之使子產獻捷于晉節(四一六)

〔春秋〕左襄廿五年傳

楚靈王汰侈節(四一七)

〔春秋〕左昭十二年傳

叔孫穆子避難奔齊節(四一八)

〔春秋〕左昭五年傳

晉邢侯與雍子爭田節(四一九)

〔春秋〕左昭十四年傳・國語晉語

鄭有鄉校節(四一十)

〔春秋〕左襄三十一年傳・新序雜事第四篇

晉平公會諸侯于平丘節(四一一)

〔春秋〕左昭十三年傳

鄭子產有疾節(四一二)

〔春秋〕左昭二十年傳

孔子適齊節(四一十三)

禮記檀弓

晉魏獻子為政節(四一十四)

〔春秋〕左昭廿八年傳

趙簡子賦晉國一鼓鐘節(四一十五)

〔春秋〕左昭廿九年傳

楚昭王有疾節(四一十六)

〔春秋〕左哀六年傳・說苑君道篇・韓詩外傳三

衛孔文子使太叔疾出其妻節(四一十七)

〔春秋〕左哀十一年傳・史記孔子世家

齊陳恒弑其君簡公節(四一十八)

論語〔憲問篇〕・〔春秋〕左哀十四年傳

子張問曰書云高宗三年不言節(四一九)

論語〔憲問篇〕・禮記檀弓・同坊記・同喪服四制・尚書大傳・

春秋繁露竹林篇

衛孫桓子侵齊節(四二零)

〔春秋〕左成二年傳・賈誼新書審微篇

公父文伯之母節(四一21)

國語魯語

樊遲問於孔子曰鮑牽事齊君節(四一22)

因〔春秋〕左成十七年傳載「孔子曰鮑莊子之智不如葵」二語、

而假為樊遲問答之辭。

李康子欲以一井田出法賦焉節(四一23)

〔春秋〕左哀十一年傳·國語魯語

子游問於孔子曰夫子之極言子產之惠也節(四一24)

孟子·禮記仲尼燕居

定公問於孔子曰二三大夫皆勸寡人節(四一25)

禮記祭義

假為定公孔子問對之辭。

哀公問於孔子曰寡人聞東益宅不祥節(四一26)

淮南子人間訓·新序雜事第五篇·論衡四諱篇

孔子適季孫節(四一27)

韓詩外傳五·新序雜事第五篇

曲禮子貢問第四十二

子貢問於孔子曰晉文公突召天子節(四二1)

〔春秋〕左僖廿八年傳

假為子貢問辭。

孔子在宋見桓魋自為石椁節(四二2)

禮記檀弓

「冉子僕」以下、則王肅所增。

「子凶事非禮也」、襲〔春秋〕左隱元年傳。

南宮敬叔以富得罪於定公節(四二3)

〔禮記〕檀弓

「得罪於定公犇衛衛侯請復之」及「子游侍」以下、則王肅

所增也。

孔子在齊節(四二4)

禮記曲禮云「歲凶馳道不除祭事不具」、雜記「孔子曰凶年

則乘駑馬祀以下牲」、此撮合為一、而造為齊大旱春饑事。

景公孔子問對之辭。

孔子適季氏節(四二5)

禮記檀弓

造一季康子昼居內寢孔子問疾事。

孔子為大司寇節(四二6)

論語〔鄉黨篇〕·禮記雜記

子貢問曰管仲失於奢節(四二7)

礼記礼器·同雜記

假為子貢問辭。

晏子一狐裘三十年之文、則又襲〔礼記〕檀弓。

冉求曰臧文仲知魯国之政節（四二八）

礼記礼器

假為冉求問辭。

臧文仲立言垂法、則襲〔春秋〕左襄廿四年伝穆叔語。

子路問於孔子臧武仲率師節（四二九）

礼記檀弓

晉將伐宋節（四二一〇）

礼記檀弓

「是以周任有言曰民悅其愛者弗可敵也」此三句、王肅所增。

楚伐吳尹商陽与陳弃疾追吳師節（四二一一）

礼記檀弓

「子路怫然進曰」、此下王肅所增。

孔子在衛司徒敬子卒節（四二一二）

礼記檀弓「衛司徒敬子死子夏弔焉」、此小變之。

「掘中霑而浴云云」、亦檀弓語也。

「君子行礼不求變俗」二句、則兼襲曲礼語。

宣公八年六月辛巳節（四二一三）

礼記檀弓

假為子游問辭。

季桓子喪康子練而無衰節（四二一四）

邾人以同母異父之昆弟死節（四二一五）

此条似駁檀弓鄭注、（略）其為王肅偽造無疑。

齊師侵魯節（四二一六）

礼記檀弓「春秋」左哀十一年伝

注亦全襲〔鄭〕康成語。

魯昭公夫人吳孟子卒節（四二一七）

〔春秋〕左哀十二年伝

假為子游問答之辭。

公父穆伯之喪節（四二一八）

礼記檀弓·国語魯語

南宮縚之妻節（四二一九）

礼記檀弓

子張有父之喪節（四二二〇）

〔礼記檀弓〕

孔子在衛衛之人有送葬者節（四二二一）

礼記檀弓

「此情之至者也」、此句王肅所增。

卞人有母死而孺子之泣者節(四二二)

礼記檀弓

「而爰除有期」、此句王肅所增。

孟獻子禫節(四二二三)

礼記檀弓、無子游問語

魯人有朝祥而暮歌者節(四二二四)

礼記檀弓

子路問於孔子曰傷哉貧也節(四二二五)

礼記檀弓

增「貧何傷乎」一語。

吳延陵季子聘于上國節(四二二六)

礼記檀弓

子游問喪之具節(四二二七)

礼記檀弓「喪礼与其哀不足而礼有余」四句、是子路述聞諸

夫子語、此撮合為一。

伯高死於衛節(四二二八)

礼記檀弓云「孔氏之使者未至」、此即造一使子張往弔事。

子路有姊之喪節(四二二九)

礼記檀弓

伯魚之喪母也節(四二三〇)

〔礼記檀弓〕

衛公使其大夫求婚於季氏節(四二三一)

礼記大伝

撰為衛公求婚季氏事。

有若問於孔子曰國君之於同姓節(四二三二)

「雖國君之尊猶百世不廢其親所以崇愛也」、孔叢子雜訓篇亦有此三句。二書皆偽書也。

「雖於族人之親而不敢戚君」、襲礼記大伝「君有合族之道族人不得以其戚戚君位也」語。

曲礼子夏問第四十三

子夏問於孔子曰居父母之仇如之何節(四三三一)

〔此の本「夏」を「真」字に誤る。誤刻で

うあろ〕

礼記檀弓

子夏問三年之喪節(四三三二)

礼記曾子問

「周人既卒哭而致事」、此襲鄭注。

子夏問於孔子曰記云周公相成王節（四三三）

禮記文王世子

王肅蓋因禮記曾子問後、即繼以文王世子、遂撰為子夏問語、而牽連及之。

子夏問於孔子曰居君之母與妻之喪節（四三四）〔此の本文「夏」を「貢」に誤る〕

撮合禮記檀弓・雜記二條為一。

子夏問於夫子曰凡喪小功已上節（四三五）

禮記雜記

假為子夏問辭。

子夏問於孔子曰客至無所舍節（四三六）

論語・禮記檀弓

兼采禮器之文。

「夫仁者制禮者也」、此下皆與殯朋友之義無涉、蓋雜湊成篇耳。

孔子食於季氏節（四三七）

此撮合禮記玉藻・雜記二條為一。

子夏問曰官於大夫節（四三八）〔此の本「夏」又「貢」に誤る〕

禮記雜記

假為子夏問辭。

子貢問居父母之喪節（四三九）

禮記雜記

子貢問於孔子曰殷人既窆而弔於壙節（四三〇）

禮記檀弓・同坊記

假為子貢問辭。

「周以威吾從殷」、檀弓但云、「孔子善殷」、王肅合兩條為一。

以此對上文「殷以慤吾從周」耳。

子貢問曰聞諸晏子節（四三一）

禮記雜記有孔子稱少連大連善居喪語。此假為子貢問。

子游問曰諸侯之世子節（四三二）

禮記曾子問

孔子適衛遇旧館人之喪節（四三三）

禮記檀弓・論衡問孔篇

子路問於孔子曰魯大夫練而杖節（四三四）

荀子子道篇

叔孫武叔之母死節（四三五）

禮記檀弓但載「子游曰知禮」一語。鄭注嗤之、此乃撰為子

路孔子問答之辭。

齊晏桓子卒節（四三六）

〔春秋〕左襄十七年傳・晏子春秋雜上

季平子卒將以君之璵璠斂節（四三17）

此事見呂氏春秋〔孟冬紀〕安死篇。不云孔子為中都宰。

孔子之弟子琴張與宗魯友善節（四三18）

〔春秋〕左昭二十年傳

「孔子之弟子五字」、則王肅所增也。

邾人子蒲卒節（四三19）

此誤合禮記檀弓兩事為一。

公父文伯卒節（四三20）

國語魯語

子路與子羔仕於衛節（四三21）

〔春秋〕左哀十五年傳

「夫子哭之於中庭云云」、則襲禮記檀弓。

季桓子死魯大夫朝服而弔節（四三22）

禮記檀弓有「夫子曰始死羔裘元冠者易之而已羔裘元冠夫子

不以弔」語。王肅遂造一季桓子死魯大夫朝服、以弔事、而

假為子游問答、以正之。

子墨問於孔子曰始死之設重也何為節（四三23）

禮記檀弓

記設重喪朝殷周之異、而假為子墨問答也。

孔子之守狗死節（四三24）

禮記檀弓

曲禮公西赤問第四十四

公西赤問於孔子曰大夫以罪免節（四四1）

禮記王制正義引論語注云「大夫退死葬以士禮致仕以大夫禮

葬」、蓋康成語、而王肅襲之、假為公西赤問答之辭。

公義仲子嫡子死而立其弟節（四四2）

禮記檀弓

孔子之母既喪節（四四3）

禮記檀弓

孔子有母之喪節（四四4）

顏回死魯定公弔焉節（四四5）

原思言於曾子曰節（四四6）

禮記檀弓

子游問於孔子曰葬者塗車芻靈節（四四7）

禮記檀弓「塗車芻靈自古有之」二句、亦孔子之語。此假為

子游問辭。

顏淵之喪既祥節（四四8）

礼記檀弓

孔子嘗奉薦而進節（四四九）

礼記祭義

子路為季氏宰節（四四一〇）

礼記礼器

衛莊公之反國節（四四一一）

因礼記郊特牲有「孔子曰繹之於庫門内祊之於東方朝市之於

西方失之矣」語、而撰為莊公事。

季桓子將祭節（四四一二）

公父文伯之母節（四四一三）

国語魯語

季康子朝服以縞節（四四一四）

礼記玉藻「朝服之以縞也自季康子始也」、此乃撰為曾子問

荅之辭。

孫氏が検証するところに拠れば、王肅が勦竊襲用する經史子

旧籍は、尚書大伝・詩毛伝・韓詩外伝・儀礼・礼記・大戴礼・

春秋左氏伝・公羊伝・何休公羊伝注・穀梁伝・春秋繁露・論語

・孟子・趙岐孟子注・史記・漢書・国語・吳越春秋・越絶書・

荀子・賈誼新書・新序・説苑・韓非子・墨子・尸子・呂氏春秋

・淮南子・白虎通・論衡・莊子・列子であり、就中、礼記・大

戴礼・春秋左伝・史記・荀子・新序・説苑からの勦襲がはなは

だ多い。更に当今伝存する古籍に照らしてもなお其の来歴が詳

らかでない辞句文章、例えば、顔回篇諸節の如きに就いても、

「蓋王肅所拠先秦諸子書、今已亡佚矣」と、尚、亦現存諸古籍

とは別に勦襲依拠せる諸子書の存在したことを推量している。

要するに、現行家語は全て王肅が偽撰私定した偽書として漢書

芸文志著録の所謂古家語の片鱗をも認めないのが、孫氏の見解

であり、本考証は、その立証を企図して撰述されたものである。

孫氏は王肅家語偽撰の痕跡を完膚無きまでに顕然たらしめ、

また鄭玄經説と乖反する文辞の多くに就いては有心立異の捏造

改竄と看做し、誣聖背經の驕行として指斥する。しかし、一方

で、例えば觀周篇孔子觀乎明堂節（一一三）「有周公相成王、抱

之負斧扆、南面以朝諸侯之凶焉」句下の「世之博学者謂、周公

便履天子之位。失之遠矣」との王肅注に就いて「此駭鄭康成礼

記明堂位注。明堂位云、天子負斧依南鄉而立。天子本指成王。

鄭注乃云天子周公也。其説固謬。世之為鄭學者乃并周公撰王位

及郊祭六天之説而信之。嗚呼、何其蔽也。予謂、王肅偽撰家語、

以駭康成、固不足信。然其糾正此二事、實為古今篤論。非馬昭

之徒所及」と論ずるが如き、鄭説を却け、王説称揚の考論が見えること、また看過されてはならないところであろう。

本考証に於いて参考引用される諸書並に諸家注説を載げておく。書名等の下()に、引用箇所を篇・節の順次で示した。

易(鄭(玄)詩箋引)(二二)、王弼周易同人注(二〇六)

商書(呂氏春秋論大覽引)(三四二)、書序(七五)、尚書(周書)

無逸篇(四一19)、偽古文尚書(夏書)五子之歌(八18、四一16)、

同(商書)太甲中(四四3)、同(商書)咸有一德(三四二)、同(商

書)說命(一九1、四一19)、同(周書)旅獒(一六3)、異義古

尚書說(公羊隱元年伝疏引)(三三二)、偽古文尚書(商書)咸有一

德伝(三四二)、同(周書)旅獒伝(八14)、同(周書)洛誥伝(三

二、三三二)、鄭(玄)(尚書金縢)注(礼記文王世子正義引)(三

三二)

尚書大伝(三、七5、一〇10、四一19)、近刻大伝(三八子貢)

詩(国風召南)標有梅(二六1)、同(小雅四月)(一四1)、同(大

雅下武)(一一)、詩(淮南子繆稱訓引)(一一)、(詩)定本(一一)、

詩(左襄二十一年伝叔向引)(一九8)、鄭康成(玄)詩譜(經典)

积文引)(三八卜商)、鄭(玄)詩箋(一四1、二七2)、詩譜序

(三九2)

韓詩外伝(漢書王吉伝注引)(三八曾參)、同(陽湖趙翼陔余叢考引)(二二5)、同(七5、九9、一三4、二二8、三五3)

周礼(地官)媒氏(二六1)、同(春官)司服(二九)

儀礼士虞礼(四四3)、鄭(玄)儀礼士喪礼注(四〇4)

礼記檀弓(一一、一二、一五5、二三、三八高柴・顔幸、四一19、

四二9 12 28、四三18 22、四四3)、同(王制)(三四2、四一6)、

同(曾子問)(一一1)、同(礼運)(六2)、同(礼器)(三四2、三九2)、

同(郊特牲)(二九、四四5 11 12)、同(玉藻)(三三2)、同(明堂位

(一一3)、同(喪服小記)(三四2)、同(雜記)(二〇4、四三2 11 16、

四四5)、同(坊記)(四一19)、礼記(文選謝宣遠張子房詩注引)(四

一13)、同(文選潘元茂冊魏公九錫文注引)(四一13)、同(後漢書

馬融伝注)(三五3)、礼記(古本)(六2)、唐石經礼記(四一13)、

鄭康成(玄)礼記檀弓注(四二9 11 15、四三15、四四6)、同(王制

注)(三一1、三四2)、同(曾子問注)(四三12)、同(礼運注)(三二)

同(郊特牲注)(二九、四四11)、同(玉藻注)(三三2)、同(明堂位注

(一一3)、同(喪服小記注)(三四2)、同(樂記注)(三五2 3)、同

祭義注(二七3、四一25)、同(孔子問居注)(二七2)、同(坊記注

(四一19)、同(中庸注)(一七1)、同(儒行注)(五)、同(射義注)(一

八一)、同(聘義注)(三六一)

夏小正(二六1)、大戴禮保傅篇(三八叔仲舍)、同帝繫篇(二
三)、盧弁大戴禮記衛將軍文子注(一二二)、同公冠篇注(三三三)
〔春秋〕左文二年傳(二八4)、同宣九年傳(一九7)、同成十七
年傳(四一22)、同襄二十三年傳(一八4)、同左昭四年傳(四
一11)、同左昭八年傳(二三三)、同定元年傳(一二2)、同定十二
年傳(一4)、同哀十一年傳(三八樊須)、同哀十四年傳(三九
2)、同哀十五年傳(三七2)、同哀十六年傳(四〇1)、同僖二
十五年傳(國語晉語韋昭注引)(二三三)、唐石經左傳(一六4)、杜
預〔春秋〕左桓六年傳注(三九1)、同僖五年傳注(二二5)、同
宣十二年傳注(一四1)、同襄十七年傳注(四三16)、同襄二十
一年傳注(一九8)、同昭七年傳注(三九1)、同昭十二年傳注
(四一7)、同定十年傳注(一3)、同哀十二年傳注(一六8)、
同哀十四年傳注(一六10)、同哀十六年傳注(四〇1)、杜預左
傳序(三九2)、賈逵·鄭衆注左傳(三八琴牢)

〔玄〕注(九9)、緯書鉤命決(三四2)
論語〔為政篇〕(三九2)、同〔公冶長篇〕(三八公冶長)、同〔雍
也篇〕(二五1)、同〔子罕篇〕(三八琴牢)、同〔鄉黨篇〕(一七
1)、同〔子路篇〕(三九2)、同〔陽貨篇〕(一八7)、同〔鄉黨篇〕
〔說文引〕(171)、鄭〔玄〕論語〔子罕篇〕注(三八琴牢)、同〔鄉
黨篇〕注〔論語集解引〕(四二6)、包咸論語〔子張篇〕注(八14)、
王弼論語〔鄉黨篇〕〔注〕(四二6)、皇侃論語疏(二二5)、論語
注〔檀弓正義引〕(二二5)、同注〔王制正義引〕(四四1)
孟子〔滕文公下〕(三七4)、同〔萬章下〕(四一6)、同〔尽心下〕
(三八琴牢)、趙岐孟子〔尽心下〕注(三八琴牢)、同〔尽心下〕注
(八14)
爾雅〔天〕(三三)、同〔積中〕(一七1)、同〔積魚〕(三七5)、監
本爾雅(三三)、小爾雅(八14)、廣雅〔積室〕(三四2)
倉頡篇〔文選注引〕(二五2)、說文(一七1、二五2、三七5)、
玉篇(二五2)
史記五帝本紀(二三)、同殷本紀(七5、三九2)、同周本紀
(二〇10、三五3)、同〔十二諸侯〕年表(二三8)、同高祖功臣
表(後序)、同魯世家(四一19)、同宋世家(三九1)、同孔子世
家(一一、二一、一一一、二二5、四〇12、四三17、四四4、

後序)、同仲尼弟子列傳(二四5、一九9、三八)、李斯上秦二世書(三八宰予)

漢書人表(二五13、三五1、三九1、四二11)、同五行志(七5、一六3、四〇2)、同芸文志(後序)、同賈誼傳(三八叔仲會)、同梅福傳(三八顏由)、同霍光傳(一一3)、同韋元成傳(三四3)、同孔光傳(後序)、同貨殖傳(三八子貢)

後漢書章帝紀(三八顏由)、同樊準傳(三八顏由)、同儒林傳(衛宏)(三八卜商)、統漢書郡國志(三八顏由)

蜀志譙周傳(四〇1)
宋書(王淮之傳)(四四3)

南史王淮之傳(四四3)、同祖沖之傳(九4)

北史李崇傳(二六2)

隋書經籍志(三八卜商、後序)

漢記尹敏傳(顏師古漢書芸文志注引)(後序)

荀悅漢紀(後序)

國語周語(四一11)、同晉語(二三)、鄭司農(衆)同注(四一11)、

韋昭魯語注(四三20)

國策宋策(七5)

逸周書史記解(二三)

世本(檀弓疏引)(三四1)

晏子春秋問下篇(九3)、同雜上篇(二五16)

魯先賢傳(廣韻引)(三九1)

列女傳(四三12)

水經注汶水篇云郡國志曰(一一)

集語(七5)

子思子(意林)(一〇14)

荀子仲尼篇(三七1)、同性惡篇(一五15)、同大略篇(一五16、

二六1)、同宥坐篇(二1)、同子道篇(九9)、同法行篇(九1、

一三4)、同哀公篇(三)

孔叢子雜訓篇(四二32)、同記問篇(一六10、二二2)

賈誼新書保傳篇(三八叔仲會)

鹽鐵論刑德篇(四二6)

新序雜事第四(七5)

說苑君道篇(七5、一〇10)、同政理篇(二三11、一九4)、同

正諫篇(一四4、三八宰予)、同敬慎篇(七5)、同權謀篇(一

五4、二二2)、同指武篇(二1)、同談叢篇(一〇14)

徐幹中論覈弁篇(一八7)、同慎所從篇(一八6)

韓非子難言篇(三八宰予)、同說林下(二四3)

司馬法(一〇五)、同周官司右鄭〔玄〕注引(一〇五)

尹文子(孔子集語引)(二一)

近刻尸子仁意篇(三五二)

呂氏春秋〔季春紀〕先己篇(一三三〇)、同〔季夏紀〕制樂篇(七五)、

同〔孟冬紀〕安死篇(四三三七)、同〔審分覽〕慎勢篇(三八宰予)、

同〔離俗覽〕適威篇(一八一)、高誘呂氏春秋慎大覽注(三五

3)

淮南子主術訓(一一三、三五一)、同汜論訓(二一、一五九、

四三二)、同說林訓(八八)、同人間訓(三八宰予)、高誘淮南

子精神訓注(三八顏回)、同主術訓注(三五一)

顏氏家訓後娶篇(三八曾參)、同書証篇(三八必不齊)

白虎通誅伐篇(一一)、同諫諍篇(三八曾參)、同喪服篇(四四三)

論衡超奇篇(三九二)、同明雩篇(三八巫馬期)、同遭虎篇(四

一三)、同定賢篇(三九二)

〔劉孝標〕世說〔新語〕汰侈篇注(三八顏回)

列子黃帝篇(八四)、同說符篇(八四)

莊子天道篇(三九二)、同天運篇(一一一)、同秋水篇(二二五)、

同達生篇(八四、一八一)、同則陽篇(三八琴牢)、同積文引司

馬彪云(二二五、三八琴牢)

王逸〔楚辭〕大招注(八四)

昭明文選(三八卜商)

鄭發墨守(禮記正義引)(一一三)、鄭康成〔玄〕云(史記集解引)

(三八公孫竜)

服虔說(春秋)左昭十四年伝正義引(四一九)、同云(左昭廿九

年伝正義引)(四一五)、同云(左哀十四年伝正義引)(一六〇)

熊氏〔安生〕云(禮記禮運正義引)(六二)

王肅聖証論(偽古文尚書旅獒正義引)(八四)、同(禮記王制正義

引)(三四二)、同(禮記禮運正義引)(三三)、同(禮記郊特牲正

義引)(二四、二九)、王肅云(書舜典積文引)(二四)、同(史記

集解引)(二二九)

馬昭申鄭(禮記祭義正義引)(一七三)、同(禮記樂記正義引)(三

五三)、馬昭曰(周禮〔地官〕媒氏疏引)(二六一)、同云(禮記

樂記正義引)(三五二)

張融云(禮記祭義正義引)(一七三)

王劭云(史記〔仲尼弟子列伝〕索隱引)(三七二)

〔孔穎達〕周易同人正義(一〇六)

〔孔穎達〕書〔商書〕微子正義(三九一)、同(周書)洛誥正義

(三三二)、梅賾論偽古文尚書(一七一)

陸德明詩積文(三八卜商)、「孔穎達」詩「大雅」綿正義(四四
11)、同「大雅下武」正義(一一二)、朱子「詩經」集注(一一二)
朱子詩傳(一一四一)、王應麟詩攷(一〇二〇、一一二)

賈公彥周禮「地官」媒氏疏(二六一)

賈公彥儀禮目錄疏(三三三)、同士冠禮疏(三九一)、同士喪禮

疏(四〇四)

陸德明禮記王制積文(三一一)、同明堂位積文(一一三)、同

「哀公問」積文(六一)、「孔穎達」禮記檀弓正義(四〇一、四二五、

四四三)、同王制正義(三四二)、同曾子問正義(四三二、四三二、

同文王世子正義(三三二)、同禮運正義(六二、三三二)、同郊特

牲正義(二四、二九、三三二)、同明堂位正義(三三二)、同樂

記正義(三五二、三)、同祭義正義(一七三、四四九)、同坊記正

義(四一、一九)、同儒行正義(五)、同鄉飲酒義正義(二八二)、陳

澹「雲莊札記」集說(五、三三、三六二、四二九)、陳祥道禮

書(二四)

「陸德明」「春秋左氏」積文(一九八、四一四)、「孔穎達」「春

秋」左桓六年傳正義(三九一)、同襄十七年傳正義(四三六)、同

襄廿九年傳正義(三九二)、同昭十三年傳正義(四一一)、同昭

十四年傳正義(四一九)、同昭廿九年傳正義(四一五)、同定元

年傳正義(一二二)、同哀六年傳正義(四一六)、同哀十二年傳正

義(一六八)、同哀十三年傳正義(一六九)、同哀十四年傳正義

(一六〇、四一八)、「程公說」春秋分記(三三一)

「邢昺」孝經疏(九九、三九一)

朱子中庸「章句」(一七一)

「陸德明」論語「鄉黨篇」積文(四二六)、邢「昺」同「憲問篇」

疏(三八必不齊、四一、一九)、「朱子論語雍也篇」集注(三八冉雍、

王若虛論語弁惑(二一、一九九)

朱子孟子集注(二二九)

廣韻(二八一、三八宰父·穰駟赤·左郢·步叔乘·右作蜀)

司馬貞史記「孔子世家」索隱(一一、一六三、一〇、二二五、四四四、

同「仲尼弟子列傳」索隱(三七二、三八)、「張守節」史記「仲尼弟

子列傳」正義(三八公孫龍)

顏師古漢書「古今」人表注(三九一)、同芸文志注(後序)、同

梅福傳注(三八顏由)

「李賢」後漢書鄧曄傳注(三八曾參)、同樊準傳注(三八顏由)、

同馬融傳注(三五三)

五代史馮道傳(四〇一)

宋史咸淳詔(三八奚箴)

- 古史(三七二、三九一)、同注(三九一)
- 路史發揮(四〇二)、羅莘路史後紀注(二三三)
- 吳師道戰國策宋策注(七五)
- 余知古渚宮旧事(一四四)
- 歐陽士秀孔子世家補(一一四、四一五、四二一)
- 史通疑古篇(三三)、同申左篇(四二〇)
- 白水蒼頡廟碑陰(三八曾參)
- 楊倞荀子大略篇注(一五16、二六1)、同哀公篇注(三、一〇12)
- 朱子語錄(二〇一)
- 洪邁容齋隨筆(三八巫馬期)、同三筆(一五10)
- 葉大慶攷古質義(一五16、二四)
- 劉美中「才邵」(四〇一)
- 王應麟困學紀聞(五、九4、一〇1、三〇3、三五1、三八申續)、
- 沈括(一七1)
- 章如愚山堂考索(一4)
- 意林(一〇14)
- 〔陸德明〕莊子釈文(一八1)
- 文選弁命論注(三八顔回)
- 陸粲曰(朱鶴齡讀左日抄引)(三九1)
- 楊慎曰(一九4)
- 陳幾亭曰(閻若璩四書積地又統引)(二1)
- 閻若璩尚書古文疏証(後序)
- 万斯大学礼質疑(二四)
- 朱鶴齡讀左日抄(三九1)
- 毛奇齡論語稽求篇(三八顔回)、同四書廣言(後序)、閻若璩四書積地統(二二9、三九1)、同又統(二1、三五1、三八顔由)、同三統(三八漆雕開)、翟氏灝四書攷異(三八顔回)
- 邵泰衢史記疑問(三八顔刻)
- 錢大昕「漢書人表」考異(一五3)
- 孔繼汾闕里文献考(後序)
- 顧炎武日知錄(一七3、三七2)
- 朱彝尊「孔子弟子」考(三八叔仲会·步叔乘)
- 全祖望經史問答(二〇2、二〇1、三八顔回)
- 錢氏大昕跋元至順二年加封孔子父母及夫人并官氏詔(三九1)
- 馮氏景解春集(三九1)
- 仁和杭氏世駿曰(二四)
- 余姚盧氏文弨曰(校·云·說)(三、五1、八18、一〇513)

1415、一五16、一九8、三一1、四〇1、四一17)

婦安丁氏杰曰(二六2、三八漆雕開)

海寧陳氏鱣云(六一、二五2)

仁和梁氏玉繩曰(一三8、二〇4、二九、三三2、三八顏刻、三九1)

蕭山徐氏鯤曰(三二、三七2、四四5、後序)

引拠該博、實に清朝考証家の面目躍如たる論証である。就中、著者との交遊が認められる抗世駿・盧文弨・丁杰・陳鱣・梁玉繩・徐鯤諸氏の校語並に注説は、他書には見えぬもので注目を要しよう。

尚、著者は所謂『偽古文尚書』及び『孔伝』を『家語』と同じく王肅の偽撰と看做し、本書に於て其証四点を指摘する。『偽書』『孔伝』王肅偽撰説は後年、丁晏『尚書余論』によつて詳細に論証されるが、乾隆嘉慶年間既に、惠棟『古文尚書考』、戴震『經考』、李惇『群經識小録』、劉端臨『漢学拾遺』、王鳴盛『尚書後案』、江声『尚書集注音疏』等が主張称道したところである(蔣善国『尚書綜述』一九八八年 上海古籍出版社、山本証道「尚書孔伝の研究」支那学第九卷二号参照)。此れら乾嘉間の諸儒の中にあつて、孫志祖もまた王肅偽撰説を持してい

た事実が、本書に拠つて明らかである。此処に孫氏が挙げる四証を記し孫氏所説を顯彰しておくことは、学史の一端を追認する所為として無益ではないであらう。

一は、致思第八孔子自衛反魯節、「有懸水三十仞」句下の案語、

〔王肅〕注「八尺曰仞」。偽古文尚書旅葵「為山九仞」伝亦然。正義曰「王肅聖証論及注家語皆云八尺曰仞、与孔義同、鄭元云七尺曰仞、与孔義異」。愚疑偽孔伝与家語竝出王肅之手、此亦其一証。趙岐孟子注作八尺。包咸論語注、王逸大招注並作七尺。小爾雅云四尺謂之仞。

一は、冠頌第三十三懿子曰天子未冠即位節、「武王崩成王年十有三而嗣立」句下の案語、

案書洛誥「朕復子明辟」偽孔伝云「成王年二十成人、故必歸政而退老」、正義曰「武王崩時成王年已十三、周公攝政七年、成王適滿二十、孔於此言成王年二十、則其義如王肅也」。志祖案此亦偽孔伝与家語竝出王肅之一証。

一は、廟制第三十四子羔曰敢問尊卑上下立廟之制節、「是故天子立七廟」句下の案語、

案呂氏春秋論大覽引商書曰「五世之廟可以觀怪、万夫之長可以生謀」、捩緯書鈞命決云「殷五廟、至子孫六」。此引逸書、

蓋在湯時、故云「五世之廟」。偽古文咸有一德乃改為「七世之廟可以觀德」、伝云「天子立七廟、有德之王、則為宗祖、其廟不毀、故可觀德」、与爾所言無不照合。予故疑二書之出於一手也。広雅積室云「廟天子五」。

一は、曲礼公西赤問第四十四孔子之母既喪節、「十日過禫而成笙歌」句下の案語、

案三年之喪、鄭康成主二十七月、王肅主二十五月。蓋鄭以祥禫間月、王以祥禫同月也。(略)王肅既創為短喪之說、竟於家語襲礼記「孔子既祥五日、彈琴而不成声、十日而成笙歌」語、復増「過禫」二字、以曲証其祥禫同月之說、何其妄也。

書偽古文太甲中孔伝、亦主二十五月之說。疑爾一人所作。

以上が、『偽孔伝』王肅偽撰説に就いて孫氏挙げるところの四証である。また『偽古文尚書』説命篇の「木受繩則正人受諫則聖」の句及び同じく旅獒篇の「昔武王克商通道於九夷百蛮」の句兩句は、それぞれ『家語』の子路初見第十九子路初見孔子節、弁物第十六季桓子穿井節の同句より出たものであるとの指摘がみえ、上述の第三証と合せ考えれば、『偽古文尚書』もまた王肅偽撰と看做す孫氏の立場が明らかであろう。なおまた、『孔叢子』に就いて、弁物第十六叔孫氏之車士日子

鉅商節「棄之於郭外」句下に「孔叢子云棄之五父之衢、与家語合」と言い、また、困誓第二十二孔子自衛將入晉節「作樂操以哀之」句下に於て「記問篇載操辭、亦後人偽撰也」との語がみえるが、本書に於ては未だ、王肅偽撰とする明確な言辭は見出せない。しかしながら、後の撰著である『讀書脞録』卷四「孔叢子与家語合」に於て「志祖向疑孔伝家語孔叢子並出肅一人」と述べていることを参考すれば、『孔叢子』もまた王肅偽撰と疑っていた事実が判明する。且、考証立説するには至っていない。因に、『讀書脞録』卷四には「家語攷」「家語逸文」と題して小論二篇を収めている。

更に、敢て指摘しておきたいことは、本姓解第三十九孔子之先宋之後也節「孟皮一字伯尼」句下に於ける次の考論である。案近刻日本国古文孝経孔伝亦偽書也。首章伝云「仲尼之兄伯尼」、即剽竊家語為之。其文穴猥、蓋彼国人所偽造、又出王肅下矣。

「近刻日本国古文孝経孔伝」とは太宰春台の音校本をさすこと言うまでもない。「近刻」とは乾隆四一(一七七六)年刊行の『知不足齋叢書』第一集所収本であろう。当時の清儒の識見の一斑を示す所論としていささか留意を要しよう。

宋王柏の『家語考』にはじまる家語偽撰説は、本書に至って一応の収束をみ、ほぼ通説となったと言えよう。本書の学術上の意義は此の点に認められる。只、本考証に於て、必ずしも充全に先学攷究の成果が取り入れられていないとは言えない。孫氏は後に『七修類稿』によって王柏説の概略を知ることになるが（『読書脛録』巻四「家語攷」）、本書撰述時には、未だ関知也ざるところであった。また、陳士珂の『疏証』、或は、殆んど同趣旨の著述である范家相の『証偽』を目睹した形跡も窺えない。書中、杭世駿、梁玉繩の所論に触れる一方で、姚際恒、惠棟、戴震の偽撰説を知悉していたか否か明瞭でない（歴代の偽撰説に就いては、蔣善国『尚書綜述』へ上海古籍出版社 一九八八）第五編第二第三章式八三丁参照）。昔時の学术界に於ける狹隘な一面も窺える。

本書への反論も逸早く同じ漢学派の中から生まれている。式訓堂叢書本に附刻された錢馥跋文は、恐らく叢書收入再刊時に参考補入されたもので、孫氏論法への反駁を内容とする正論である。以下、その全文を掲しておきたい。私に句点を附贅した。

今所有家語四十四篇、世儒頗疑出於王肅、並非漢志二十七卷之旧。馥案、肅伝是書時、其二十七卷具在也。若判然不同、

則肅之書必不能行、即行矣、二十七卷者、必不至於泯沒也。惟增多十七篇、而二十七篇即在其中、故此伝而古本則逸耳。例之以古文尚書、当不謬也。況有馬昭之言足拠乎。仁和孫侍御旁搜博攷、作疏証六卷、断為王肅偽撰。然諸子伝説每多雷同、其見之荀子・呂覽者、復見之韓氏外伝・大戴礼記・劉氏説苑等比比也。則百家之書於詞、豈必已出哉。今凡家語之文之見於他説者、輒断為王肅剽竊、其不為直不疑之、金文錙鏘之牛也幾何矣。馥非朋於王也。欲持其論之平耳。更願与為鄭學者訂之。

武内義雄は、「読家語雜識」（全集第四卷所収）に於て此の跋文の前半の一部を引き、「その持論最も平正なるを覚ゆ。」と評言し、今の家語と古家語の関繋を次の如く論じて、後考究明すべき課題を提言している。

はたしてしからば、今の家語の中に王肅の増加する部分は大體荀子と一致する部分および礼説に関する部分なるべく、そのいはゆる礼説も後序に小戴を非難せると、鄭玄が小戴を注して王氏が鄭説に乖反する多きとより推せば、王肅がよれる礼説は小戴記にあらざして大戴礼記なるべし。従つて今の家語の中より、荀子および礼説の文と思しきものを刪去すれば、

その余は大體、古家語の文を材料として篇次を改め、私定を加へしものなるべし。孫志祖諸人は、独り荀子および礼説のみならず、説苑・史記等の諸書に符合する部分も王爾の撰ならんとするも、これらの部分は、説苑等がかへつて古家語の文を襲ふものなるべく、家語の文は、大略説苑等と合して、小異同あるところは王爾が古家語を点定せるか、あるひは説苑等の作者が損益せるかなるべく、これら類似の文を比較して考究すれば、古家語の一部は想見せらるべきに似たり。碩学の卓見として、爾後の家語研究の指針とならう。拳拳服膺すべき課題である。

孫志祖、字は詒穀(或は頤谷に作る)、約齋と号す。仁和(浙江杭州府)の人。五世の祖隆の代に余姚(浙江紹興府)より仁和に居を遷した。隆の子紹武に光祚、昶(雲南安寧州知州)の二子が知られ、昶の子庭蘭(湖南岳常澧道)に七子があり、志祖はその次子として、乾隆元(一七三六)年に生まれている。十八才で附生となり(学政雷鋌)、乾隆二一(一七五六)年丙子科の奉人(考官礼部侍郎莊存與)、同三二年丙戌科の進士出身、邢部山東主事に補せらる。同員外郎、雲南司郎中、欽差通州坐糧序を歴て、江南道監察御史に到る。四一年養婦を乞い、以後

再び出仕することなく、里にあって専ら研学著述に従事した。嘉慶六(一八〇一)年、阮元の聘に應じて紫陽書院の主講を勤めたが、同年二月二十九日疾を得て里第に卒した。錢林『文獻徵存録』卷四は嘉慶七年を卒年とする。享年六十五。妻は汪恭人。子無く長兄景曾の子同元を嗣子とした。同元は志祖の教導を受け、遺著を編刊して克く家学を伝え、『弟子職注』の著述が知られる。

志祖は弱年、毛奇齡(明天啓三(一六二二)年生、清康熙五五(一七一六)年歿)に私淑し、また全祖望(清康熙四四(一七〇五)年生、乾隆二〇(一七五五)年歿)、厲鶚(康熙三二(一六九二)年生、乾隆二七(一七六二)年歿)、杭世駿(康熙三五(一六九六)年生、乾隆三三(一七八三)年歿)、張燾(康熙四四(一七〇五)年生、乾隆一五(一七五〇)年歿)等浙中の宿学と往復質難して研鑽を積む。後年の著述にみられる考証家の面目は此の早年勉勵の時期に形成されたものであろう。盧文弨(康熙五六(一七一七)年生、乾隆六〇(一七九五)年歿)とは同郷であり親交篤く、文弨歿後は遺文を輯め、徐鯤等と『抱經堂文集』の編訂校刊を主導している。梁玉繩との交誼も『清白士集』に寄せた嘉慶五年十二月の序文に拠って明らかである。

著述の伝わるものは多くは無いが、管見に入れるものを掲しておく。

文選理字權輿八卷補一卷 清汪師韓撰 孫志祖注並補 清嘉

慶四(一七九九)序刊(石門顧氏) 読画齋叢書甲集所収

乾隆三十三年歲在旃蒙作詒月在則如錢塘九曜山人汪師韓
自序、文選理學權輿叙(嘉慶戊午(三)年季夏後學孫志祖)

文選考異四卷 清孫志祖輯 徐鯤校 清嘉慶四(一七九九)刊

(石門顧氏) 読画齋叢書甲集所収

文選考異序(仁和孫志祖識)

文選李注補正四卷 清孫志祖輯 徐鯤校 清嘉慶四(一七九九)

九)刊(石門顧氏) 読画齋叢書甲集所収

文選李注補正序(嘉慶戊午(三)年臘月二十日仁和孫志祖
撰)

読書脞録七卷統編四卷 清孫志祖撰 孫同元校(統)孫同元

編 清嘉慶四(一七九九)年・同七(一八〇二)年刊同一二

(一八〇七)年印(仁和孫氏)

清故江南道監察御史孫君志祖伝(陽湖孫星衍撰)、孫頤谷

侍御史伝(揚州阮元撰)、嘉慶十二年歲在丁卯春三月具郡

潘世恩序、「自序」(嘉慶己未(八)年)六月朔日仁和孫志

祖識於梅東書屋)、「跋」(壬戌(嘉慶七年)四月朔日男同元

泣識)

同七卷 清光緒一三(一八八七)刊(醉六堂) 覆清嘉慶四年

刊本

同二卷統編二卷(皇清經解卷四九一—四)〔清道光〕刊(〔広
東〕学海堂)

又 咸豐一〇(一八六〇)年修(〔広東〕学海堂)

ほかに『申鄭軒遺文』一卷があるが未見(張舜徽『清人文集

別録』卷八著録、「光緒十九年刻本」と)。なお、逸文を輯録増

補した『謝氏後漢書補逸』五卷(清姚之駟輯・孫志祖増訂、丁

氏善本書室鈔本、民国二〇年蓋山精舎影印本あり。また清孫峻

補訂の六卷清嘉慶一三年壽松堂孫氏刊本あり、『風俗通逸文』

一卷(盧文弨『群書拾補』に刊入)、及び子同元に属した『六

韜逸文』一卷(孫星衍『平津館叢書』に刊入)がある。また、

嘉慶四(一七九九)年序刊顧修編『読画齋叢書』の刊行に参画

し、徐鯤とともに校勘の任を努めた。

伝は孫星衍撰「清故江南道監察御史孫君志祖伝」(『読書脞録』

清嘉慶一二年印本首・『平津館文稿』卷下・『碑伝集』卷五七・

『国朝耆献類徴初編』卷一三七補録に収載)及び阮元撰「孫頤

谷御史伝」(『読書脞録』清嘉慶一二年印本首・『聖經室二集』卷

五・『碑伝集』卷五七・『国朝耆献類徴初編』卷一三七に収載)

を参照。ほかに『清史列伝』卷六八、『清史稿』卷四八一儒林

伝二、『国朝先正事略』卷三五（盧抱經先生事略に附伝）、『文獻徵存録』卷四等に略伝が見える。

清人の撰述にかかる注釈書は、勿論以上縷述してきた四種に止るものではない。管見の限りでは、『述記』所収の任兆麟選輯の『家語』がある。王肅注本の抽刻で、每半葉九行十七字、全て十五丁足らず、僅少の任氏の双注案語を含む。

孫志祖の「家語攷」〔『讀書陞録』卷四所収〕末の双注等に拠れば、陳厚耀（順治五^{一六四八}年生、康熙六^{一七二二}年歿）の注釈があると伝えるがその存否を詳らかにしない。

『叢書綜録』は清姜国伊撰『守中正齋叢書』（同治光緒間刊本）中に、姜国伊正本併補注『孔子家語』一〇卷（光緒二〇^{一八九四}年刊）を著録しているが、本邦に於てはその所在が知られず未だ実査する機会を得ない。

更に、台湾の国立中央図書館架蔵の、清張鈺撰『家語集註』存卷一至四〇、光緒一五年著者手定底稿本一二冊が知られているが、これまた調査に及べず遺憾に思う。

猶、近年、孫詒讓撰「孔子家語校記」〔『籀廬遺著輯存』（齊魯書社 一九八七）所収〕が公刊されたことに留目しておきた

い。沈文倬氏の前言に拠れば、杭州大学図書館所蔵孫氏遺書中の批校書汲古閣刊本家語二冊への孫氏校合書入（自筆及び令写の符箋を交える）を同大学語言文学研究室の孔鏡清氏が整理翻字された由である。書入の内容は、毛晋汲古閣旧蔵、肅穆蔵の所謂宋蜀刊大字本（本稿（一）199頁参照）及び『史記集解』『同索隱』所引の王注等との校勘である。斯かる所謂名家の批校本は、家語に限ってみても中国本土には相当数伝存しているようで、その充全且つ綿密な整理が順調に進められていることを慶ぶとともに、其の尋常でない尽力に対して敬意を表し、今後の成果を翹望する。

結 語

本稿は『孔子家語』現在伝本の博搜とその著録解題を企望したものであるが、当然のこととして、諸伝本を網羅出来たわけではない。本邦伝来の中国・朝鮮刊本及び近世諸儒撰述の未刊写本に限れば、叢書所収本を除いてはまず遺漏は尠いものと自負している。各所に散在する和刻本に就いては、往々先覚の書入を遺すが故に猶繼續して調査する必要がある。中国大陸・台湾所在本の調査は今後の懸案である。

摺筆するにあたり、一二提言付贅して結びに替えたい。

一は、テキスト整理の必要性に關してである。現行の王肅注本は、宋本系統の善本と目される〔元和〕古活字版、汲古閣刊本、所謂宋蜀刊大字本ですら偽脱を免れず、刊行に際して有意の臆改の個所が散在すること先学の縷々指摘する如くであり、諸テキスト間の異同は夥しい。王肅注本の原初の形に逼る為には、まず其の同異につき仔細な検討校勘の手續きを履むことが必須であること論を俟たない。此の校勘に當っては、宋刊本出現以前の形態を窺うテキストとしては敦煌写本の零卷及び『群書治要』所収の節略本以外に伝存しない現在、唐以前に成立した諸注釈に引かれた家語本文並に王肅注の条々を博搜集輯して対校に備える用意を欠かせない。本稿各処に於て言及した如く、先学も既に『五經正義』『史記集解』『同索隱』『文選注』『太平御賢』等所引の家語に着目し、部分的には校勘に依用してはいるが、体系的にテキスト整理を企図した業績は未だ皆無と言えらる。種々工具書が整備され、諸伝本の蒐集が従来になく容易である今日、此の校定の作業を進めるべき機は熟していると思われる。

いま一つには、先学の研鑽の足跡を辿り、その遺された注釈

論考を会萃考覈し組織的に系統立てる必要性を感じる。その為にはまず未刊写本の校刊、諸書入本の整理公刊の作業が、等閑に付すべからざる後学としての責務でもあろう。また、文集・雜記隨筆類に散見する関連論文の集成も為されなければならない。此の事を通して、現時点での研究の蓄積とその水準を見極めることは爾後の研究に多大の示唆を与えるはずである。

以上の基礎的研究を抜きにしては、家語研究の宿案である古家語今家語の問題或は王肅偽撰説、更には一字一句の解釈に就き、種々細々に論じ挙げては砂上の樓台を築く徒勞に終るを危懼するものである。

本調査に際して、御所蔵本の閲覽・複写に就き格別の御配慮を賜った諸図書館文庫及び関係者各位の御厚情に対して謹んで感謝の意を表する。また、本研究は、昭和五三―五五年度トヨタ財団の助成による故阿部隆一を代表とする共同研究「国書並漢籍総目録の編纂―その緒業としての部門別目録」の調査の一部であり、昭和五七年度及び平成元年度の両度に亘り、慶応義塾学事振興資金の研究費補助を受けたことを附記する。